

**「土庄町障害福祉計画（第6期）・
障害児福祉計画（第2期）」
策定のためのアンケート調査
結果報告書**

**令和2年12月
土庄町**

目次

I 調査概要	1
1 調査目的.....	1
2 調査設計.....	1
3 報告書の見方.....	1
II 調査の結果	2
1 回答者について.....	2
2 対象者の属性について.....	3
(1) 性別.....	3
(2) 年齢.....	4
(3) 居住地区.....	5
(4) 障がいの状況について.....	6
(5) 医療を受ける上で困っていること.....	11
(6) 介護保険の要介護認定及び介護保険サービスの利用の有無.....	13
(7) 現在の暮らしについて.....	15
3 困り事に対する相談について.....	24
(1) 現在の生活において困っていること.....	24
(2) 悩みや困ったことの相談先.....	26
(3) 障がい者福祉や生活に関する相談体制に関する要望.....	28
4 毎日の暮らしについて.....	30
(1) 日常生活における介助や支援の必要性.....	30
(2) 主な介助者と介助者の年齢や健康状態.....	33
(3) 主な介助者が不在の場合の対応.....	36
5 福祉サービスについて.....	38
(1) 障害支援区分の認定状況.....	38
(2) 現在利用している福祉サービスと今後利用したい福祉サービス.....	39
(3) 現在利用している地域生活支援事業と今後利用したい地域生活支援事業.....	42
6 情報収集について.....	45
(1) サービスに関する情報の入手先.....	45
7 保育・教育について.....	47
(1) お子さんの日中の主な過ごし方.....	47
(2) 通学状況.....	49
(3) 学校卒業後の進路.....	50
(4) 通園・通学で困っていること.....	51
8 雇用・就労について.....	53
(1) 現在の就労状況.....	53
(2) 就労していない理由.....	56
(3) 今後の就労意向.....	58

(4) 就労のために必要な支援.....	60
9 外出・移動支援について.....	62
(1) 外出の頻度.....	62
(2) 外出の目的.....	63
(3) 外出時の同伴者.....	65
(4) 外出時の交通手段.....	67
(5) 外出時に困ること.....	69
10 地域防災について.....	71
(1) 災害時の避難について.....	71
(2) 近隣援助者の有無.....	72
(3) 災害時に不安に思うこと.....	73
(4) 避難所に行った場合に困ること.....	75
11 あなたの権利について.....	77
(1) 障がい者差別について.....	77
(2) 現在利用している事業や制度と今後利用したい事業や制度.....	80
12 町への期待について.....	83
(1) 今後、町が力をいれるべき障がい者福祉の取組み.....	83
Ⅲ 自由意見.....	85

I 調査概要

1 調査目的

平成 29 年度に策定した「土庄町障害福祉計画（第 5 期）」および「土庄町障害児福祉計画（第 1 期）」の計画見直しの基礎資料とするために実施しました。

2 調査設計

(1) 調査対象

調査対象者	抽出方法
身体障害者手帳所持者、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳所持者	無作為抽出

(2) 実施期間 令和 2 年 11 月 18 日～12 月 4 日

(3) 調査方法 郵送による配布・回収

(4) 配布・回収状況

標本数	回収数	回収率
902	440	48.8%

3 報告書の見方

- (1) 基数となるべき実数は、(n=〇〇) と表示し、各比率はすべてを 100% として百分率で表し、小数点以下第 2 位を四捨五入して算出しました。そのために、百分率の合計が 100% にならないことがあります。
- (2) 質問文の中に、複数回答が可能な質問がありますが、その場合、回答の合計は調査数を上回る場合があります。
- (3) 図中の選択肢表記は、場合によっては語句を短縮・簡略化している場合があります。
- (4) グラフ中の数値が 0.0% の場合は、数値、選択肢等を表示させていない場合があります。
- (5) 身体・知的・精神の障がい別クロス集計では、手帳の複数所持者も含まれています。
また、手帳不明者のデータは省略しており、各障がい別の合計値は全体の合計値と合いません。

Ⅱ 調査の結果

1 回答者について

問1 この調査に回答していただく方はどなたですか。(〇は1つ)

【全体の傾向】

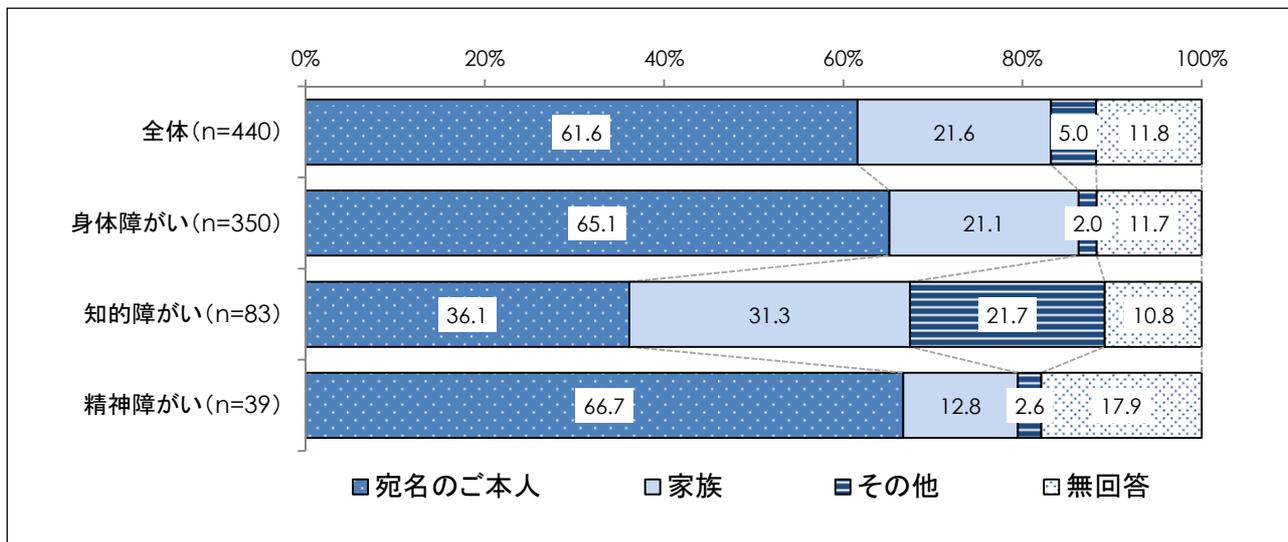
「宛名のご本人(代筆を含む)」(61.6%)が最も高く、次いで「家族」(21.6%)、「その他」(5.0%)となっています。

【属性別の傾向】

障がい別にみると、身体障がい、精神障がいでは「宛名のご本人(代筆を含む)」が6割を超えています。

また、知的障がいでは「宛名のご本人(代筆を含む)」(36.1%)が最も高く、一方で「家族」(31.3%)、「その他」(21.7%)も比較的高くなっています。

図表 1 回答者について (全体、障がい別)



2 対象者の属性について

(1) 性別

問2 あなた（宛名のご本人）の性別はどちらですか。（○は1つ）

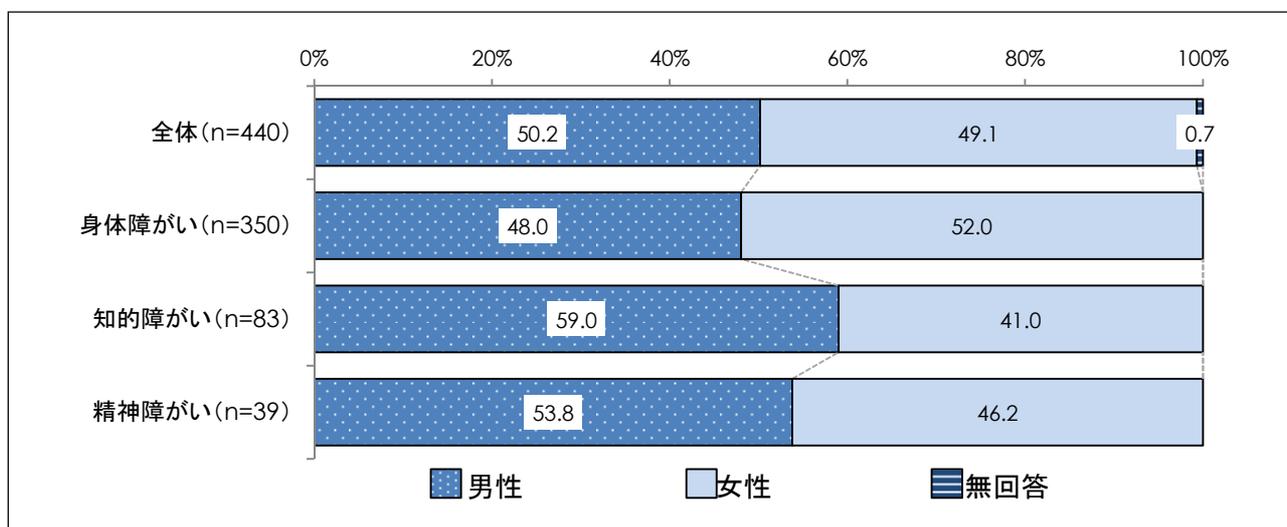
【全体の傾向】

性別についてたずねたところ、「女性」に比べ、「男性」の割合がやや高くなっています。

【属性別の傾向】

障がい別にみると、身体障がいでは「女性」が高く、知的障がい、精神障がいでは「男性」が高くなっています。

図表 2 本人の性別（全体、障がい別）



(2) 年齢

問3 あなたの年齢はおいくつですか。(令和2年11月1日現在の年齢を記入)

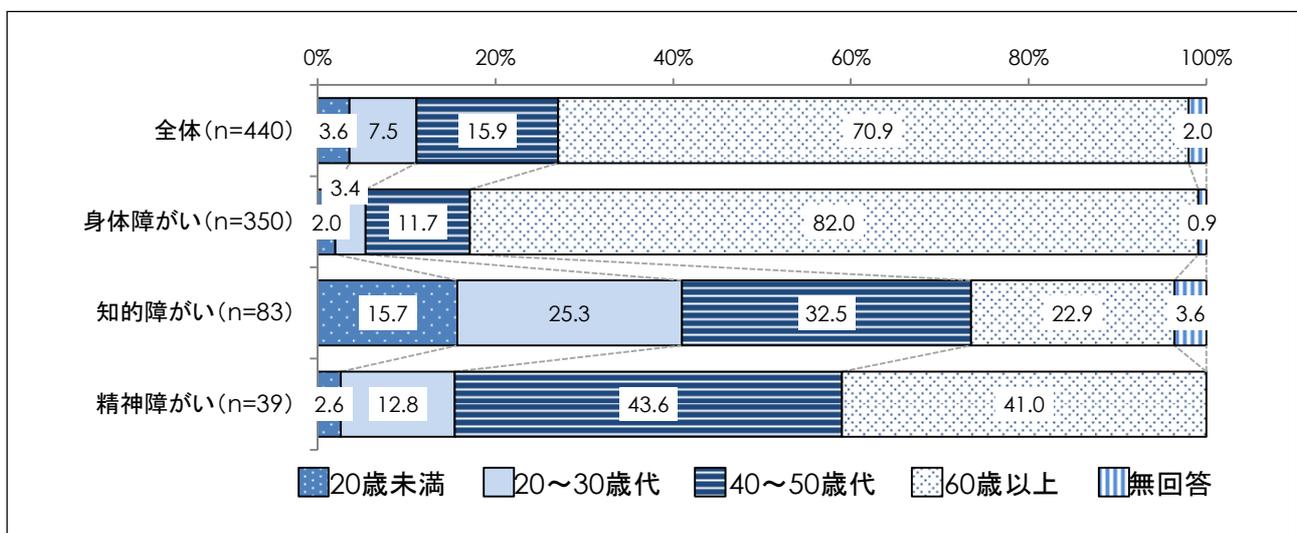
【全体の傾向】

年齢についてたずねたところ、「60歳以上」(70.9%)が最も高くなっています。

【属性別の傾向】

障がい別にみると、身体障がいでは「60歳以上」(82.0%)が8割を超えており、知的障がい、精神障がいでは「40～50歳代」が高くなっています。

図表3 本人の年齢(全体、障がい別)



(3) 居住地区

問4 あなたのお住まいはどちらの地区ですか。(〇は1つ)

【全体の傾向】

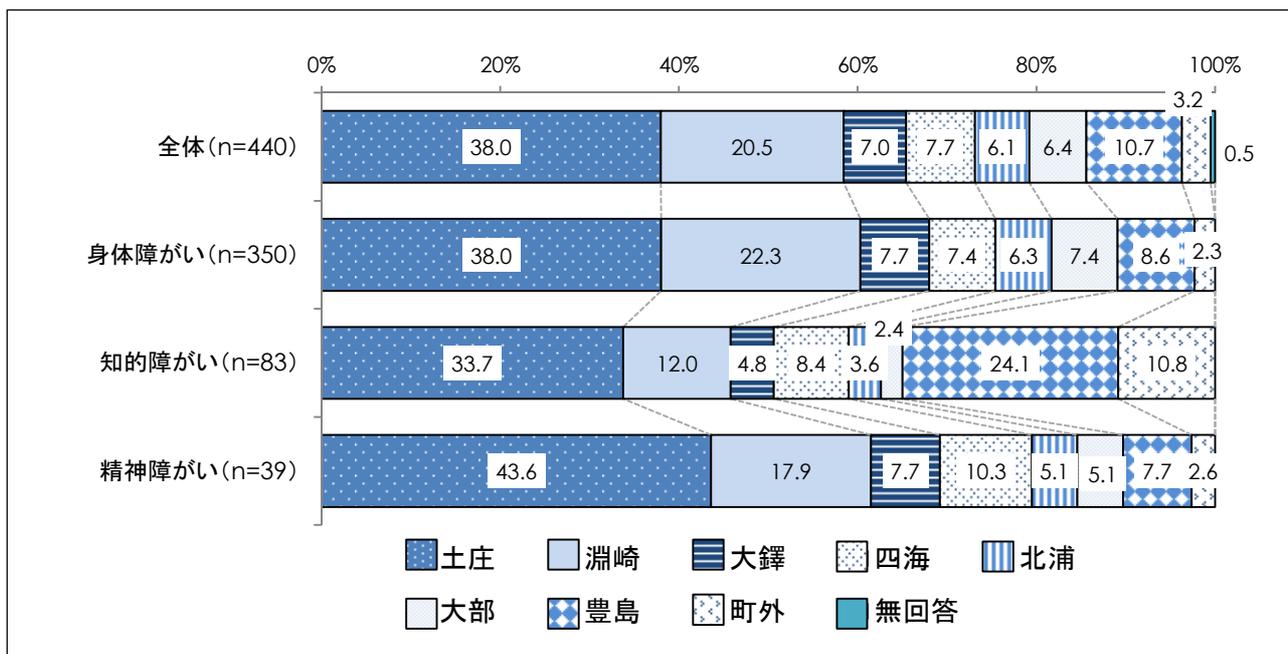
居住地区についてたずねたところ、「土庄」(38.0%)が最も高く、次いで「淵崎」(20.5%)、「豊島」(10.7%)、「四海」(7.7%)、「大鐸」(7.0%)、「大部」(6.4%)、「北浦」(6.1%)などとなっています。

【属性別の傾向】

障がい別にみると、「土庄」が最も高く、身体障がいでは38.0%、知的障がいでは33.7%、精神障がいでは43.6%となっています。

次いで、身体障がい、精神障がいでは「淵崎」、知的障がいでは「豊島」(24.1%)が高くなっています。

図表4 居住地区(全体、障がい別)



(4) 障がいの状況について

問5 あなたは、身体障害者手帳をお持ちですか。(〇は1つ)

問6 身体障害者手帳をお持ちの場合、主たる障がいをお答えください。(〇は1つ)

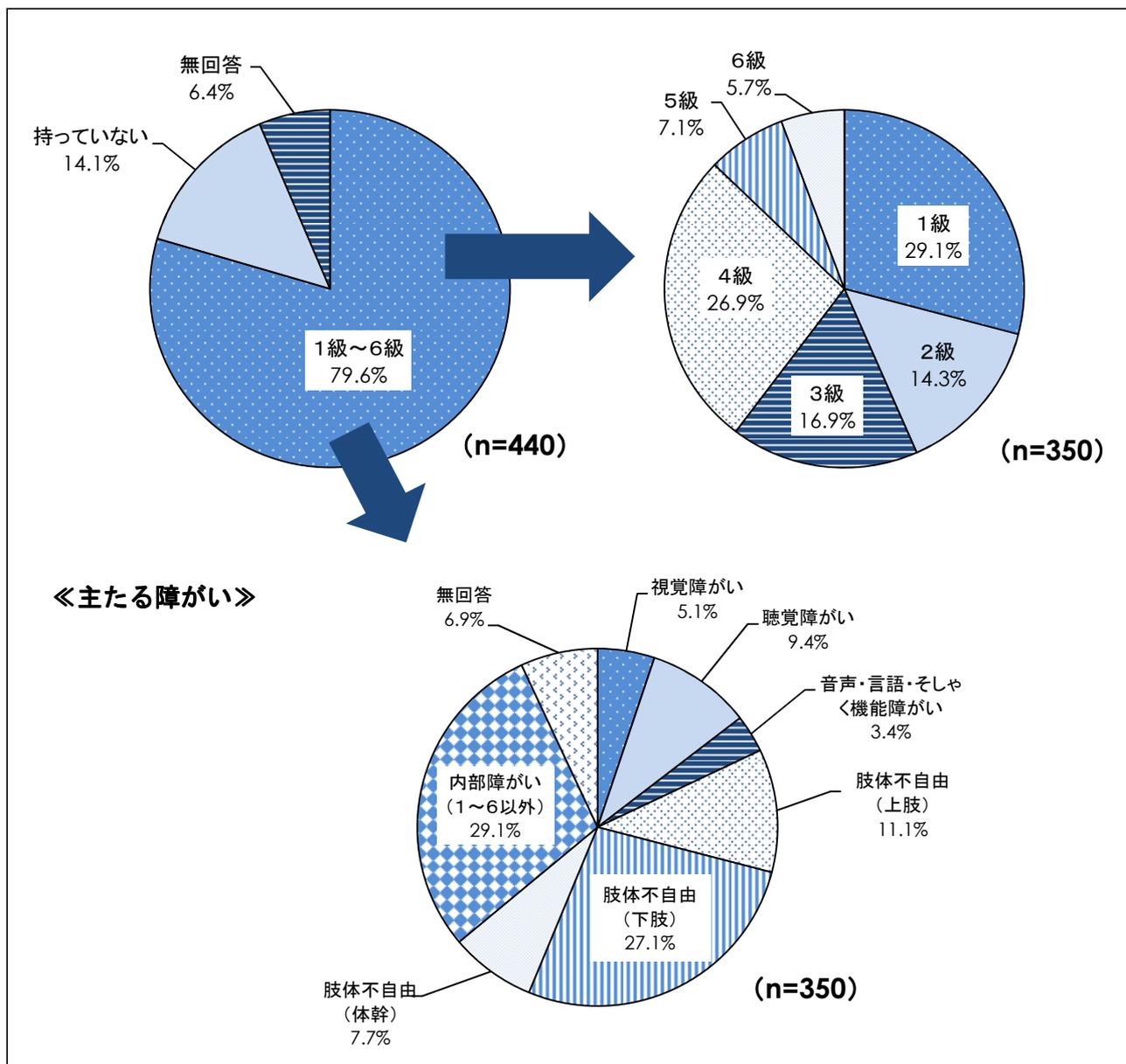
【全体の傾向】

身体障害者手帳の所持状況についてたずねたところ、「1級」～「6級」のいずれかを持っていると回答した人の合計は79.6%、「持っていない」は14.1%となっています。

また、身体障害者手帳を所持している人の級別の割合は、「1級」(29.1%)が最も高く、次いで「4級」(26.9%)、「3級」(16.9%)などとなっています。

また、主たる障がいについては、「内部障がい(1～6以外)」(29.1%)、「肢体不自由(下肢)」(27.1%)が主な障がいとなっており、その割合は突出しています。

図表5 身体障害者手帳の所持状況と主たる障がい(全体)

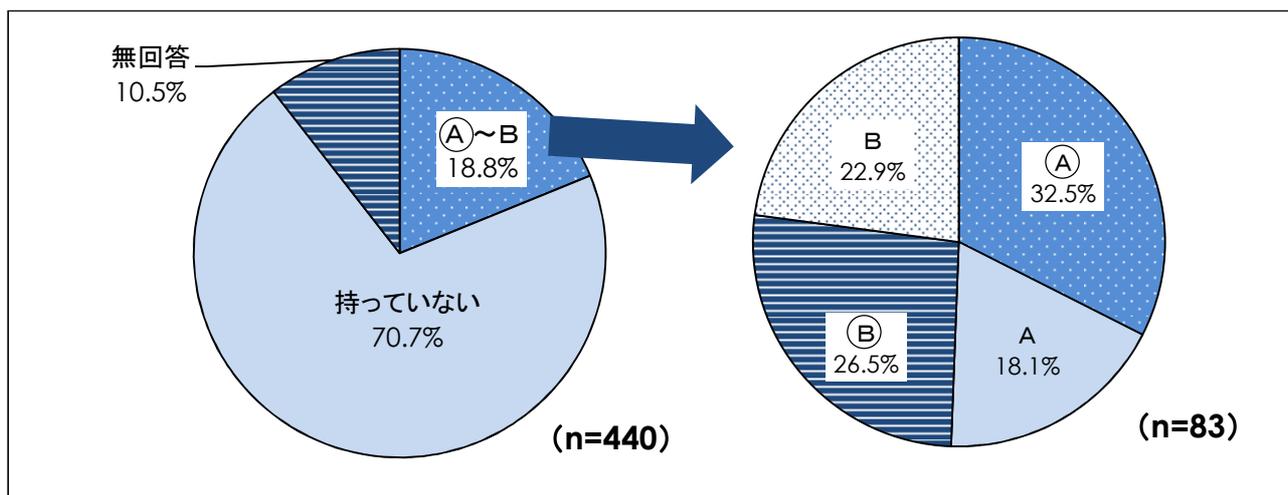


問7 あなたは、療育手帳をお持ちですか。(〇は1つ)

【全体の傾向】

療育手帳の所持状況についてたずねたところ、「A」～「B」のいずれかを持っていると回答した人の合計は 18.8%となっており、その内訳は、「A」(32.5%) が最も高く、次いで「B」(26.5%)、「B」(22.9%)、「A」(18.1%) となっています。

図表 6 療育手帳の所持状況 (全体)

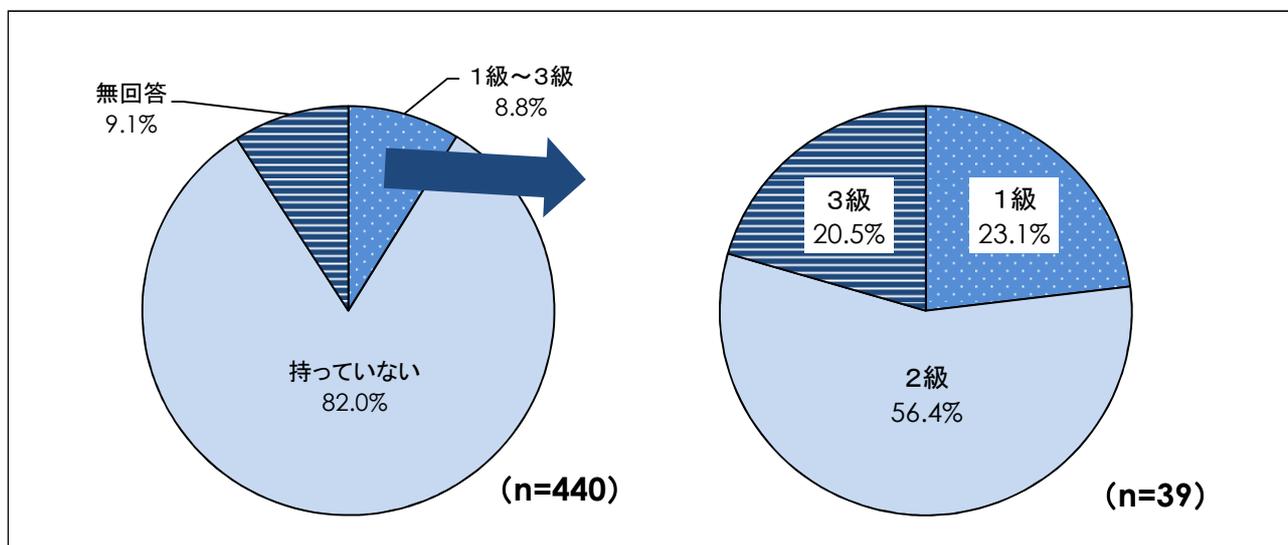


問8 あなたは、精神障害者保健福祉手帳をお持ちですか。(〇は1つ)

【全体の傾向】

精神障害者保健福祉手帳の所持状況についてたずねたところ、「1級」～「3級」のいずれかを持っていると回答した人の合計は 8.8%となっており、その内訳は「2級」(56.4%) が最も高く、次いで「1級」(23.1%)、「3級」(20.5%) となっています。

図表 7 精神障害者保健福祉手帳の所持状況 (全体)



問9 あなたは、難病（指定難病）の認定を受けていますか。（〇は1つ）

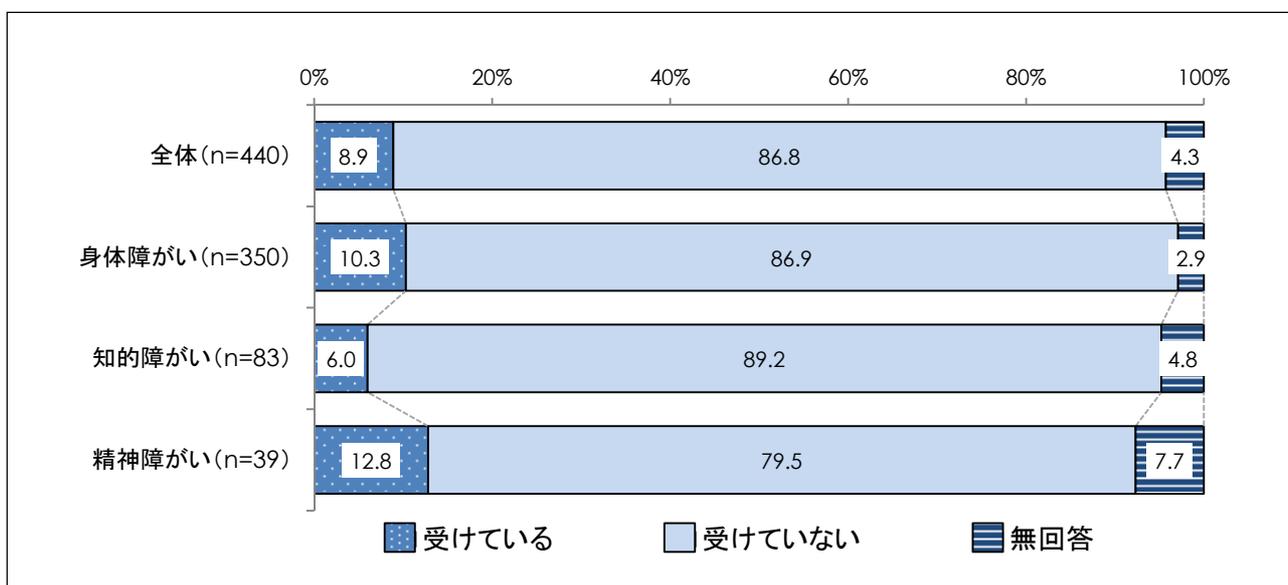
【全体の傾向】

難病の認定状況についてたずねたところ、「受けている」は 8.9%、「受けていない」が 86.8%となっています。

【属性別の傾向】

障がい別にみると、「受けている」の割合は、身体障がいでは 10.3%、精神障がいでは 12.8%となっており、知的障がいの 6.0%より高くなっています。

図表 8 難病の認定状況（全体、障がい別）



問 10 あなたは、発達障がいとして診断されたことがありますか。(〇は1つ)

【全体の傾向】

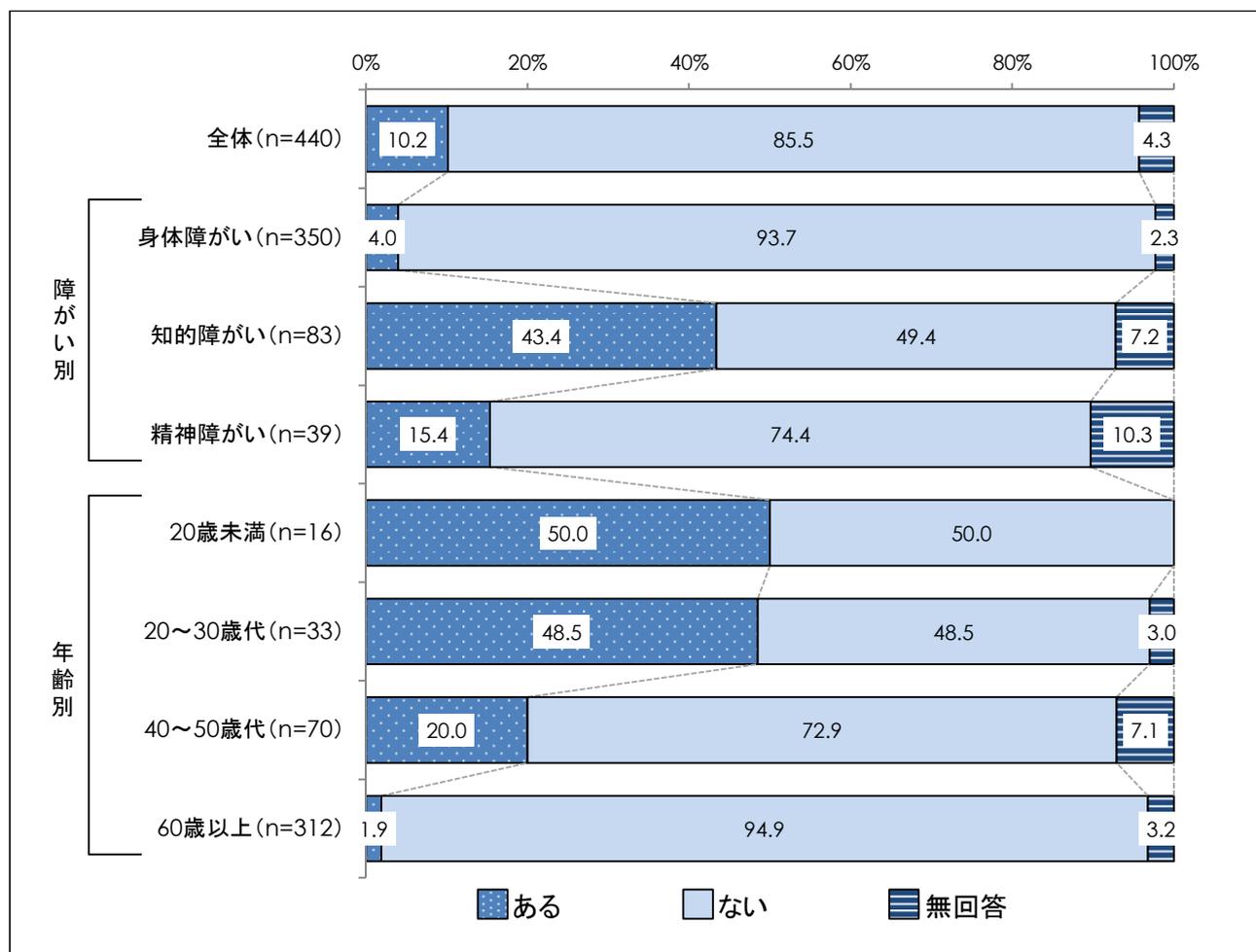
発達障がいの診断の有無についてたずねたところ、「ある」は10.2%、「ない」が85.5%となっています。

【属性別の傾向】

障がい別にみると、「ある」の割合は、身体障がいでは4.0%、精神障がいでは15.4%となっており、一方、知的障がいでは43.4%と身体障がい、精神障がいに比べて高くなっています。

年齢別にみると、「ある」の割合は、20歳未満では50.0%、20～30歳代では48.5%と比較的高くなっています。

図表 9 発達障がいの診断の有無（全体、障がい別、年齢別）



問 11 あなたは、高次脳機能障がいとして診断されたことがありますか。(〇は1つ)

【全体の傾向】

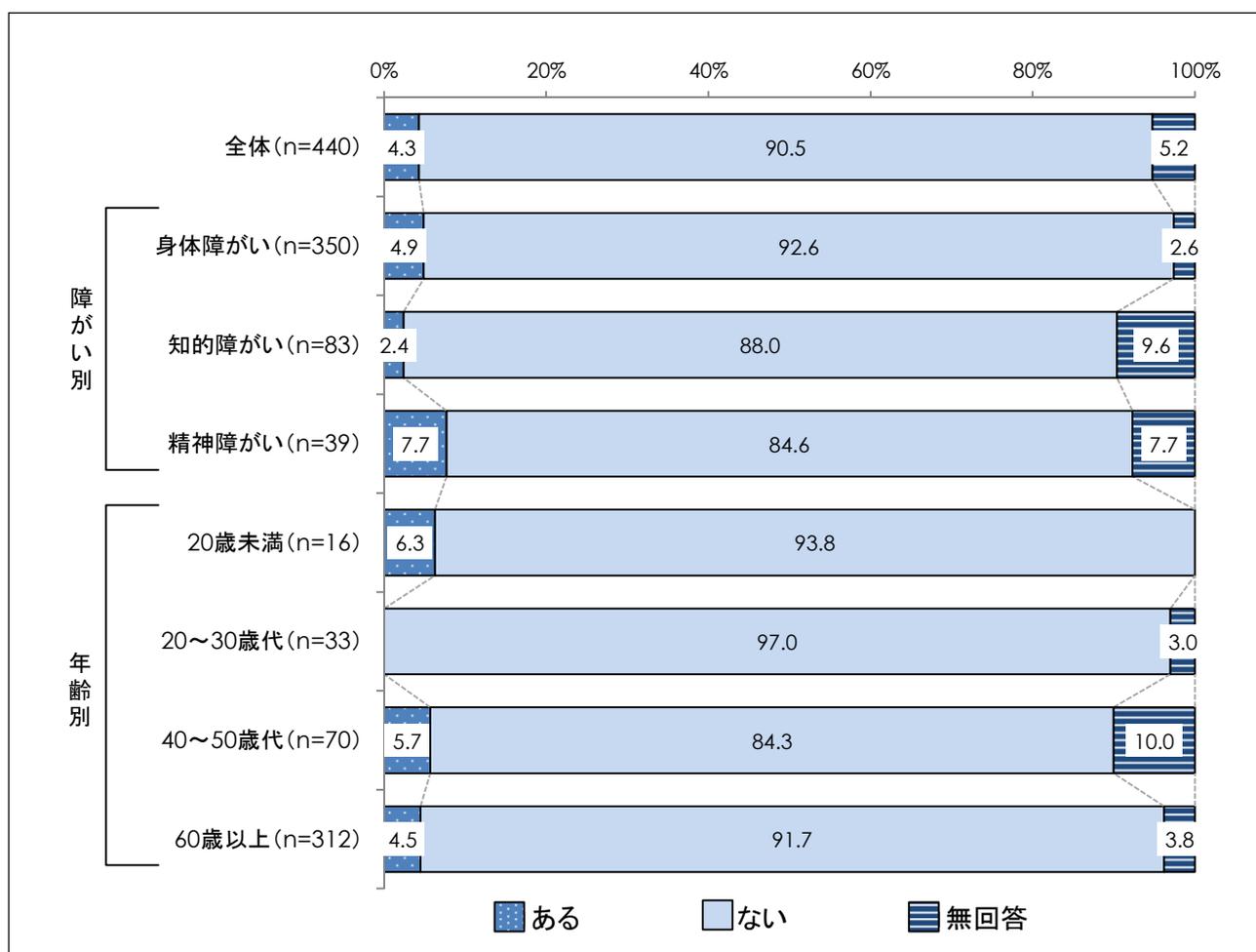
高次脳機能障がいの診断の有無についてたずねたところ、「ある」は 4.3%、「ない」が 90.5%となっています。

【属性別の傾向】

障がい別にみると、「ある」の割合は、身体障がいでは 4.9%、知的障がいでは 2.4%、精神障がいでは 7.7%となっております。

年齢別にみると、「ある」の割合は、20歳未満では 6.3%、40～50歳代では 5.7%、60歳以上では 4.5%となっています。

図表 10 高次脳機能障がいの診断の有無（全体、障がい別、年齢別）



(5) 医療を受ける上で困っていること

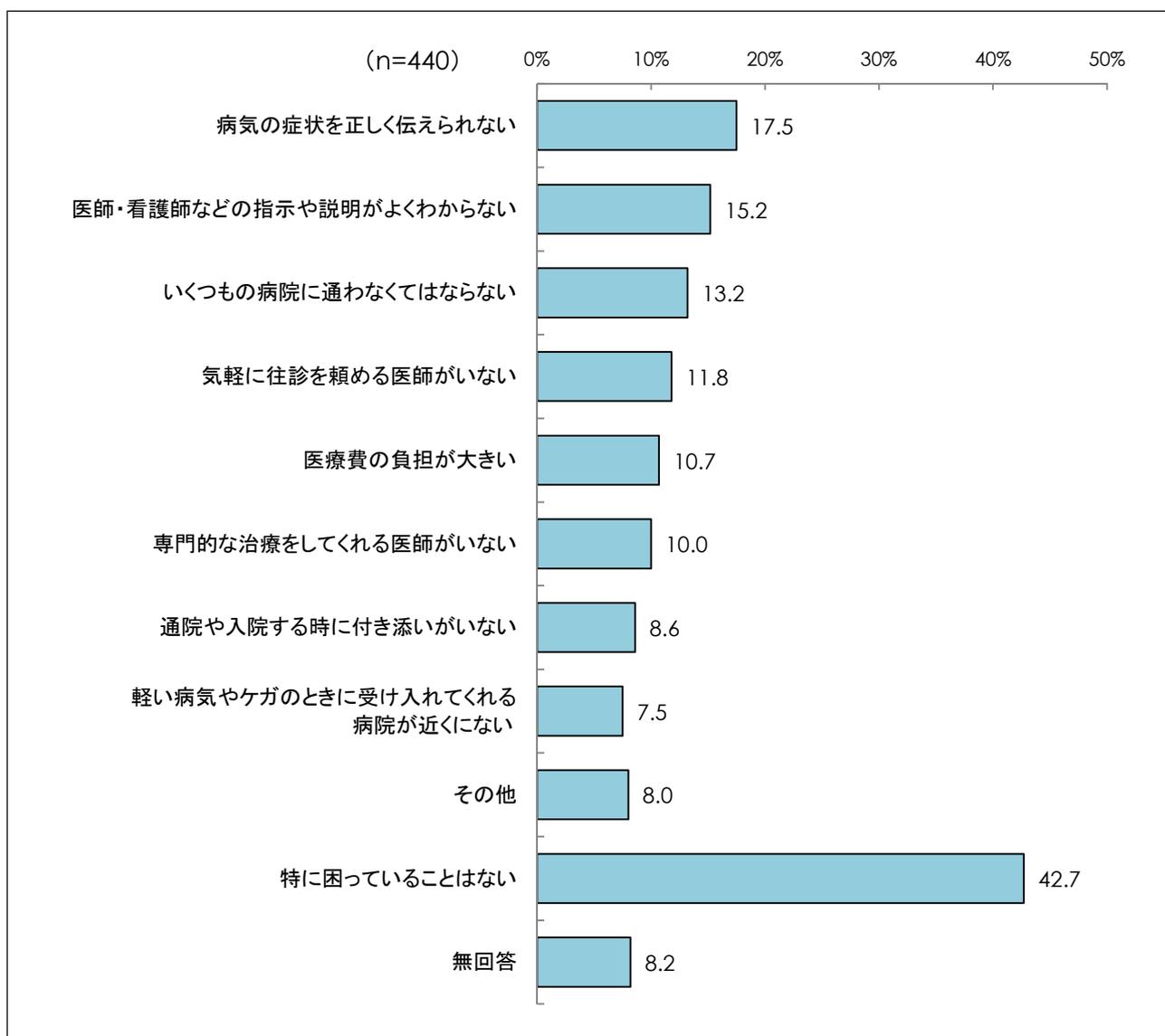
問 12 あなたは、医療を受ける上で困っていることはありますか。(あてはまるものすべてに○)

【全体の傾向】

医療を受ける上で困っていることについてたずねたところ、「特に困っていることはない」(42.7%)が最も高くなっています。

また、困っていることがあると回答した人の内容についてみると、「病気の症状を正しく伝えられない」(17.5%)、「医師・看護師などの指示や説明がよくわからない」(15.2%)、「いくつもの病院に通わなくてはならない」(13.2%)、「気軽に往診を頼める医師がない」(11.8%)、「医療費の負担が大きい」(10.7%) などとなっています。

図表 11 医療を受ける上で困っていること (全体/複数回答)



【属性別の傾向】

障がい別にみると、身体障がいでは「特に困っていることはない」(44.9%)が最も高く、次いで「いくつもの病院に通わなくてはならない」(13.1%)、「気軽に往診を頼める医師がいない」(12.6%)などとなっています。

知的障がいでは「病気の症状を正しく伝えられない」(41.0%)が最も高く、次いで「医師・看護師などの指示や説明がよくわからない」(33.7%)、「特に困っていることはない」(30.1%)などとなっています。

精神障がいでは「医療費の負担が大きい」(35.9%)が最も高く、次いで「特に困っていることはない」(28.2%)、「病気の症状を正しく伝えられない」、「いくつもの病院に通わなくてはならない」(同率で23.1%)などとなっています。

図表 12 医療を受ける上で困っていること (全体、障がい別/複数回答)

		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)		
		病気の症状を正しく伝えられない	医師・看護師などの指示や説明がよくわからない	いくつもの病院に通わなくてはならない	気軽に往診を頼める医師がいない	医療費の負担が大きい	専門的な治療をしてくれない医師がいない	通院や入院する時に付き添いがい	て軽い病やケガのときに受け入れ	その他	特に困っていることはない	無回答	
【表の見方】 単位=比率(%)													
全体		440	17.5	15.2	13.2	11.8	10.7	10.0	8.6	7.5	8.0	42.7	8.2
障がい別	身体障がい	350	12.0	11.4	13.1	12.6	10.6	10.9	8.0	7.4	8.6	44.9	8.0
	知的障がい	83	41.0	33.7	9.6	12.0	3.6	10.8	9.6	6.0	4.8	30.1	9.6
	精神障がい	39	23.1	15.4	23.1	10.3	35.9	7.7	12.8	12.8	7.7	28.2	7.7

(6) 介護保険の要介護認定及び介護保険サービスの利用の有無

問 13 あなたは、介護保険の要介護認定を受けていますか。受けている方は要介護度もお答えください。(〇は1つ)

【全体の傾向】

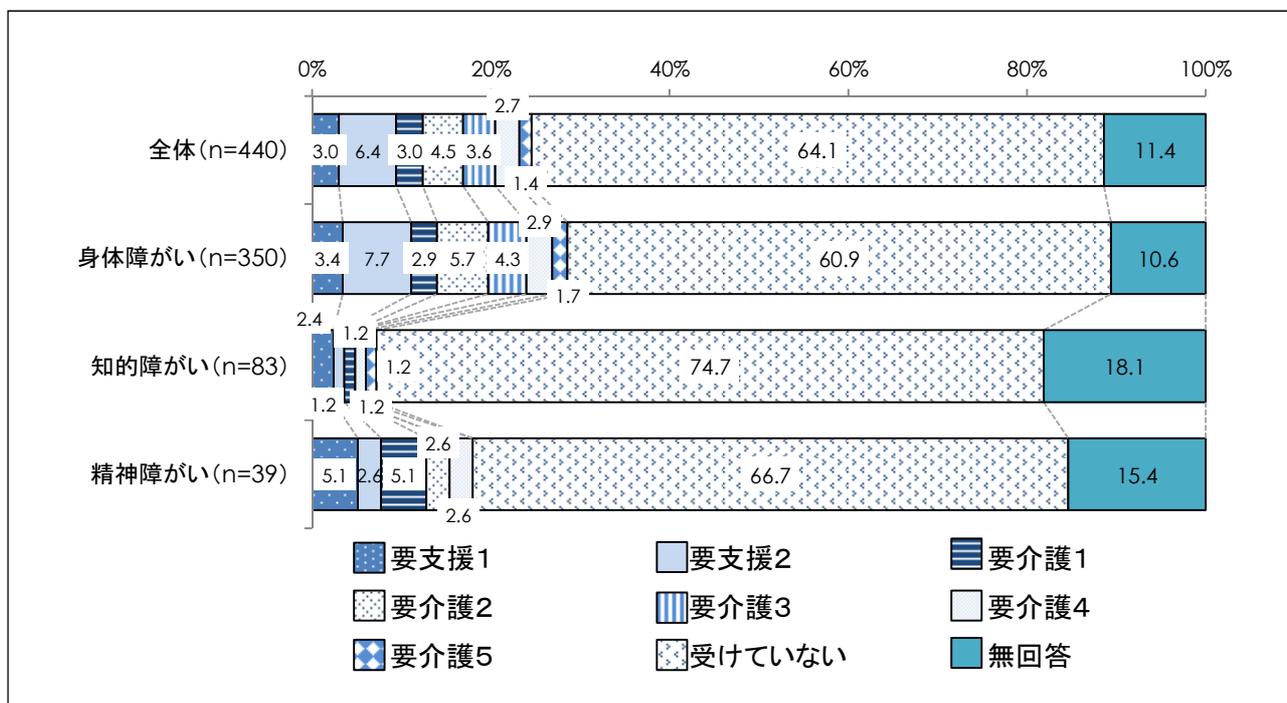
介護保険の要介護度についてたずねたところ、「要支援2」が6.4%となっており、「要介護2」が4.5%、「要介護3」が3.6%などとなっています。

一方、「受けていない」が64.1%となっています。

【属性別の傾向】

障がい別にみると、身体障がいでは「要支援2」が7.7%と高く、知的障がいでは「要支援1」が2.4%、精神障がいでは「要支援1」と「要介護1」が同率で5.1%となっています。

図表 13 要介護認定の状況（全体、障がい別）



問 13-1 要介護認定を受けている方におうかがいします。介護保険によるサービスを利用していますか。(〇は1つ)

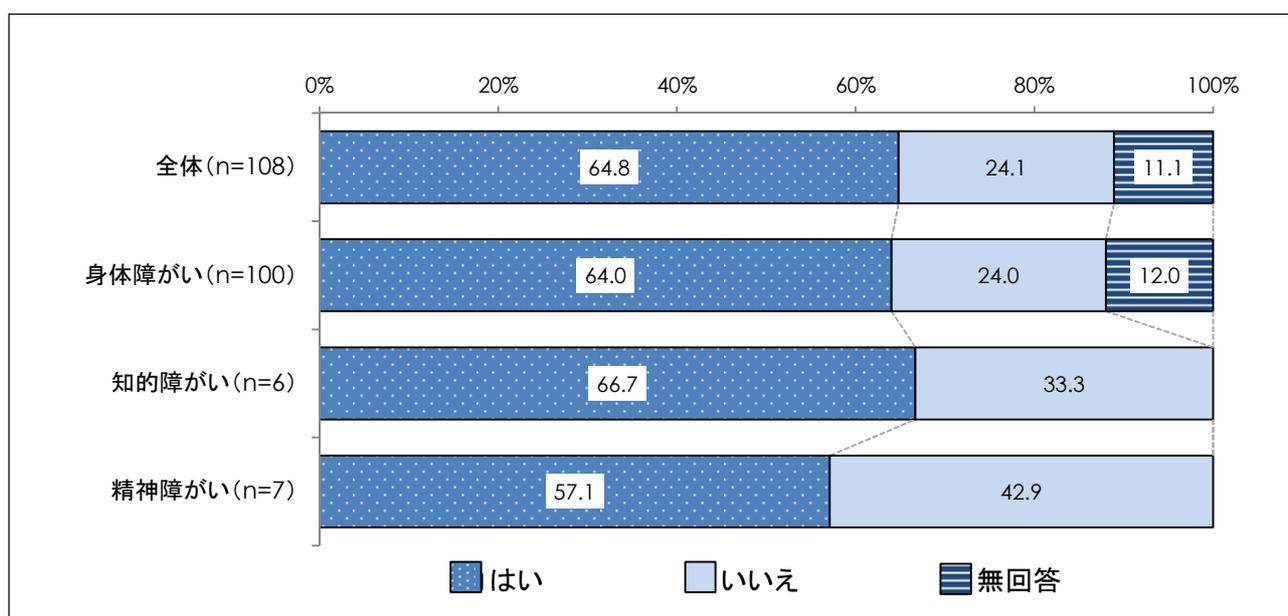
【全体の傾向】

介護保険サービスの利用の有無についてたずねたところ、「はい」が64.8%、「いいえ」が24.1%となっています。

【属性別の傾向】

障がい別にみると、「はい」の割合は、身体障がいでは64.0%、知的障がいでは66.7%、精神障がいでは57.1%となっています。

図表 14 介護保険サービスの利用の有無（全体、障がい別）



(7) 現在の暮らしについて

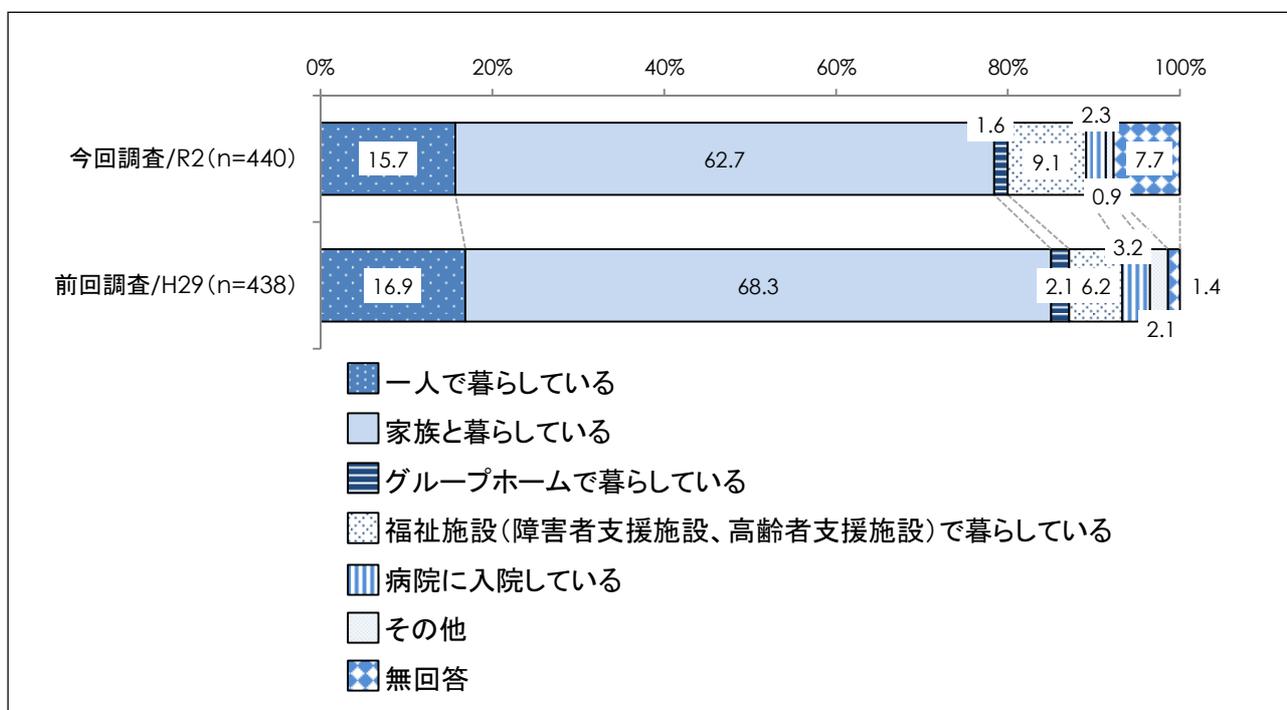
問 14 あなたは、現在どのように暮らしていますか。(〇は1つ)

【全体の傾向】

現在の暮らしの状況についてたずねたところ、「家族と暮らしている」(62.7%)が最も高く、次いで「一人で暮らしている」(15.7%)、「福祉施設(障害者支援施設、高齢者支援施設)で暮らしている」(9.1%)、「病院に入院している」(2.3%)、「グループホームで暮らしている」(1.6%)などとなり、施設やグループホーム、病院など自宅以外で暮らしている人が13.0%となっています。

前回調査と比較すると、「家族と暮らしている」の割合が5.6ポイント減少し、「福祉施設(障害者支援施設、高齢者支援施設)で暮らしている」の割合が2.9ポイント増加しています。

図表 15 現在の暮らしの状況(全体、前回との比較)

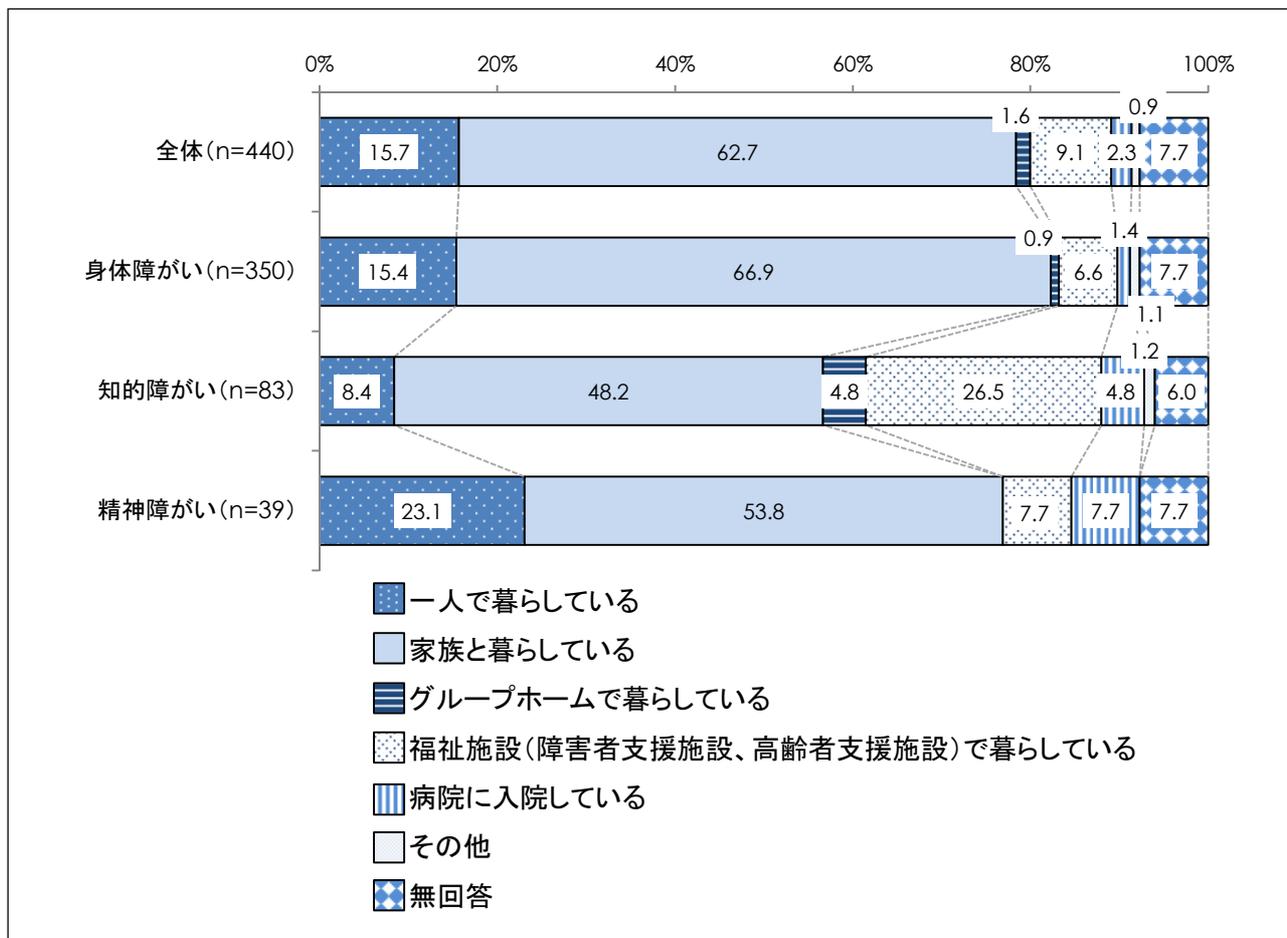


【属性別の傾向】

障がい別にみると、どの障がいにおいても「家族と暮らしている」の割合が最も高く、身体障がいでは66.9%、知的障がいでは48.2%、精神障がいでは53.8%となっています。

また、知的障がいでは他の障がいと比べて「一人で暮らしている」(8.4%)の割合が低く、「福祉施設(障がい者支援施設、高齢者支援施設)で暮らしている」(26.5%)の割合が高くなっています。

図表 16 現在の暮らしの状況 (全体、障がい別)

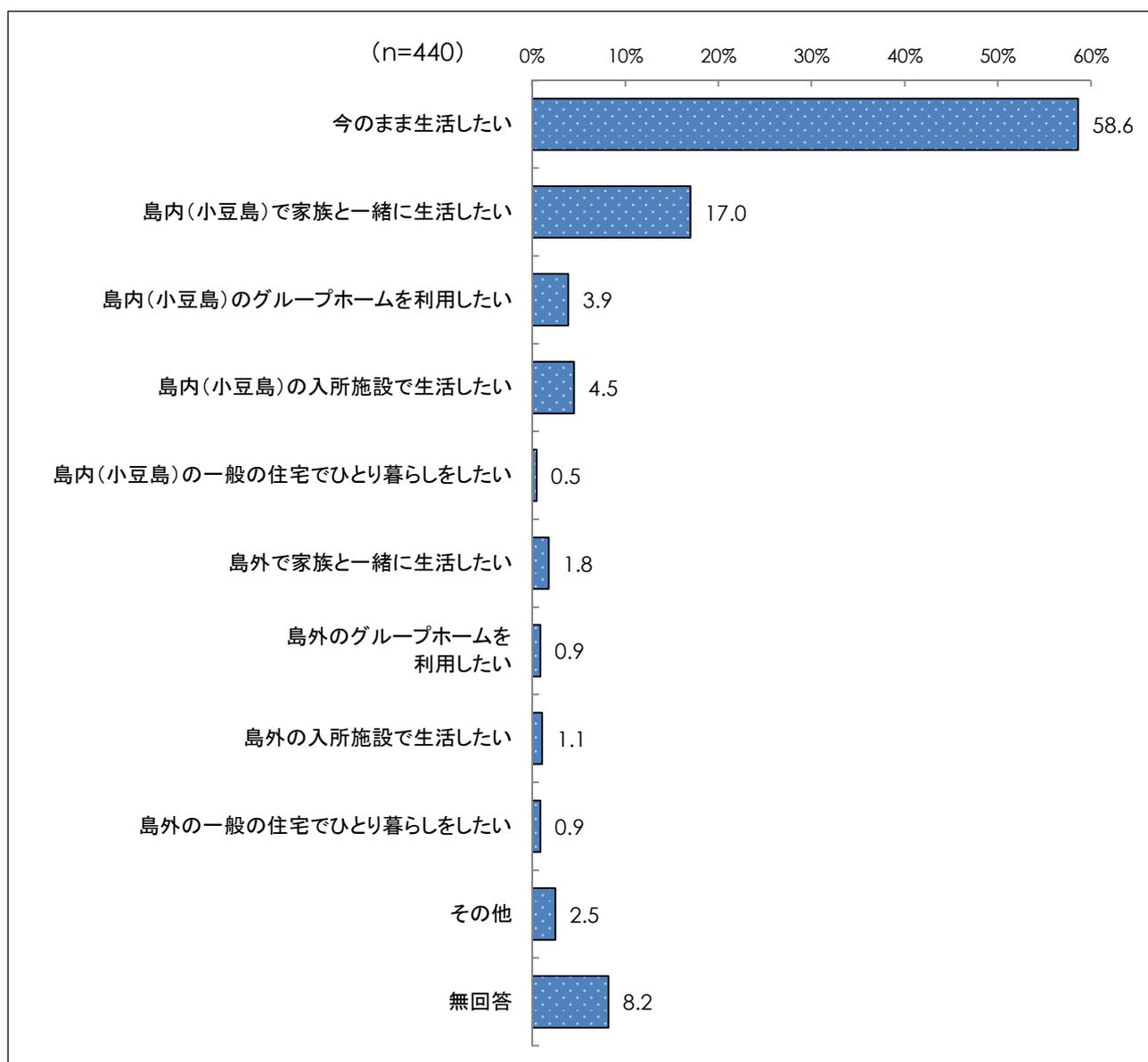


問 15 あなたは将来、どのような場所で生活したいと思いますか。(〇は1つ)

【全体の傾向】

将来暮らし続けたい場所についてたずねたところ、「今のまま生活したい」(58.6%)が最も高く、次いで「島内(小豆島)で家族と一緒に生活したい」(17.0%)、「島内(小豆島)の入所施設で生活したい」(4.5%)、「島内(小豆島)のグループホームを利用したい」(3.9%)などとなっています。

図表 17 将来暮らし続けたい場所(全体)



【属性別の傾向】

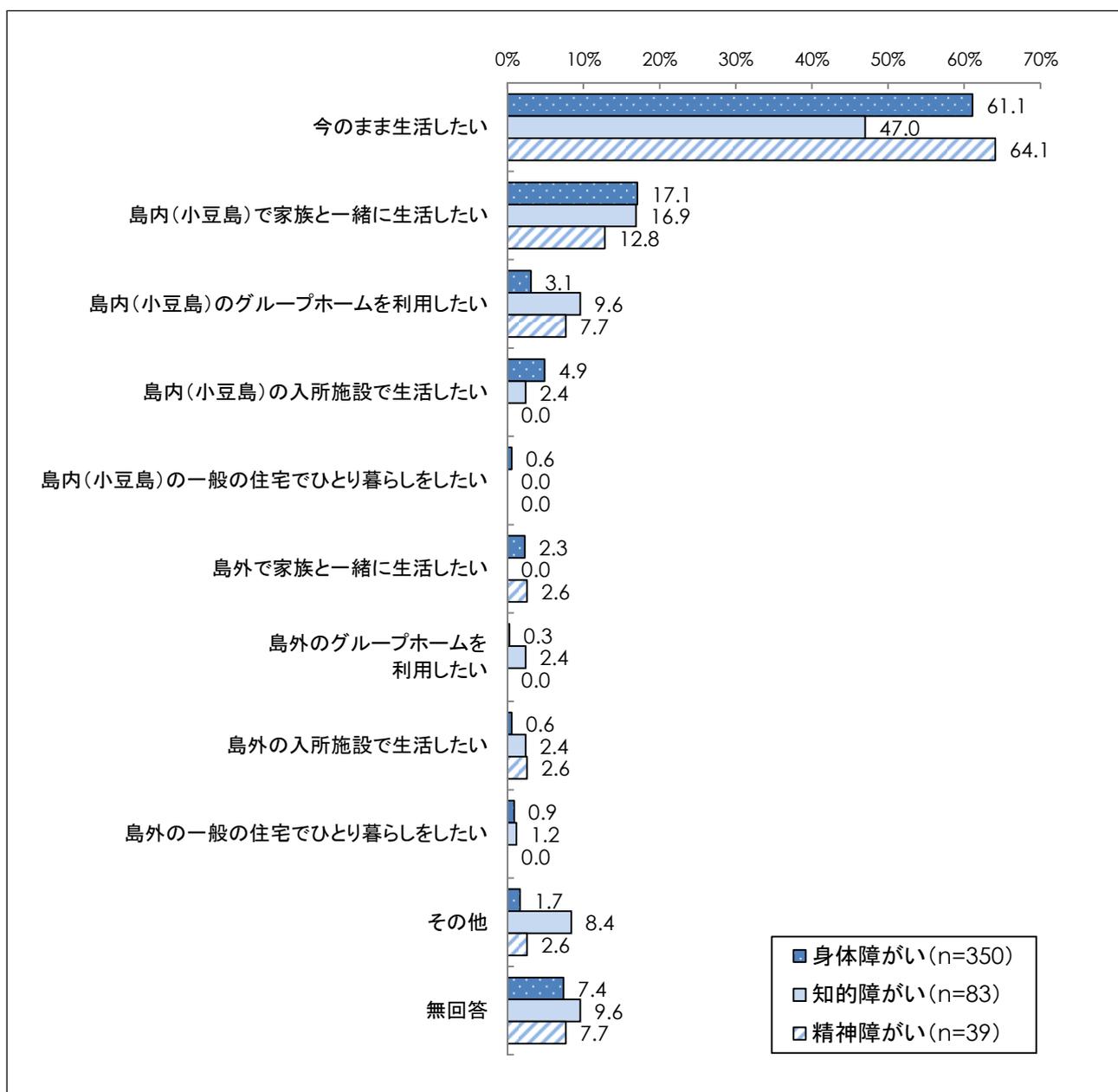
障がい別にみると、どの障がいにおいても「今のまま生活したい」の割合が最も高く、身体障がいでは61.1%、知的障がいでは47.0%、精神障がいでは64.1%となっています。

身体障がいでは、次いで「島内（小豆島）で家族と一緒に生活したい」（17.1%）、「島内（小豆島）の入所施設で生活したい」（4.9%）などとなっています。

知的障がいでは、次いで「島内（小豆島）で家族と一緒に生活したい」（16.9%）、「島内（小豆島）のグループホームを利用したい」（9.6%）などとなっています。

精神障がいでは、次いで「島内（小豆島）で家族と一緒に生活したい」（12.8%）、「島内（小豆島）のグループホームを利用したい」（7.7%）などとなっています。

図表 18 将来暮らし続けたい場所（全体、障がい別）



問 16 あなたは、ふだん昼間は、どのように過ごしていますか。(〇は1つ)

【全体の傾向】

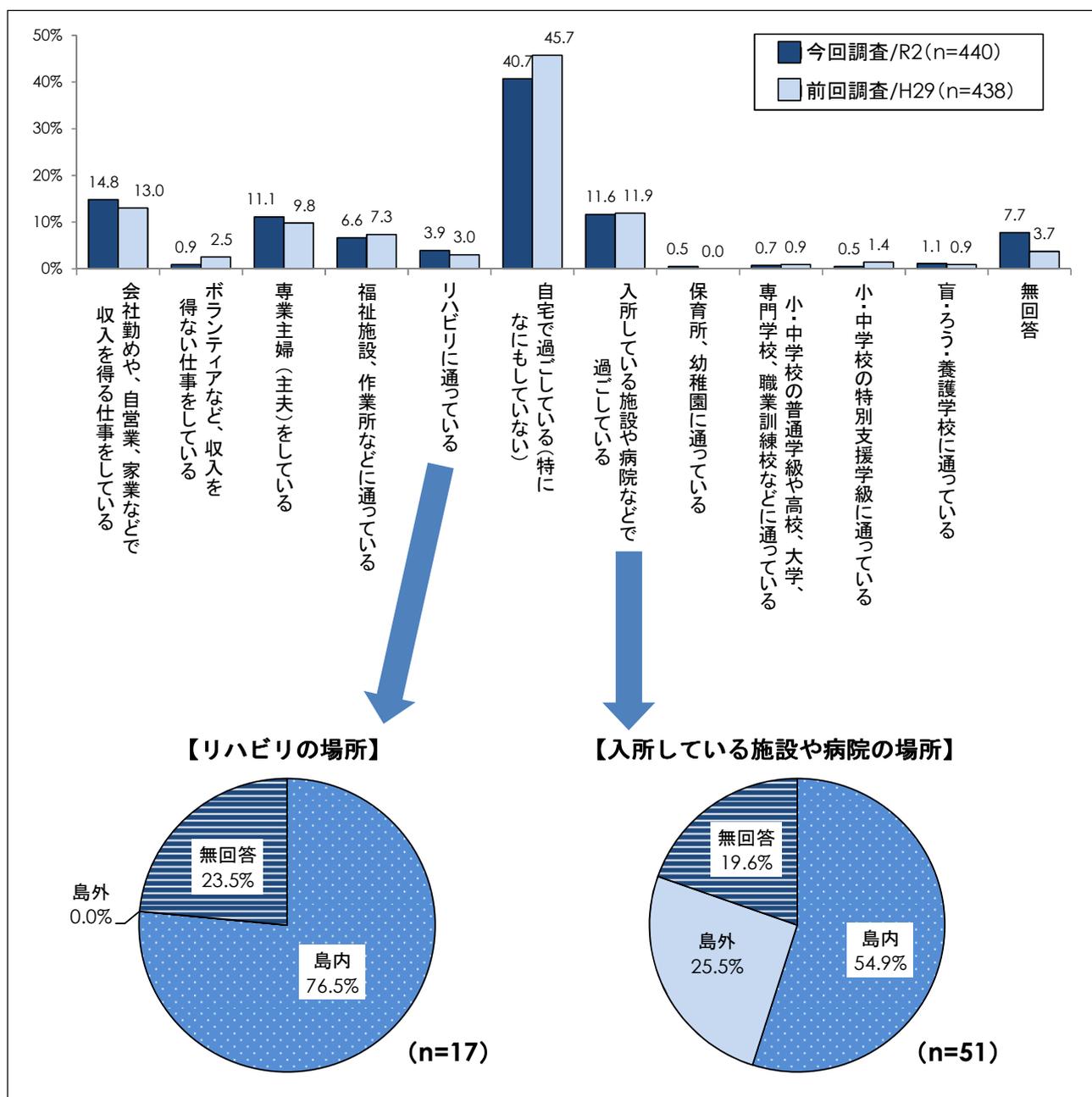
日中の過ごし方についてたずねたところ、「自宅で過ごしている(特になにもしていない)」(40.7%)が最も高く、その割合は突出しています。

また、「リハビリに通っている」(3.9%)と回答した人のうち、リハビリの場所が「島内」の人は76.5%となっています。

また、「入所している施設や病院などで過ごしている」(11.6%)と回答した人のうち、入所している施設や病院の場所が「島内」の人は54.9%となっています。

前回調査と比較すると、前回同様の結果となっており、割合に大差はみられません。

図表 19 日中の過ごし方(全体、前回との比較)

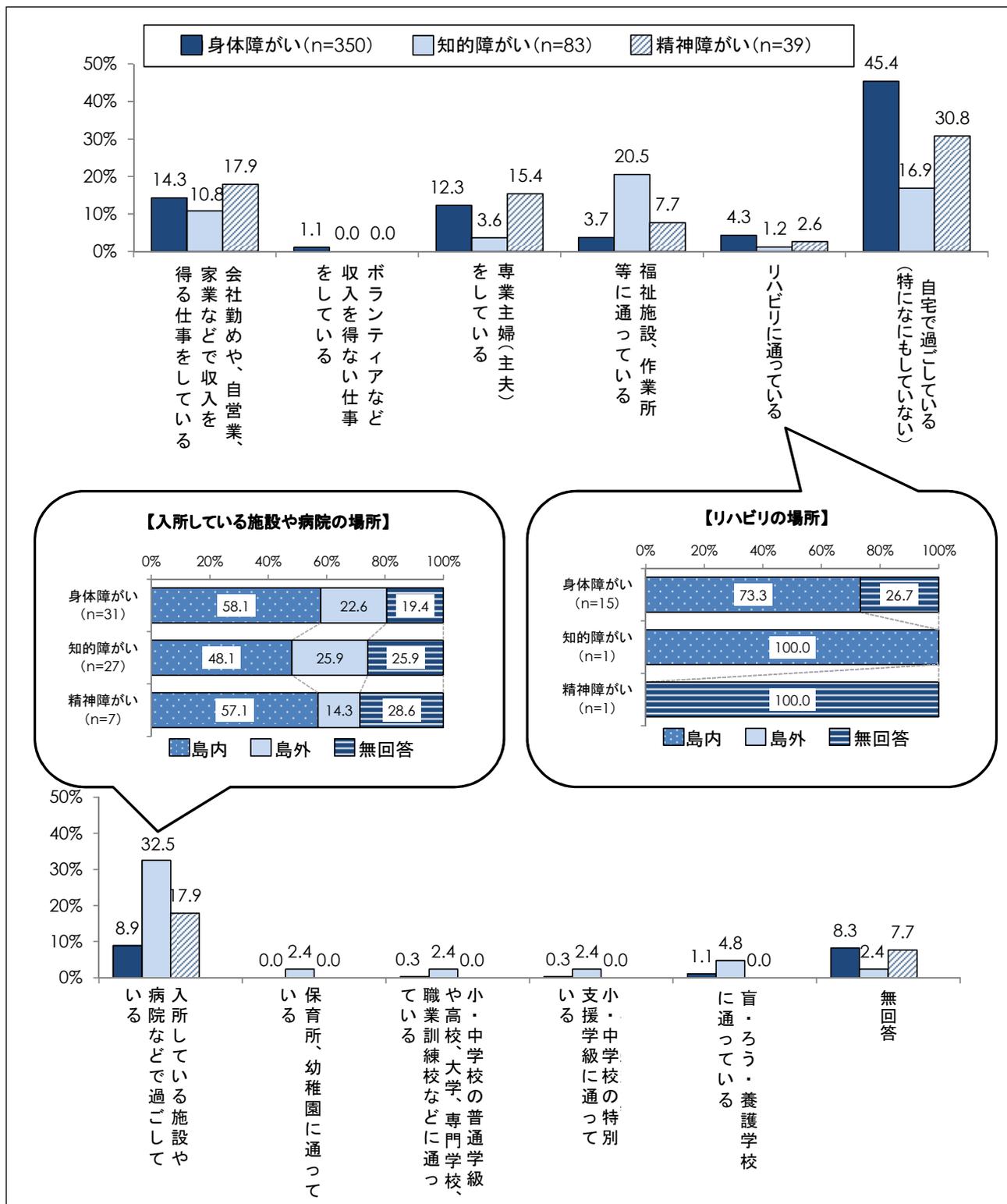


【属性別の傾向 障がい別】

障がい別にみると、身体障がい、精神障がいでは「自宅で過ごしている（特になにもしていない）」の割合が最も高く、知的障がいでは「福祉施設、作業所等に通っている」の割合が最も高くなっています。

また、リハビリの場所や入所している施設や病院の場所については、どの障がいにおいても「島内」の割合が高くなっています。

図表 20 日中の過ごし方（障がい別）



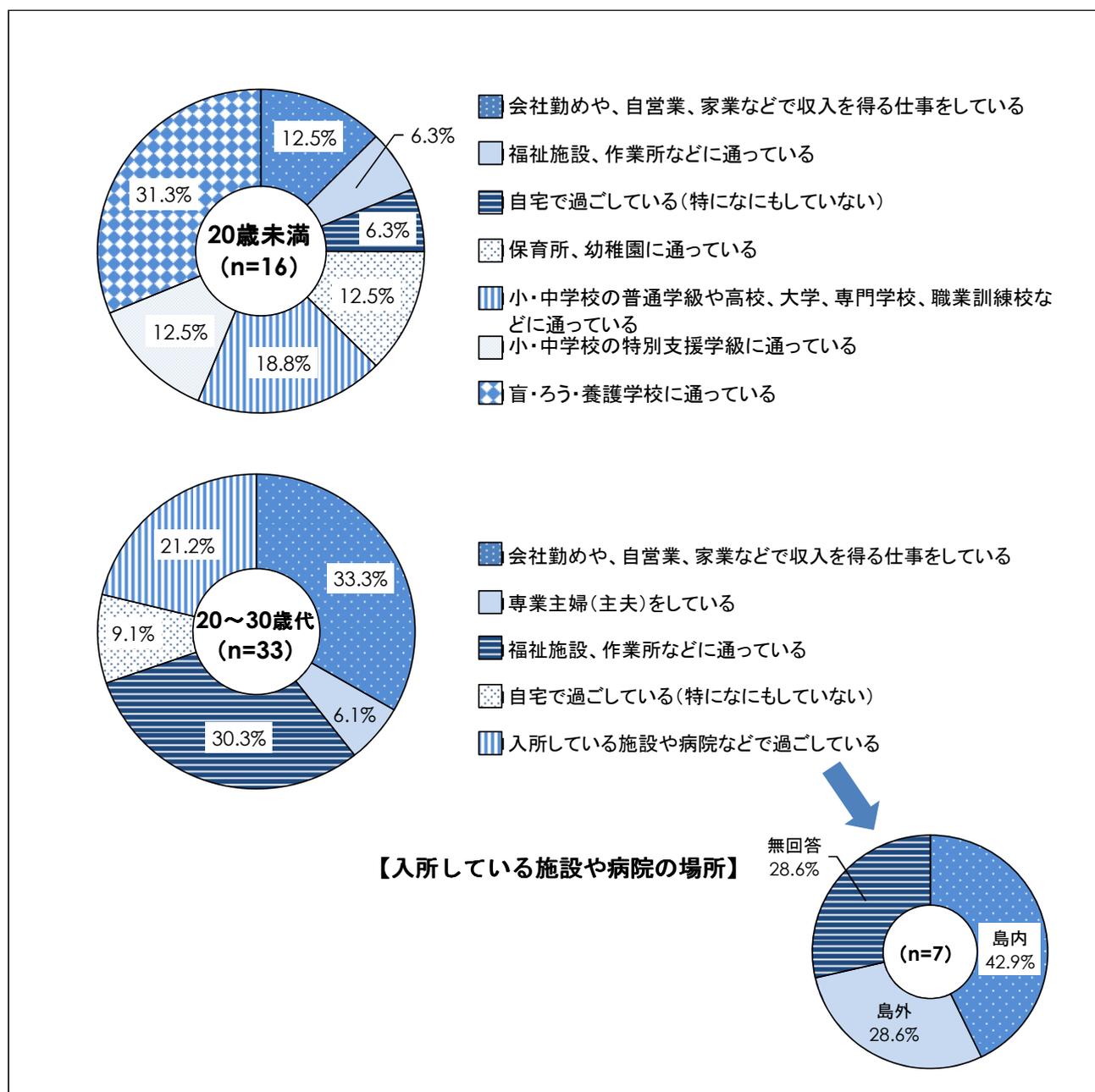
【属性別の傾向 年齢別】

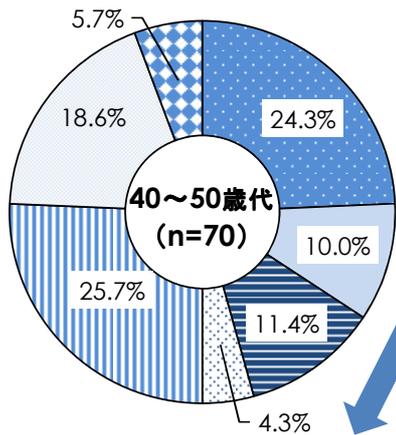
年齢別にみると、割合の高い項目は、20歳未満では「盲・ろう・養護学校に通っている」(31.3%)、「小・中学校の普通学級や高校、大学、専門学校、職業訓練校に通っている」(18.8%)、20～30歳代では「会社勤めや、自営業、家業などで収入を得る仕事をしている」(33.3%)、「福祉施設、作業所などに通っている」(30.3%)などが高く、40～50歳代では「自宅で過ごしている(特になにもしていない)」(25.7%)、「会社勤めや、自営業、家業などで収入を得る仕事をしている」(24.3%)、60歳以上では「自宅で過ごしている(特になにもしていない)」(49.7%)などとなっています。

また、リハビリや入所している施設等の場所については、すべての年齢層において「島内」の割合が高くなっています。

※年齢別では0.0%の項目が多く見られるため、0.0%の数値、選択肢はグラフ上では表示されていません。

図表 21 日中の過ごし方(年齢別)

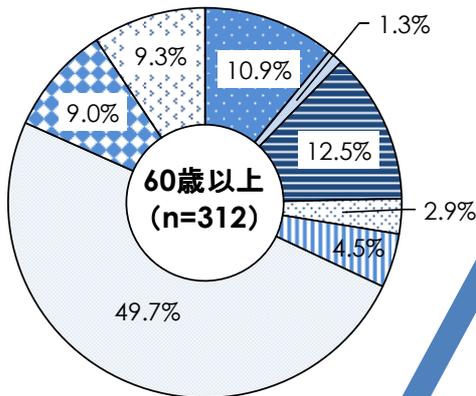
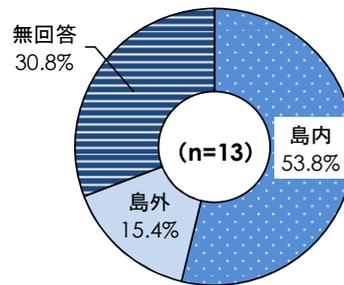
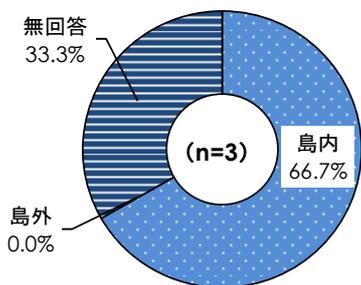




【リハビリの場所】

- 会社勤めや、自営業、家業などで収入を得る仕事をしている
- 専業主婦(主夫)をしている
- 福祉施設、作業所などに通っている
- リハビリに通っている
- 自宅で過ごしている(特になにもしていない)
- 入所している施設や病院などで過ごしている
- 無回答

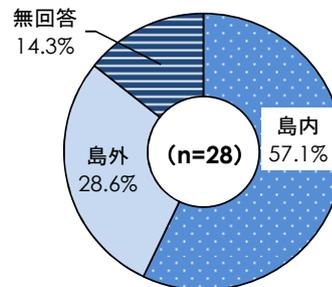
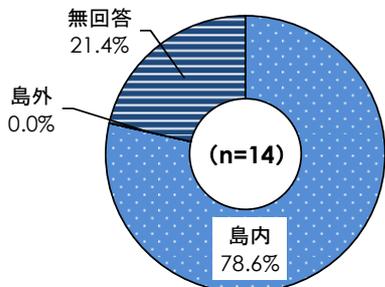
【入所している施設や病院の場所】



【リハビリの場所】

- 会社勤めや、自営業、家業などで収入を得る仕事をしている
- ボランティアなど、収入を得ない仕事をしている
- 専業主婦(主夫)をしている
- 福祉施設、作業所などに通っている
- リハビリに通っている
- 自宅で過ごしている(特になにもしていない)
- 入所している施設や病院などで過ごしている
- 無回答

【入所している施設や病院の場所】



図表 22 日中の過ごし方（構成比：単位％）

【表の見方】 単数＝比率(%)	全体（人）	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)	無回答
		収入を得る仕事をしている	会社勤めや、自営業、家業などで収入を得ている	ボランティアなど、収入を得ない	専業主婦（主夫）をしている	福祉施設、作業所などに通っている	リハビリに通っている	自宅で過ごしている（特になにもしていない）	入所している施設や病院などで過ごしている	保育所、幼稚園に通っている	通学、専門学校、職業訓練校などに通っている	小・中学校の普通学級や高校、大	
全体	440	14.8	0.9	11.1	6.6	3.9	40.7	11.6	0.5	0.7	0.5	1.1	7.7
障がい別	身体障がい	350	14.3	1.1	12.3	3.7	45.4	8.9	-	0.3	0.3	1.1	8.3
	知的障がい	83	10.8	-	3.6	20.5	16.9	32.5	2.4	2.4	2.4	4.8	2.4
	精神障がい	39	17.9	-	15.4	7.7	2.6	30.8	17.9	-	-	-	7.7
年齢別	20歳未満	16	12.5	-	-	6.3	6.3	-	12.5	18.8	12.5	31.3	-
	20～30歳代	33	33.3	-	6.1	30.3	9.1	21.2	-	-	-	-	-
	40～50歳代	70	24.3	-	10.0	11.4	4.3	25.7	18.6	-	-	-	5.7
	60歳以上	312	10.9	1.3	12.5	2.9	4.5	49.7	9.0	-	-	-	9.3

【リハビリに通っている】

【表の見方】 単数＝比率(%)	全体（人）	(1)	(2)	無回答
		島内	島外	
全体	17	76.5	-	23.5
障がい別	身体障がい	15	73.3	26.7
	知的障がい	1	100.0	-
	精神障がい	1	-	100.0
年齢別	20歳未満	-	-	-
	20～30歳代	-	-	-
	40～50歳代	3	66.7	33.3
	60歳以上	14	78.6	21.4

【入所している施設や病院などで過ごしている】

【表の見方】 単数＝比率(%)	全体（人）	(1)	(2)	無回答	
		島内	島外		
全体	51	54.9	25.5	19.6	
障がい別	身体障がい	31	58.1	22.6	19.4
	知的障がい	27	48.1	25.9	25.9
	精神障がい	7	57.1	14.3	28.6
年齢別	20歳未満	-	-	-	
	20～30歳代	7	42.9	28.6	28.6
	40～50歳代	13	53.8	15.4	30.8
	60歳以上	28	57.1	28.6	14.3

3 困り事に対する相談について

(1) 現在の生活において困っていること

問 17 現在の生活で、困っていることや不安に思っていることがありますか。(おもなもの3つまで○)

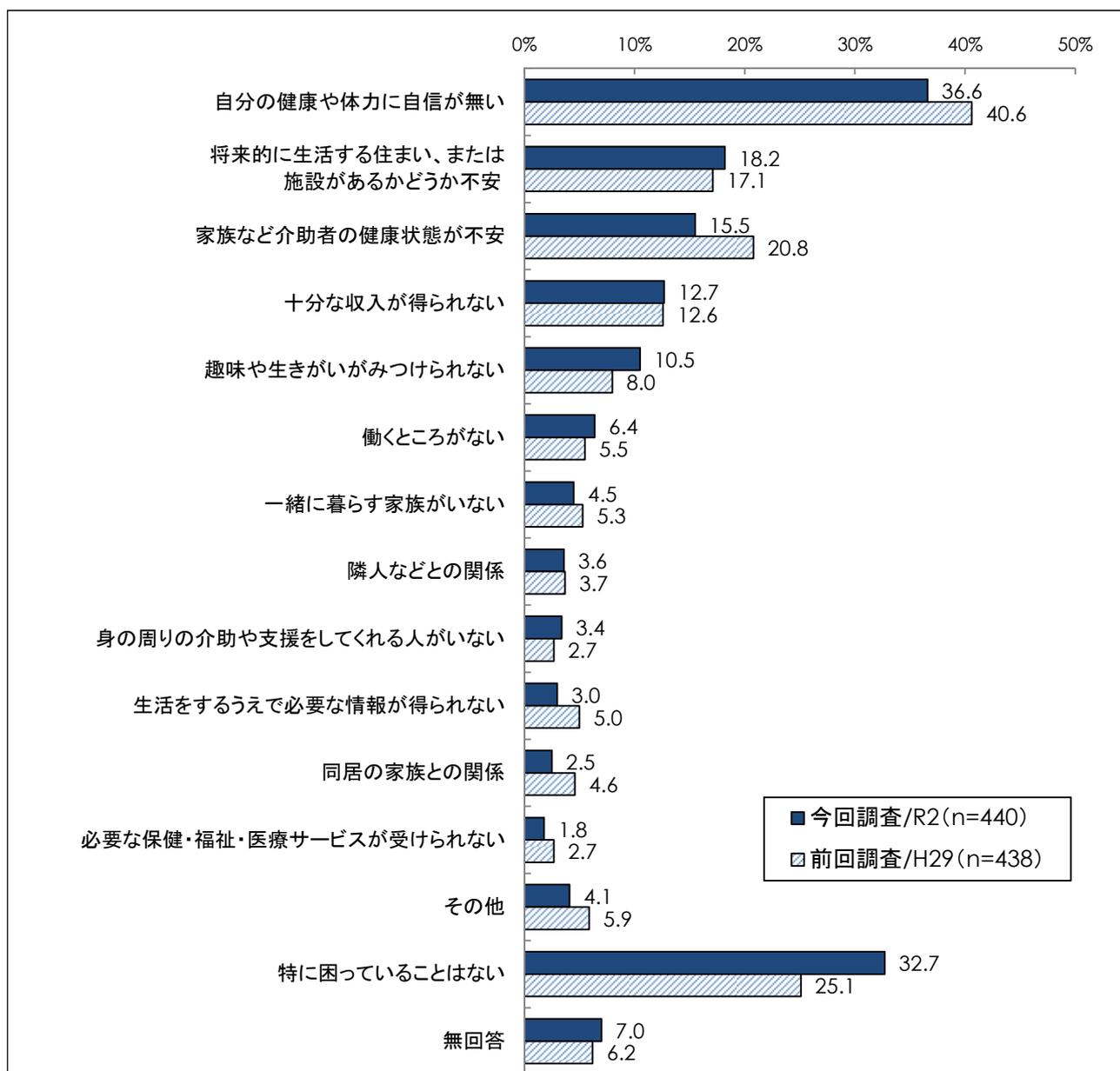
【全体の傾向】

現在の生活において困っていることについてたずねたところ、「自分の健康や体力に自信がない」(36.6%)が最も高く、次いで「将来的に生活する住まい、または施設があるかどうか不安」(18.2%)、「家族など介助者の健康状態が不安」(15.5%)などとなっています。

一方、「特に困っていることはない」は32.7%となっており、全体では第2位の割合となっています。

前回調査と比較すると、「自分の健康や体力に自信がない」が4.0ポイント減少し、「家族など介助者の健康状態が不安」が5.3ポイント減少し、一方、「特に困っていることはない」が7.6ポイント増加しています。

図表 23 現在の生活において困っていること（全体、前回との比較／複数回答）



【属性別の傾向】

障がい別にみると、身体障がいでは「自分の健康や体力に自信がない」(40.9%)が最も高く、次いで「特に困っていることはない」(32.9%)、「将来的に生活する住まい、または施設があるかどうか不安」(15.7%)などとなっています。

知的障がいでは「将来的に生活する住まい、または施設があるかどうか不安」(33.7%)が最も高く、次いで「特に困っていることはない」(31.3%)、「家族など介助者の健康状態が不安」(14.5%)などとなっています。

精神障がいでは「自分の健康や体力に自信がない」(35.9%)が最も高く、次いで「特に困っていることはない」(28.2%)、「将来的に生活する住まい、または施設があるかどうか不安」(23.1%)などとなっています。

図表 24 現在の生活において困っていること（全体、障がい別／複数回答）

		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)	(12)	(13)	(14)			
【表の見方】 単位＝比率(%)	全体（人）																	
	全体	440	36.6	18.2	15.5	12.7	10.5	6.4	4.5	3.6	3.4	3.0	2.5	1.8	4.1	32.7	7.0	
	障がい別	身体障がい	350	40.9	15.7	15.4	13.1	10.6	6.3	4.0	4.0	3.7	2.0	2.3	1.1	3.7	32.9	6.9
		知的障がい	83	9.6	33.7	14.5	10.8	6.0	7.2	6.0	3.6	4.8	4.8	3.6	8.4	7.2	31.3	8.4
		精神障がい	39	35.9	23.1	17.9	20.5	12.8	7.7	10.3	10.3	10.3	5.1	2.6	2.6	2.6	28.2	2.6

(2) 悩みや困ったことの相談先

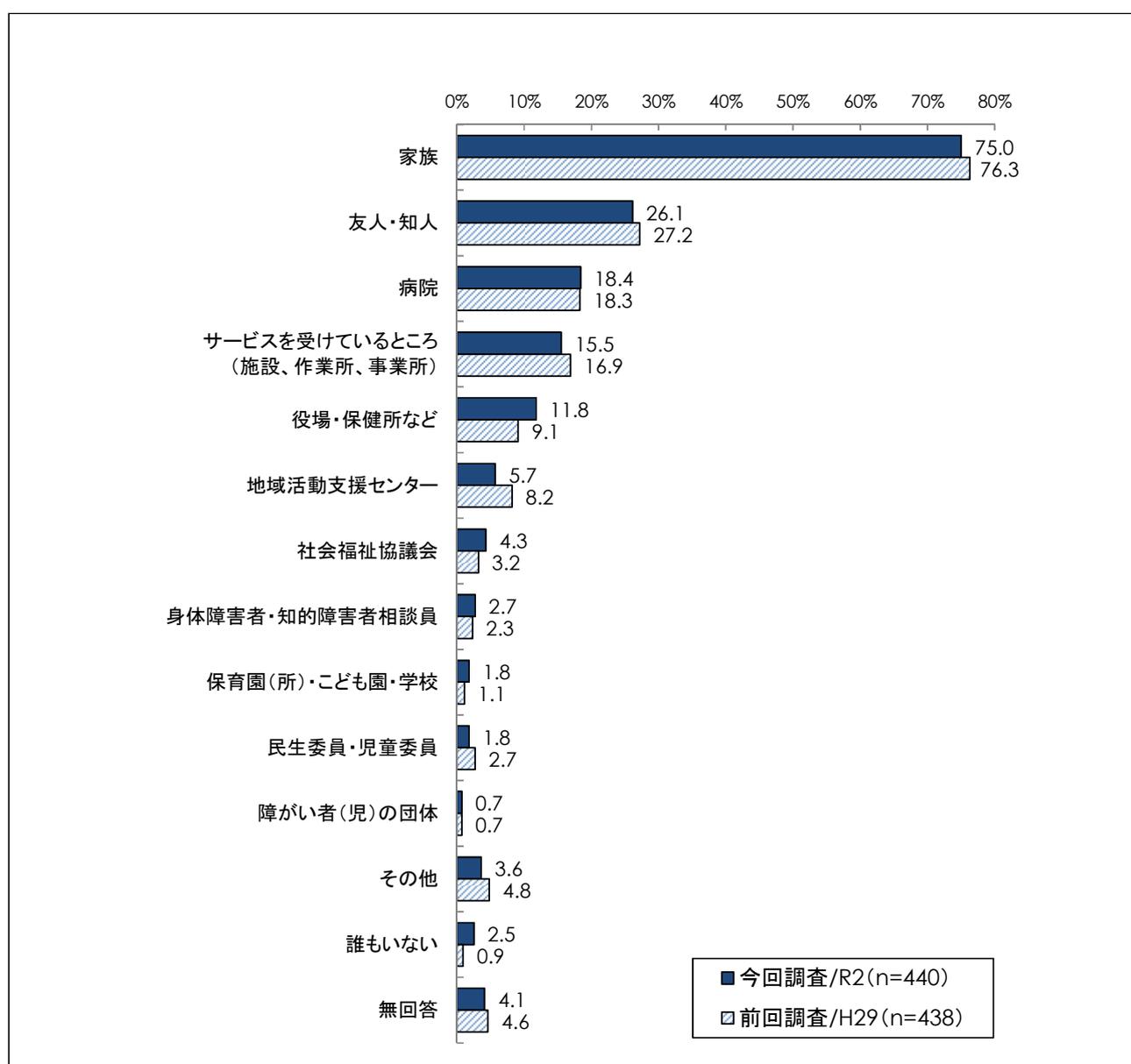
問 18 悩みや困ったことを相談するのは、誰ですか。(おもなもの3つまで)

【全体の傾向】

悩みや困ったことの相談先についてたずねたところ、「家族」(75.0%)が最も高く、その割合は突出しています。次いで「友人・知人」(26.1%)、「病院」(18.4%)、「サービスを受けているところ(施設、作業所、事業所)」(15.5%)などとなっています。

前回調査と比較すると、前回同様の結果となっており、割合に大差はみられません。

図表 25 悩みや困ったことの相談先 (全体、前回との比較/複数回答)



【属性別の傾向】

障がい別にみると、身体障がいでは「家族」(80.3%)が最も高く、次いで「友人・知人」(27.4%)、「病院」(18.9%)などとなっています。

知的障がいでは「家族」(45.8%)が最も高く、次いで「サービスを受けているところ(施設、作業所、事業所)」(36.1%)、「友人・知人」(19.3%)などとなっています。

精神障がいでは「家族」(64.1%)が最も高く、次いで「病院」(28.2%)、「友人・知人」(25.6%)などとなっています。

どの障がいにおいても「家族」に相談する人の割合が高く、一方、知的障がいでは施設などのサービスを受けている場所、精神障がいでは病院などに相談する人の割合が高くなっています。

図表 26 悩みや困ったことの相談先(全体、障がい別/複数回答)

		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)	(12)	(13)		
	全体(人)	家族	友人・知人	病院	設 サ ー ビ ス を 受 け て い る と こ ろ (施 設 、 作 業 所 、 事 業 所)	役 場 ・ 保 健 所 な ど	地 域 活 動 支 援 セ ン タ ー	社 会 福 祉 協 議 会	身 体 障 害 者 ・ 知 的 障 害 者 相 談	保 育 園 (所)・ こ ど も 園 ・ 学 校	民 生 委 員 ・ 児 童 委 員	障 が い 者 (児)の 団 体	そ の 他	誰 も い な い	無 回 答	
【表の見方】 単位=比率(%)																
全体	440	75.0	26.1	18.4	15.5	11.8	5.7	4.3	2.7	1.8	1.8	0.7	3.6	2.5	4.1	
障 が い 別	身体障がい	350	80.3	27.4	18.9	10.9	11.4	5.1	2.6	2.3	0.9	1.1	0.6	4.0	2.0	4.3
	知的障がい	83	45.8	19.3	16.9	36.1	13.3	6.0	10.8	9.6	8.4	3.6	1.2	4.8	6.0	6.0
	精神障がい	39	64.1	25.6	28.2	23.1	10.3	7.7	10.3	2.6	-	-	-	2.6	2.6	2.6

(3) 障がい者福祉や生活に関する相談体制に関する要望

問 19 今後、障がい者福祉や生活に関する相談体制として、どのようなことを希望しますか。
(おもなもの3つまで○)

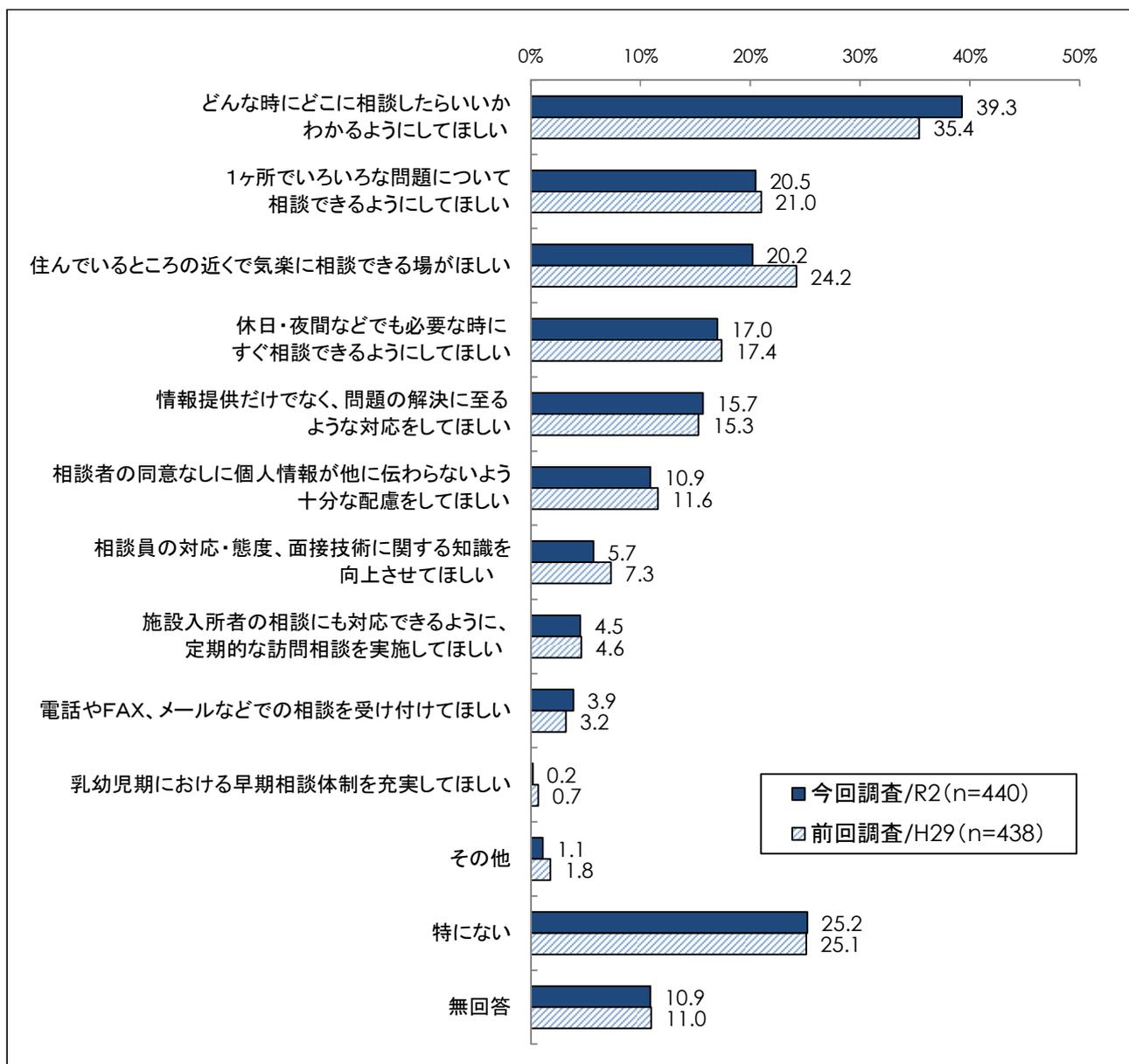
【全体の傾向】

障がい者福祉や生活に関する相談体制に関する要望についてたずねたところ、「どんな時にどこに相談したらいいかわかるようにしてほしい」(39.3%)が最も高く、次いで「1ヶ所でいろいろな問題について相談できるようにしてほしい」(20.5%)、「住んでいるところの近くで気軽に相談できる場がほしい」(20.2%)などとなっています。

一方、「特にない」は25.2%となっており、全体では第2位の割合となっています。

前回調査と比較すると、「どんな時にどこに相談したらいいかわかるようにしてほしい」は3.9ポイント増加し、「住んでいるところの近くで気軽に相談できる場がほしい」は4.0ポイント減少しています。

図表 27 障がい者福祉や生活に関する相談体制に関する要望（全体、前回との比較／複数回答）



【属性別の傾向】

障がい別にみると、身体障がいでは「どんな時にどこに相談したらいいかわかるようにしてほしい」(40.6%)が最も高く、次いで「特にない」(25.1%)、「1ヶ所でいろいろな問題について相談できるようにしてほしい」(20.0%)、「住んでいるところの近くで気軽に相談できる場がほしい」(19.1%)などとなっています。

知的障がいでは「どんな時にどこに相談したらいいかわかるようにしてほしい」(33.7%)が最も高く、次いで「1ヶ所でいろいろな問題について相談できるようにしてほしい」(24.1%)、「住んでいるところの近くで気軽に相談できる場がほしい」(20.5%)などとなっています。

精神障がいでは「どんな時にどこに相談したらいいかわかるようにしてほしい」、「特にない」(同率で33.3%)が最も高く、次いで「住んでいるところの近くで気軽に相談できる場がほしい」(25.6%)、「休日・夜間などでも必要な時にすぐに相談できるようにしてほしい」(23.1%)などとなっています。

図表 28 相談体制に関する要望（全体、障がい別／複数回答）

		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)	(12)						
	全体 (人)	かど わ か る 時 に ど こ に し て 相 談 し た ら い い	相 談 し て ほ し い	1 ヶ 所 で い ろ い ろ な 問 題 に つ い て	相 談 し て ほ し い	住 ん で い る と こ ろ の 近 く で 気 楽 に	休 日 ・ 夜 間 な ど に も 必 要 な 時 に	情 報 提 供 の 方 法 を 考 え て 問 題 を 解 決 し て ほ し い	に 関 心 を も つ て 相 談 し て ほ し い	相 談 員 の 知 識 や 態 度 を あ げ て 面 接 し て ほ し い	し よ う に 入 所 者 の 相 対 的 に も 相 談 を 実 施 し て ほ し い	電 話 や F A X 、 メ ー ル な ど で の 相 談	充 実 し て ほ し い	乳 幼 児 期 に お け る 早 期 相 談 体 制 を	そ の 他	特 に な い	無 回 答		
【表の見方】 単位=比率(%)																			
全体	440	39.3	20.5	20.2	17.0	15.7	10.9	5.7	4.5	3.9	0.2	1.1	25.2	10.9					
障がい別																			
身体障がい	350	40.6	20.0	19.1	16.3	16.6	10.0	5.1	4.6	4.3	-	0.9	25.1	11.7					
知的障がい	83	33.7	24.1	20.5	14.5	18.1	14.5	8.4	7.2	2.4	1.2	1.2	19.3	13.3					
精神障がい	39	33.3	15.4	25.6	23.1	20.5	7.7	7.7	7.7	2.6	-	-	33.3	7.7					

4 毎日の暮らしについて

(1) 日常生活における介助や支援の必要性

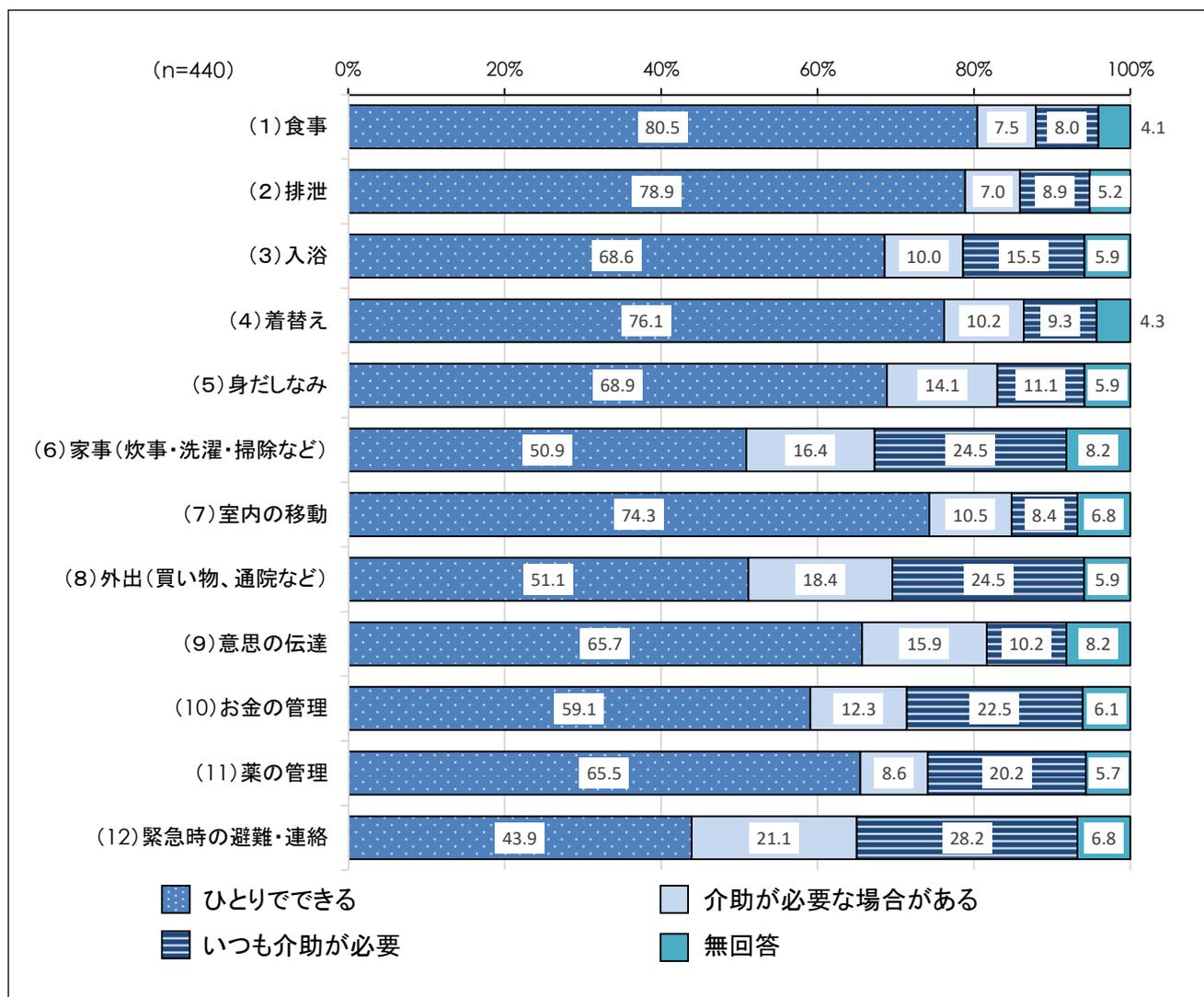
問 20 あなたは日常生活でどのような介助や支援が必要ですか。(〇はそれぞれに1つ)

【全体の傾向】

日常生活でどのような介助や支援が必要かたずねたところ、すべての項目で「ひとりでできる」の割合が最も高く、特に「食事」(80.5%)が最も高く、次いで「排泄」(78.9%)、「着替え」(76.1%)などとなっています。

一方、「ひとりでできる」の割合が低い項目は、「緊急時の避難・連絡」(43.9%)、「家事(炊事・洗濯・掃除など)」(50.9%)、「外出(買い物、通院など)」(51.1%)などとなっています。

図表 29 日常生活における介助や支援の必要性 (全体)



【属性別の傾向】

障がい別にみると、ほとんどの項目で「ひとりでできる」が最も高く、一方、知的障がいでは「家事（炊事・洗濯・掃除など）」（44.6%）、「外出（買い物、通院など）」（49.4%）、「お金の管理」（60.2%）、「薬の管理」（54.2%）、「緊急時の避難・連絡」（62.7%）が「いつも介助が必要」が4割以上と高くなっています。

図表 30 日常生活における介助や支援の必要性（障がい別）

(1) 食事						(2) 排泄					(3) 入浴						
【表の見方】 単位＝比率(%)						【表の見方】 単位＝比率(%)					【表の見方】 単位＝比率(%)						
	全体 (人)	(1) ひとりで できる	(2) 介助が 必要な 場合が ある	(3) いつも 介助が 必要	無 回 答		全体 (人)	(1) ひとりで できる	(2) 介助が 必要な 場合が ある	(3) いつも 介助が 必要	無 回 答		全体 (人)	(1) ひとりで できる	(2) 介助が 必要な 場合が ある	(3) いつも 介助が 必要	無 回 答
全体	440	80.5	7.5	8.0	4.1	全体	440	78.9	7.0	8.9	5.2	全体	440	68.6	10.0	15.5	5.9
障がい別						障がい別						障がい別					
身体障がい	350	79.1	7.4	9.1	4.3	身体障がい	350	79.4	5.7	9.7	5.1	身体障がい	350	68.9	9.7	15.1	6.3
知的障がい	83	69.9	10.8	15.7	3.6	知的障がい	83	61.4	16.9	16.9	4.8	知的障がい	83	50.6	13.3	28.9	7.2
精神障がい	39	87.2	2.6	2.6	7.7	精神障がい	39	87.2	2.6	2.6	7.7	精神障がい	39	69.2	15.4	7.7	7.7

(4) 着替え						(5) 身だしなみ					(6) 家事（炊事・洗濯・掃除など）						
【表の見方】 単位＝比率(%)						【表の見方】 単位＝比率(%)					【表の見方】 単位＝比率(%)						
	全体 (人)	(1) ひとりで できる	(2) 介助が 必要な 場合が ある	(3) いつも 介助が 必要	無 回 答		全体 (人)	(1) ひとりで できる	(2) 介助が 必要な 場合が ある	(3) いつも 介助が 必要	無 回 答		全体 (人)	(1) ひとりで できる	(2) 介助が 必要な 場合が ある	(3) いつも 介助が 必要	無 回 答
全体	440	76.1	10.2	9.3	4.3	全体	440	68.9	14.1	11.1	5.9	全体	440	50.9	16.4	24.5	8.2
障がい別						障がい別						障がい別					
身体障がい	350	76.6	8.3	10.3	4.9	身体障がい	350	70.0	12.6	10.9	6.6	身体障がい	350	54.0	14.3	23.1	8.6
知的障がい	83	59.0	21.7	15.7	3.6	知的障がい	83	45.8	24.1	22.9	7.2	知的障がい	83	26.5	21.7	44.6	7.2
精神障がい	39	82.1	7.7	2.6	7.7	精神障がい	39	76.9	10.3	2.6	10.3	精神障がい	39	59.0	20.5	12.8	7.7

(7) 室内の移動						(8) 外出（買い物、通院など）					(9) 意思の伝達						
【表の見方】 単位＝比率(%)						【表の見方】 単位＝比率(%)					【表の見方】 単位＝比率(%)						
	全体 (人)	(1) ひとりで できる	(2) 介助が 必要な 場合が ある	(3) いつも 介助が 必要	無 回 答		全体 (人)	(1) ひとりで できる	(2) 介助が 必要な 場合が ある	(3) いつも 介助が 必要	無 回 答		全体 (人)	(1) ひとりで できる	(2) 介助が 必要な 場合が ある	(3) いつも 介助が 必要	無 回 答
全体	440	74.3	10.5	8.4	6.8	全体	440	51.1	18.4	24.5	5.9	全体	440	65.7	15.9	10.2	8.2
障がい別						障がい別						障がい別					
身体障がい	350	73.7	10.6	8.3	7.4	身体障がい	350	53.7	18.0	22.0	6.3	身体障がい	350	70.0	13.4	8.0	8.6
知的障がい	83	62.7	12.0	16.9	8.4	知的障がい	83	30.1	12.0	49.4	8.4	知的障がい	83	37.3	22.9	30.1	9.6
精神障がい	39	79.5	10.3	2.6	7.7	精神障がい	39	56.4	20.5	15.4	7.7	精神障がい	39	59.0	23.1	5.1	12.8

Ⅱ 調査結果

(10) お金の管理

		(1)	(2)	(3)		
		全体 (人)	ひとり で できる	介 助 が 必 要 な 場 合 が あ る	い つ も 介 助 が 必 要	無 回 答
【表の見方】 単位＝比率(%)						
全体		440	59.1	12.3	22.5	6.1
障 が い 別	身体障がい	350	65.1	10.9	17.4	6.6
	知的障がい	83	20.5	10.8	60.2	8.4
	精神障がい	39	64.1	20.5	12.8	2.6

(11) 薬の管理

		(1)	(2)	(3)		
		全体 (人)	ひとり で できる	介 助 が 必 要 な 場 合 が あ る	い つ も 介 助 が 必 要	無 回 答
全体		440	65.5	8.6	20.2	5.7
障がい別		350	70.3	7.4	16.0	6.3
		83	28.9	8.4	54.2	8.4
		39	79.5	10.3	7.7	2.6

(12) 緊急時の避難・連絡

		(1)	(2)	(3)		
		全体 (人)	ひとり で できる	介 助 が 必 要 な 場 合 が あ る	い つ も 介 助 が 必 要	無 回 答
全体		440	43.9	21.1	28.2	6.8
障がい別		350	46.9	22.3	24.3	6.6
		83	24.1	3.6	62.7	9.6
		39	48.7	28.2	12.8	10.3

(2) 主な介助者と介助者の年齢や健康状態

問 21 あなたの主な介助者（支援者）はどなたですか。（〇は1つ）

【全体の傾向】

主な介助者についてたずねたところ、「配偶者（夫・妻）」（31.6%）が最も高く、次いで「父母・祖父母・兄弟・姉妹」（16.8%）、「子」（16.6%）などとなっています。

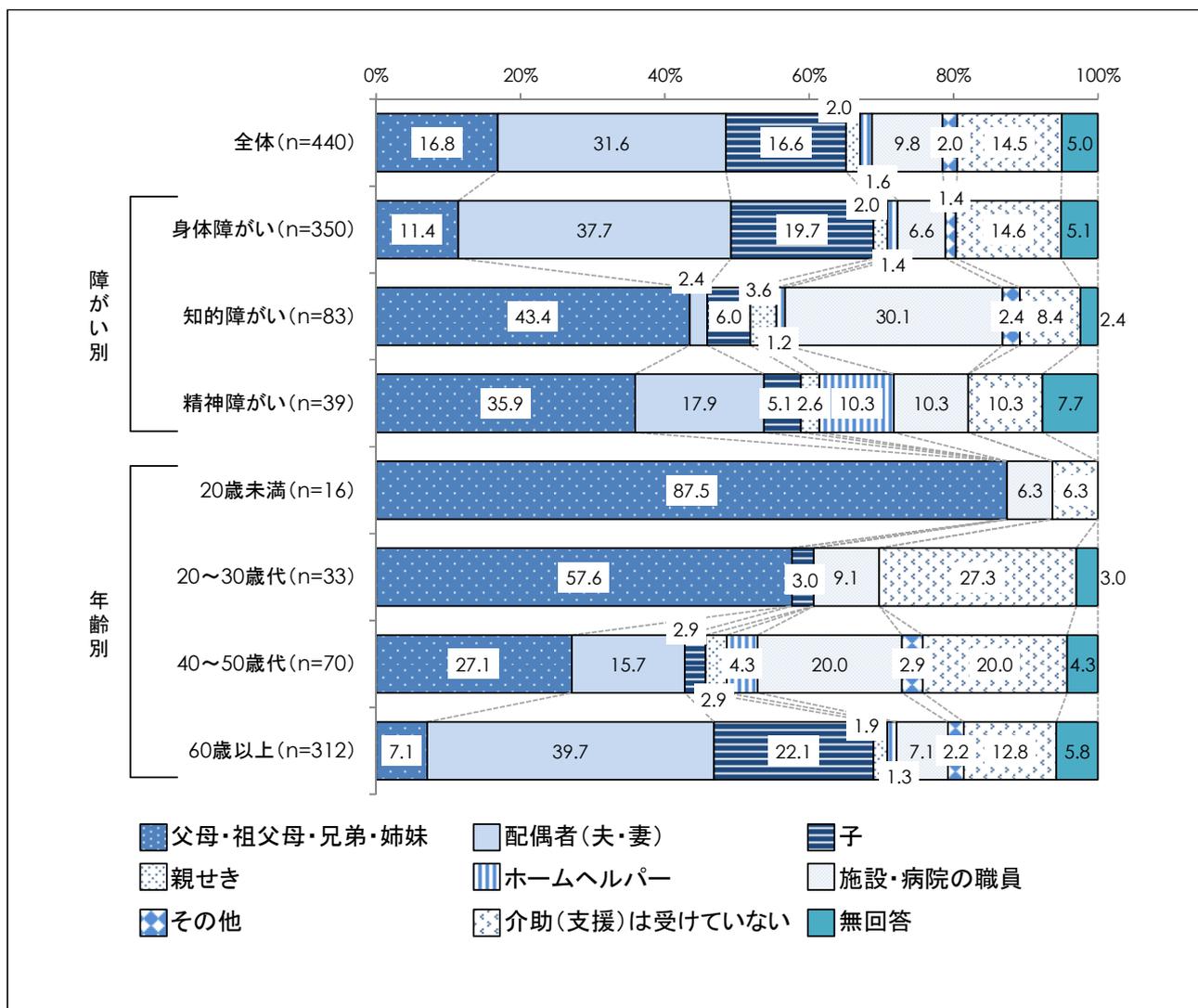
一方、「介助（支援）は受けていない」は 14.5%となっています。

【属性別の傾向】

障がい別にみると、身体障がいでは「配偶者（夫・妻）」（37.7%）、「子」（19.7%）、知的障がいでは「父母・祖父母・兄弟・姉妹」（43.4%）、「施設・病院の職員」（30.1%）、精神障がいでは「父母・祖父母・兄弟・姉妹」（35.9%）、「配偶者（夫・妻）」（17.9%）が高くなっています。

年齢別にみると、20歳未満では「父母・祖父母・兄弟・姉妹」（87.5%）、20～30歳代では「父母・祖父母・兄弟・姉妹」（57.6%）、40～50歳代では「父母・祖父母・兄弟・姉妹」（27.1%）、60歳以上では「配偶者（夫・妻）」（39.7%）が高くなっています。

図表 31 主な介助者（全体、障がい別、年齢別）



問21-1 問21で1～4とお答えした方（介助を受けている方）におうかがいします。
 あなたを主に介助してくれる方の年齢はおいくつですか。（年齢を記入）

【全体の傾向】

主な介助者の年齢についてたずねたところ、「60歳以上」（54.9%）が最も高く、次いで「40～50歳代」（23.7%）、「20～30歳代」（3.4%）などとなっています。

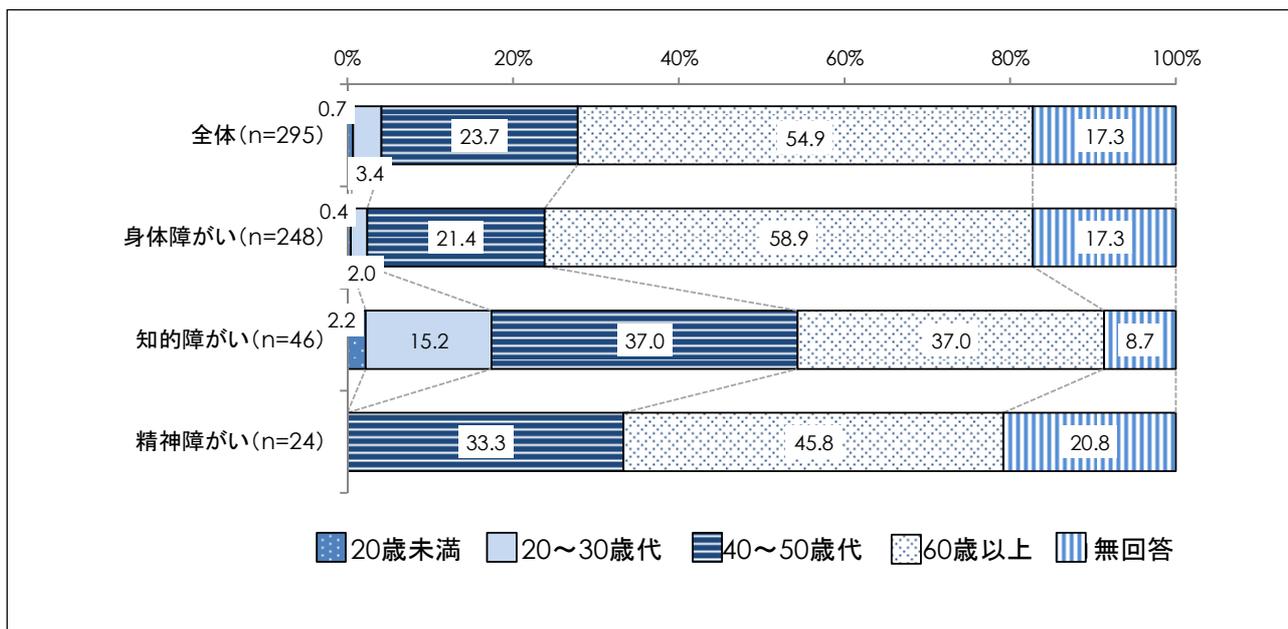
【属性別の傾向】

障がい別にみると、身体障がいでは「60歳以上」（58.9%）が最も高く、次いで「40～50歳代」（21.4%）などとなっています。

知的障がいでは「40～50歳代」、「60歳以上」（同率で37.0%）が最も高く、次いで「20～30歳代」（15.2%）などとなっています。

精神障がいでは「60歳以上」（45.8%）が最も高く、次いで「40～50歳代」（33.3%）などとなっています。

図表 32 主な介助者の年齢（全体、障がい別）



問21-2 問21で1~4とお答えした方(介助を受けている方)におうかがいします。
 あなたを主に介助してくれる方の健康状態はいかがですか。(〇は1つ)

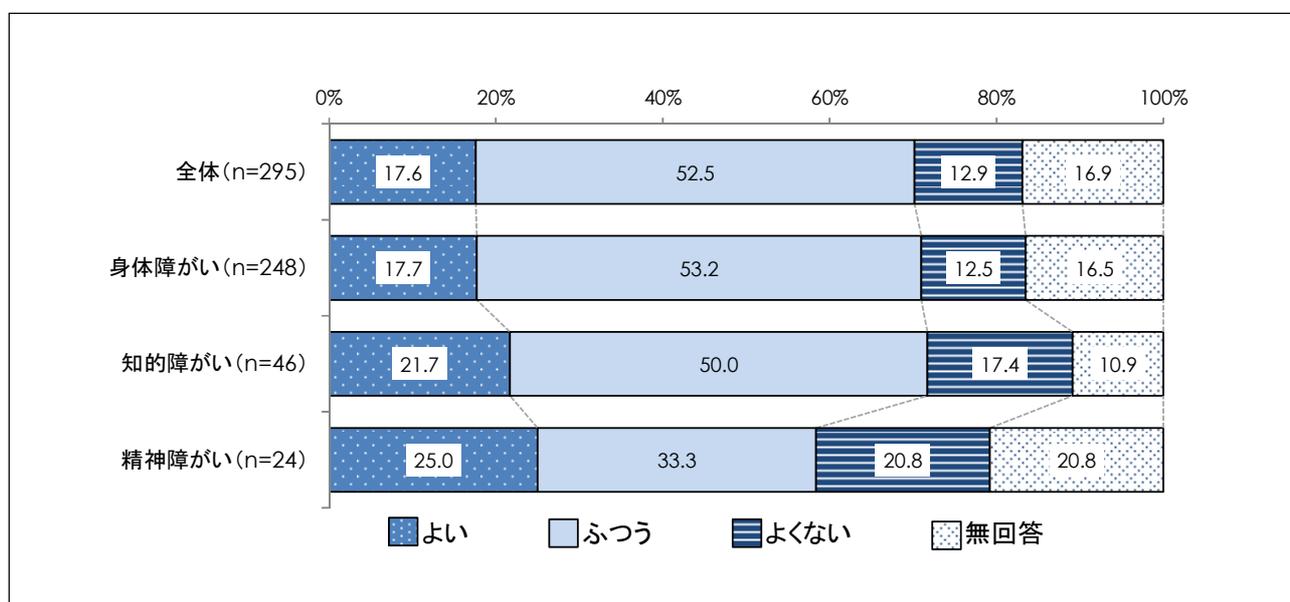
【全体の傾向】

主な介助者の健康状態についてたずねたところ、「ふつう」(52.5%)が最も高く、次いで「よい」(17.6%)、「よくない」(12.9%)となっております。

【属性別の傾向】

障がい別にみると、どの障がいにおいても「ふつう」の割合が最も高く、身体障がいでは53.2%、知的障がいでは50.0%、精神障がいでは33.3%となっています。

図表 33 主な介助者の健康状態(全体、障がい別)



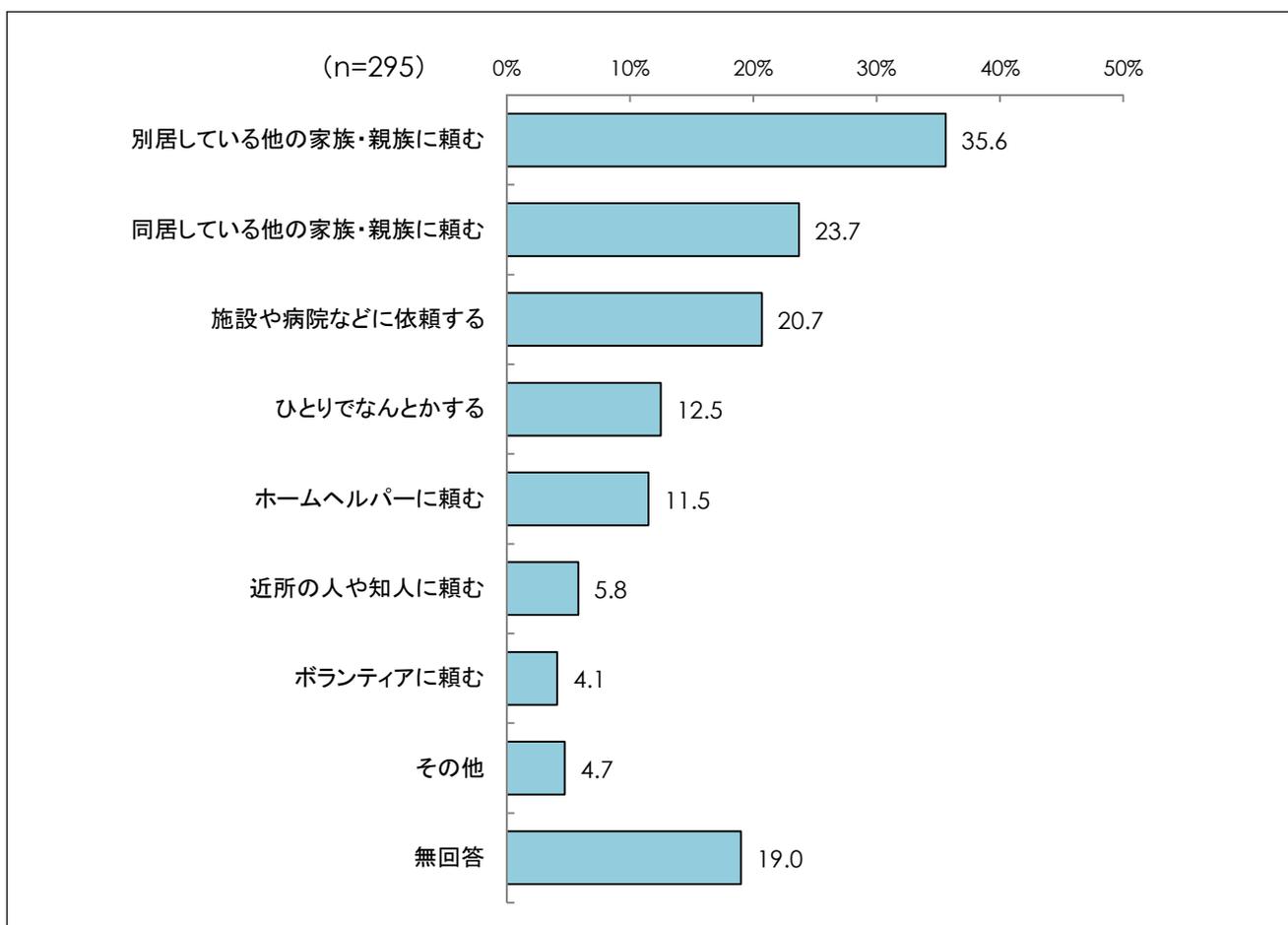
(3) 主な介助者が不在の場合の対応

問21-3 問21で1~4とお答えした方(介助を受けている方)におうかがいします。
 あなたを主に介助してくれる方が介助できない場合はどうしますか。(〇はあてはまるものすべて)

【全体の傾向】

主な介助者が不在の場合の対応についてたずねたところ、「別居している他の家族・親族に頼む」(35.6%)が最も高く、次いで「同居している他の家族・親族に頼む」(23.7%)、「施設や病院などに依頼する」(20.7%)、「ひとりでなんとかする」(12.5%)、「ホームヘルパーに頼む」(11.5%)などとなっています。

図表 34 主な介助者が不在の場合の対応 (全体/複数回答)



【属性別の傾向】

障がい別にみると、身体障がいでは「別居している他の家族・親族に頼む」（37.1％）が最も高く、次いで「同居している他の家族・親族に頼む」（20.6％）、「施設や病院などに依頼する」（20.2％）などとなっています。

知的障がいでは「同居している他の家族・親族に頼む」（37.0％）が最も高く、次いで「施設や病院などに依頼する」（28.3％）、「別居している他の家族・親族に頼む」（26.1％）などとなっています。

精神障がいでは「同居している他の家族・親族に頼む」（45.8％）が最も高く、次いで「施設や病院などに依頼する」（25.0％）、「別居している他の家族・親族に頼む」、「ホームヘルパーに頼む」（同率で16.7％）などとなっています。

図表 35 主な介助者が不在の場合の対応（全体、障がい別／複数回答）

		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)		
		別居している他の家族・親族に頼む	同居している他の家族・親族に頼む	施設や病院などに依頼する	ひとりできんとかする	ホームヘルパーに頼む	近所の人や知人に頼む	ボランティアに頼む	その他	無回答	
【表の見方】 上段=回答数(人) 下段=比率(%)											
全体		295 100.0	105 35.6	70 23.7	61 20.7	37 12.5	34 11.5	17 5.8	12 4.1	14 4.7	56 19.0
障害別	身体障がい	248 100.0	92 37.1	51 20.6	50 20.2	33 13.3	30 12.1	16 6.5	12 4.8	13 5.2	47 19.0
	知的障がい	46 100.0	12 26.1	17 37.0	13 28.3	3 6.5	4 8.7	1 2.2	1 2.2	2 4.3	6 13.0
	精神障がい	24 100.0	4 16.7	11 45.8	6 25.0	2 8.3	4 16.7	2 8.3	1 4.2	-	3 12.5

5 福祉サービスについて

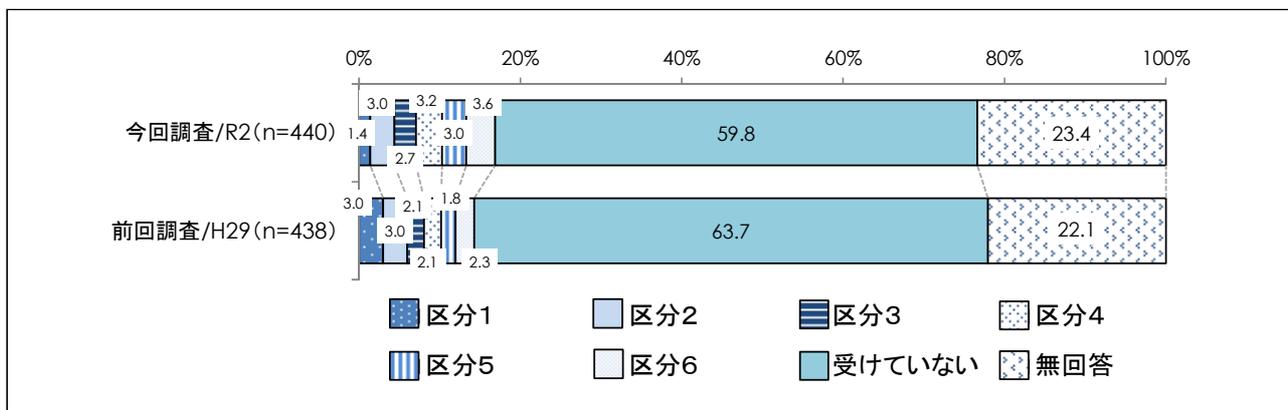
(1) 障害支援区分の認定状況

問 22 あなたは、障害支援区分の認定を受けていますか。(〇は1つ)

【全体の傾向】

障害支援区分の認定状況についてたずねたところ、「受けていない」が59.8%となっています。前回調査と比較すると、「受けていない」の割合が3.9ポイント減少しています。

図表 36 障害支援区分の認定状況（全体、前回との比較）

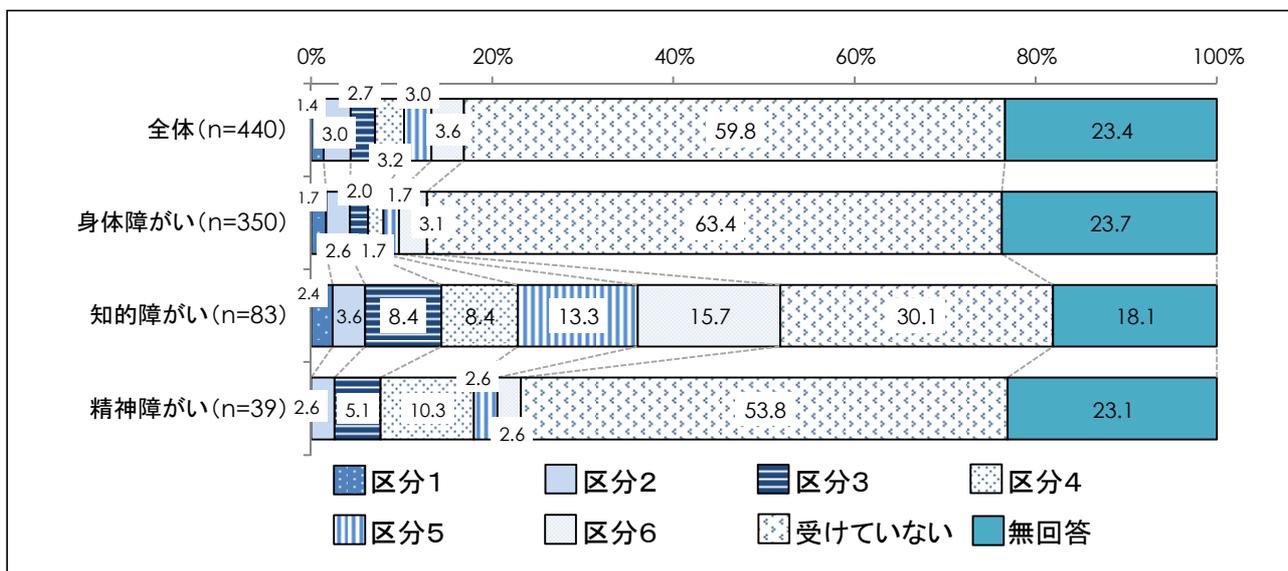


【属性別の傾向】

障がい別にみると、知的障がいでは「区分6」（15.7%）、「区分5」（13.3%）、「区分3」、「区分4」（同率で8.4%）などとなっており、精神障がいでは「区分4」（10.3%）、「区分3」（5.1%）などとなっています。

身体障がいに比べ、知的障がいや精神障がいでは、認定を受けている割合が高くなっています。

図表 37 障害支援区分の認定状況（全体、障がい別）



(2) 現在利用している福祉サービスと今後利用したい福祉サービス

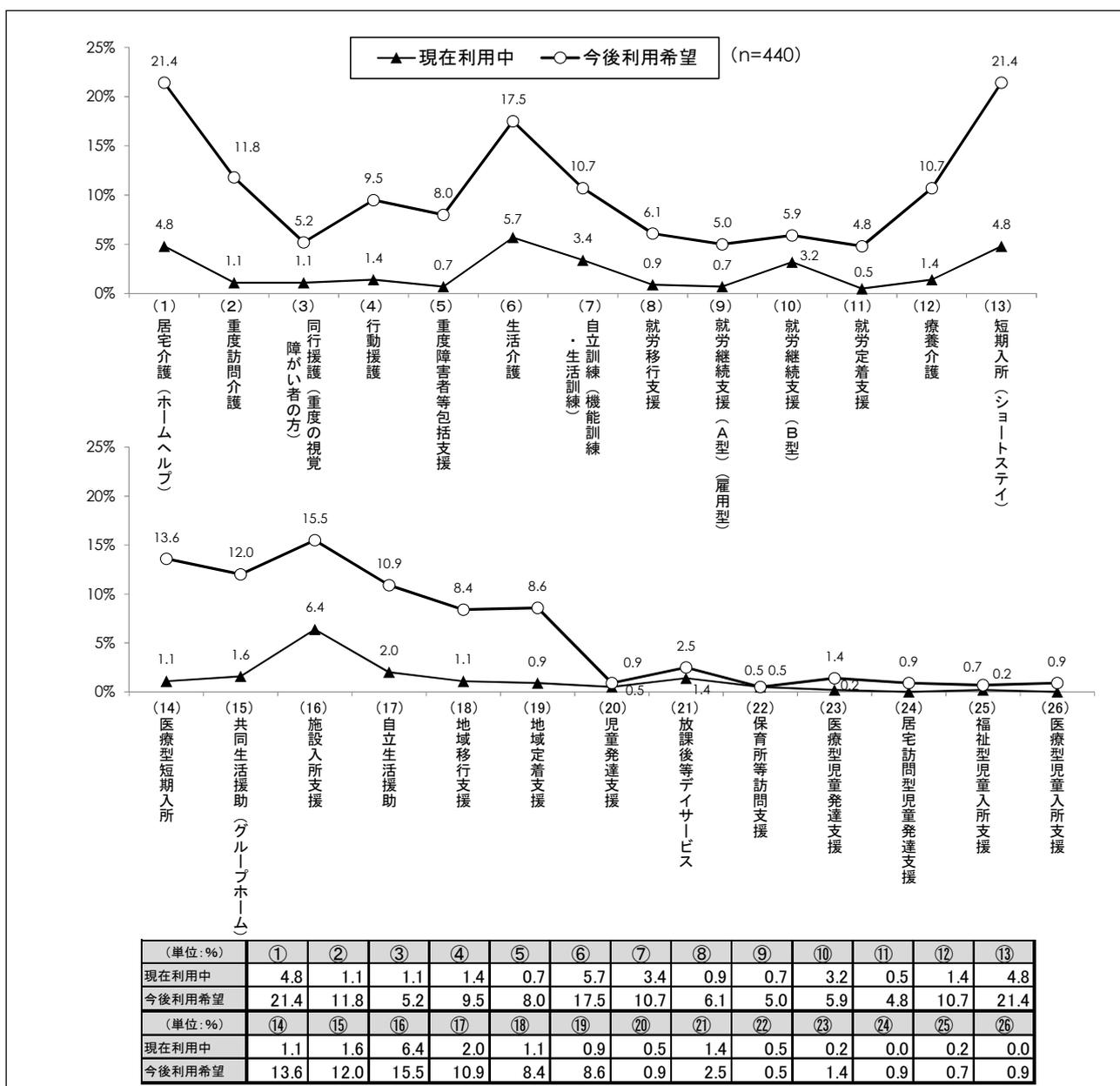
問 23 あなたは次のサービスを利用していますか。また今後利用したいと考えますか。
 (1)～(26)のそれぞれについて、「現在利用しているか」と「今後利用したいか」の両方に回答してください。(〇はそれぞれ1つ)

【全体の傾向】

現在利用している福祉サービスについてたずねたところ、「施設入所支援」(6.4%)、「生活介護」(5.7%)、「居宅介護(ホームヘルプ)」、「短期入所(ショートステイ)」(同率で4.8%)などの利用率が高くなっています。

今後利用したい福祉サービスについては、「居宅介護(ホームヘルプ)」、「短期入所(ショートステイ)」(同率で21.4%)、「生活介護」(17.5%)、「施設入所支援」(15.5%)などの利用希望が高くなっています。また、ほとんどの福祉サービスで、現在の利用者の割合より今後の利用希望者の割合が上回っており、特に「居宅介護(ホームヘルプ)」と「短期入所(ショートステイ)」は大きく上回っており、利用希望が高くなっています。

図表 38 現在利用している／今後利用したい福祉サービス (全体)



【属性別の傾向】

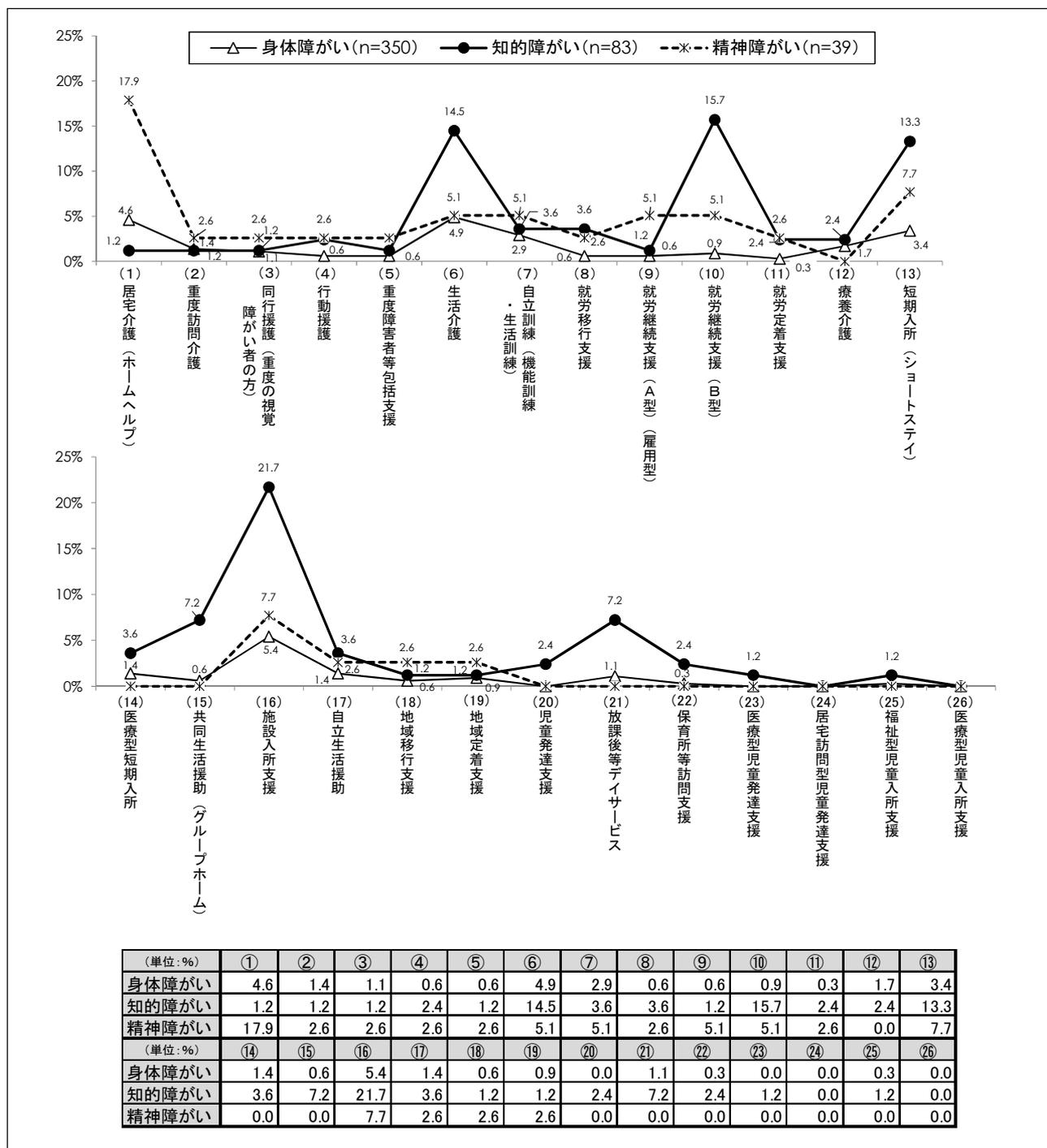
・現在の利用状況

障がい別に現在利用している福祉サービスをみると、身体障がい、精神障がいの利用率に比べて、知的障がいの利用率が高くなっています。

知的障がいでは「施設入所支援」(21.7%)、「就労継続支援B型」(15.7%)、「生活介護」(14.5%)、「短期入所(ショートステイ)」(13.3%)などの利用率が高くなっています。

精神障がいでは「居宅介護(ホームヘルプ)」(17.9%)、「短期入所(ショートステイ)」、「施設入所支援」(同率で7.7%)などの利用率が高くなっています。

図表 39 現在利用している福祉サービス(障がい別)



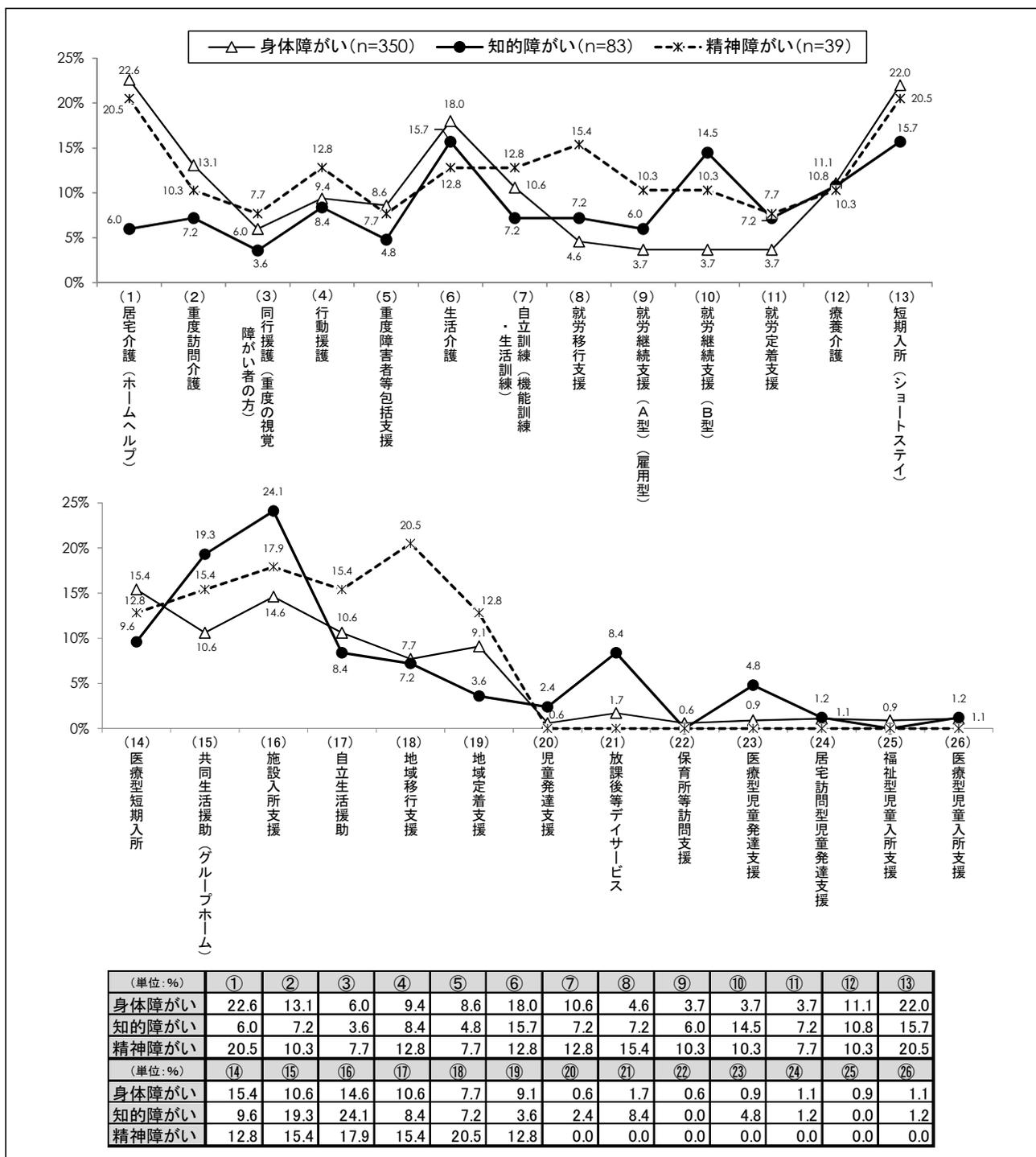
【属性別の傾向】

・今後の利用希望

障がい別に今後の利用希望の割合が高い福祉サービスをみると、身体障がいでは「居宅介護（ホームヘルプ）」（22.6%）、「短期入所（ショートステイ）」（22.0%）などの利用希望が高くなっています。知的障がいでは「施設入所支援」（24.1%）、「共同生活援助（グループホーム）」（19.3%）などの利用希望が高くなっています。

精神障がいでは「居宅介護（ホームヘルプ）」、「短期入所（ショートステイ）」、「地域移行支援」（同率で20.5%）などの利用希望が高くなっています。

図表 40 今後利用したい福祉サービス（障がい別）



(3) 現在利用している地域生活支援事業と今後利用したい地域生活支援事業

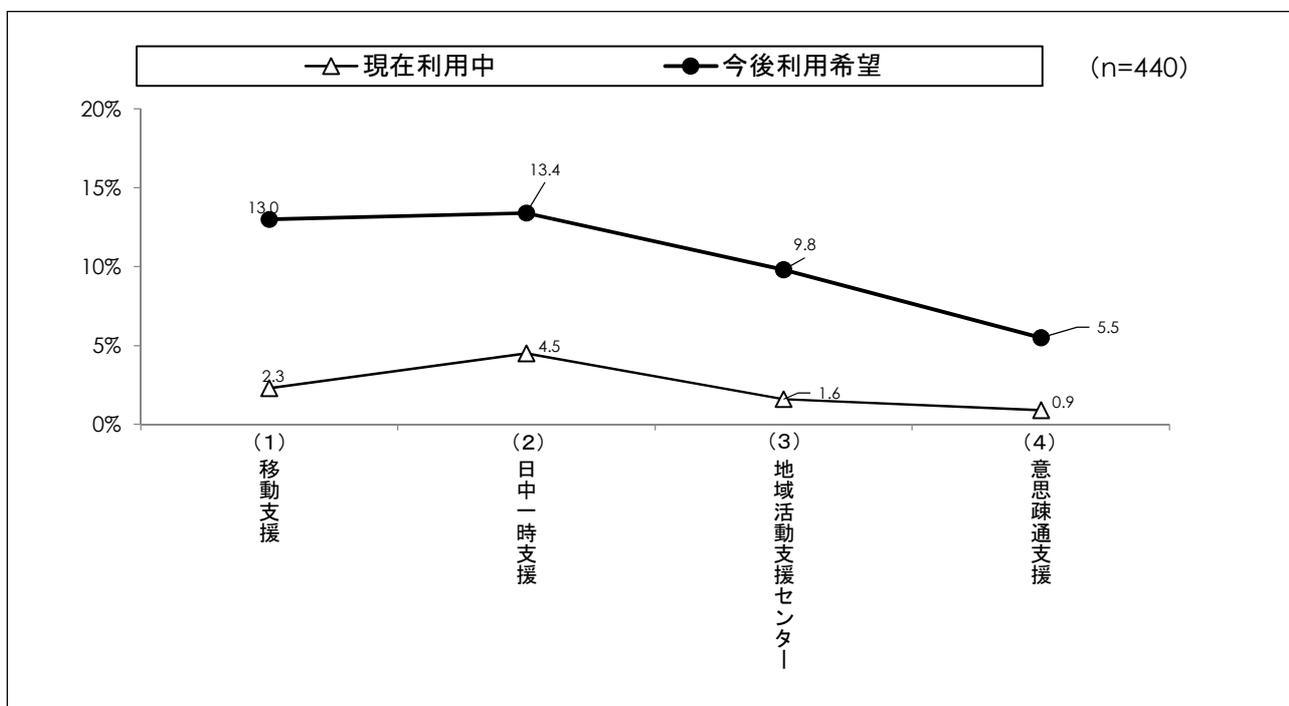
問 24 あなたは次の地域生活支援事業を利用していますか。また今後利用したいと考えますか。
(○はそれぞれ1つ)

【全体の傾向】

現在利用している地域生活支援事業についてたずねたところ、「日中一時支援」(4.5%)が最も高く、次いで「移動支援」(2.3%)、「地域活動支援センター」(1.6%)、「意思疎通支援」(0.9%)となっています。

今後利用したい地域生活支援事業については、「日中一時支援」(13.4%)が最も高く、次いで「移動支援」(13.0%)、「地域活動支援センター」(9.8%)、「意思疎通支援」(5.5%)となっています。

図表 41 現在利用している地域生活支援事業と今後利用したい地域生活支援事業 (全体)



【属性別の傾向】

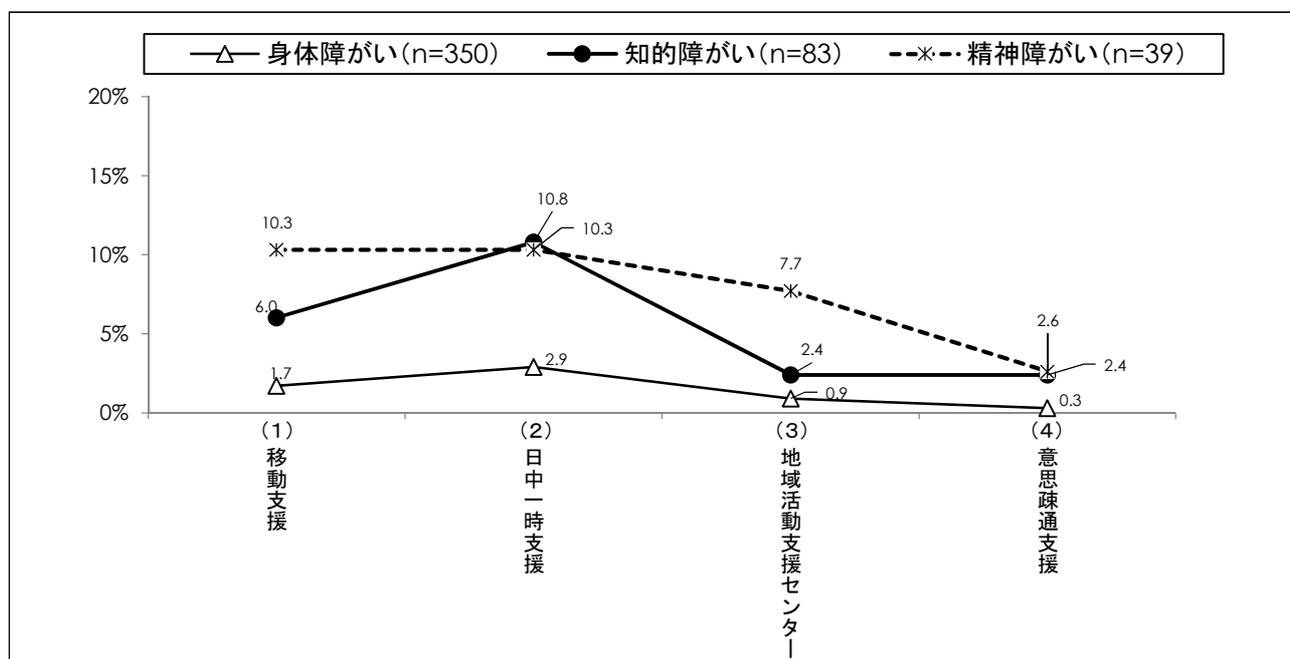
・現在の利用状況

障がい別に現在利用している地域生活支援事業をみると、身体障がいでは「日中一時支援」(2.9%)が最も高く、次いで「移動支援」(1.7%)、「地域活動支援センター」(0.9%)、「意思疎通支援」(0.3%)となっています。

知的障がいでは「日中一時支援」(10.8%)が最も高く、次いで「移動支援」(6.0%)、「地域活動支援センター」、「意思疎通支援」(同率で2.4%)となっています。

精神障がいでは「移動支援」、「日中一時支援」(同率で10.3%)が最も高く、次いで「地域活動支援センター」(7.7%)、「意思疎通支援」(2.6%)となっています。

図表 42 現在利用している地域生活支援事業（障がい別）



【属性別の傾向】

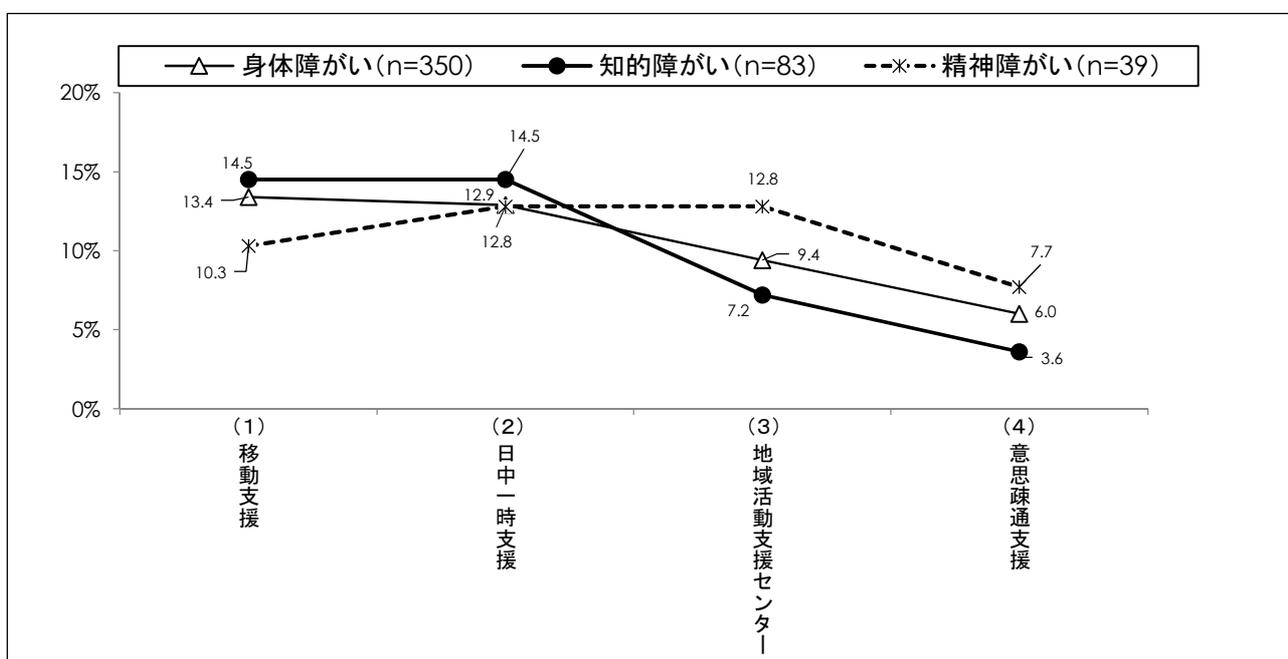
・今後の利用希望

障がい別に今後利用したい地域生活支援事業をみると、身体障がいでは「移動支援」(13.4%)が最も高く、次いで「日中一時支援」(12.9%)、「地域活動支援センター」(10.3%)、「意思疎通支援」(6.0%)となっています。

知的障がいでは「日中一時支援」(28.9%)が最も高く、次いで「移動支援」(14.5%)、「地域活動支援センター」(7.2%)、「意思疎通支援」(3.6%)となっています。

精神障がいでは、「日中一時支援」(12.8%)が最も高く、次いで「地域活動支援センター」、「移動支援」(同率で10.3%)、「意思疎通支援」(7.7%)となっています。

図表 43 今後利用したい地域生活支援事業（障がい別）



6 情報収集について

(1) サービスに関する情報の入手先

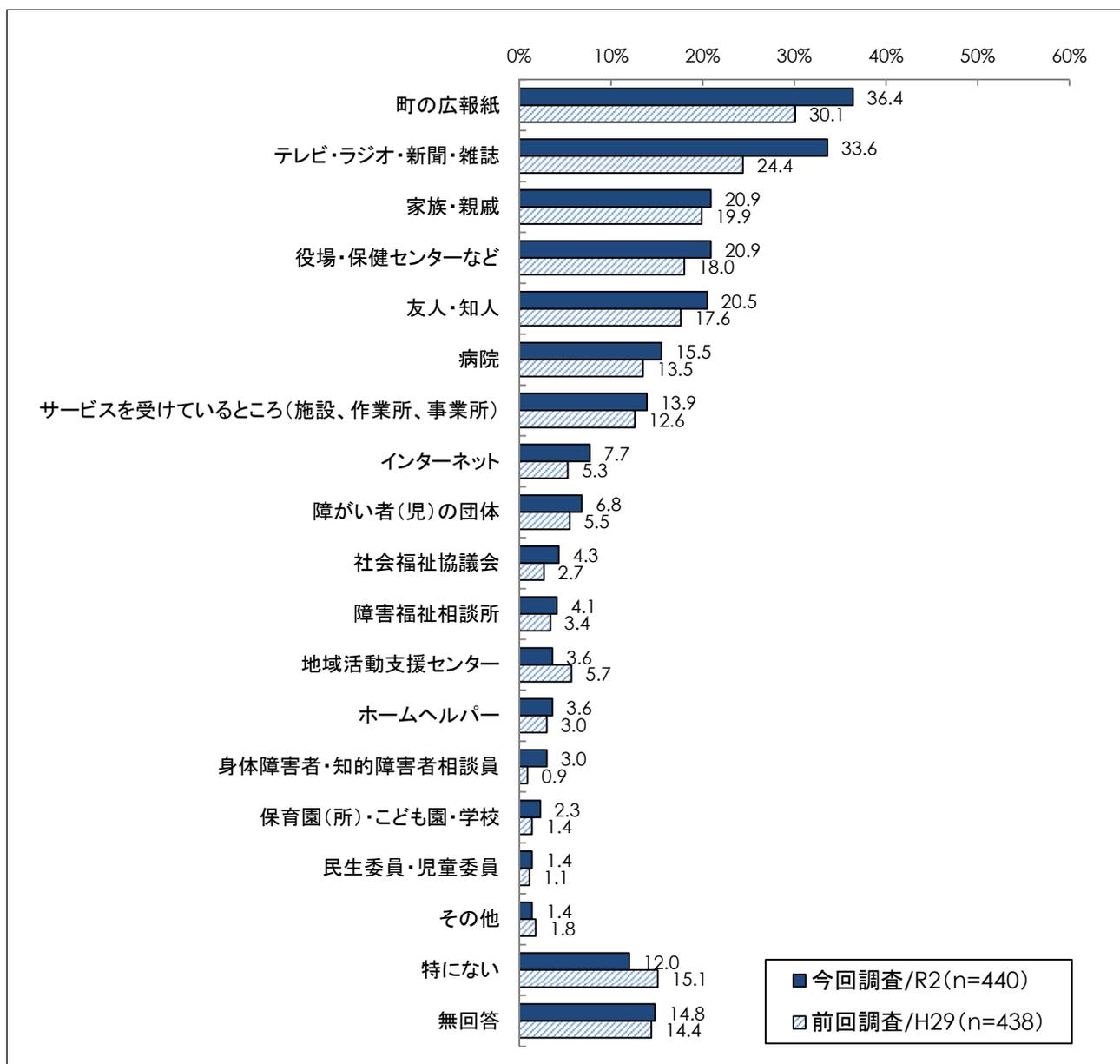
問 25 サービスに関する情報をどこから入手していますか。(おもなもの5つまで○)

【全体の傾向】

サービスに関する情報の入手先についてたずねたところ、「町の広報紙」(36.4%)が最も高く、次いで「テレビ・ラジオ・新聞・雑誌」(33.6%)、「家族・親戚」、「役場・保健センターなど」(同率で20.9%)、「友人・知人」(20.5%)などとなっています。

前回調査と比較すると、「テレビ・ラジオ・新聞・雑誌」が9.2ポイント増加しています。

図表 44 サービスに関する情報の入手先(全体、前回との比較/複数回答)



【属性別の傾向】

障がい別にみると、身体障がいでは「町の広報紙」(40.3%)が最も高く、次いで「テレビ・ラジオ・新聞・雑誌」(34.6%)、「家族・親戚」(23.1%)などとなっています。

知的障がいでは「サービスを受けているところ(施設、作業所、事業所)」(36.1%)が最も高く、次いで「テレビ・ラジオ・新聞・雑誌」(30.1%)、「友人・知人」(24.1%)などとなっています。

精神障がいでは「テレビ・ラジオ・新聞・雑誌」(38.5%)が最も高く、次いで「役場・保健センターなど」(23.1%)、「町の広報紙」、「病院」(同率で20.5%)などとなっています。

図表 45 サービスに関する情報の入手先(全体、障がい別/複数回答)

		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)	(12)	(13)	(14)	(15)	(16)	(17)	(18)	
	全体(人)	町の広報紙	テレビ・ラジオ・新聞・雑誌	家族・親戚	役場・保健センターなど	友人・知人	病院	サービスを受けているところ(施設、作業所、事業所)	インターネット	障がい者(児)の団体	社会福祉協議会	障害福祉相談所	地域活動支援センター	ホームヘルパー	身体障害者・知的障害者相談員	保育園(所)・子ども園・学校	民生委員・児童委員	その他	特になし	無回答
【表の見方】 単位=比率(%)																				
全体	440	36.4	33.6	20.9	20.9	20.5	15.5	13.9	7.7	6.8	4.3	4.1	3.6	3.6	3.0	2.3	1.4	1.4	12.0	14.8
障がい別																				
身体障がい	350	40.3	34.6	23.1	22.0	22.0	15.4	10.9	7.7	5.1	3.7	3.4	2.3	3.7	2.6	1.7	1.4	1.4	11.4	15.7
知的障がい	83	21.7	30.1	12.0	15.7	24.1	14.5	36.1	7.2	15.7	4.8	12.0	3.6	3.6	6.0	10.8	2.4	1.2	13.3	9.6
精神障がい	39	20.5	38.5	7.7	23.1	7.7	20.5	10.3	7.7	5.1	2.6	7.7	10.3	10.3	5.1	2.6	-	-	12.8	12.8

7 保育・教育について

(1) お子さんの日中の主な過ごし方

問 26 未就学児（小学校に入学する前の方）の保護者の方におうかがいします。現在お子さんは、日中を主にどこで過ごしていますか。（〇は1つ）

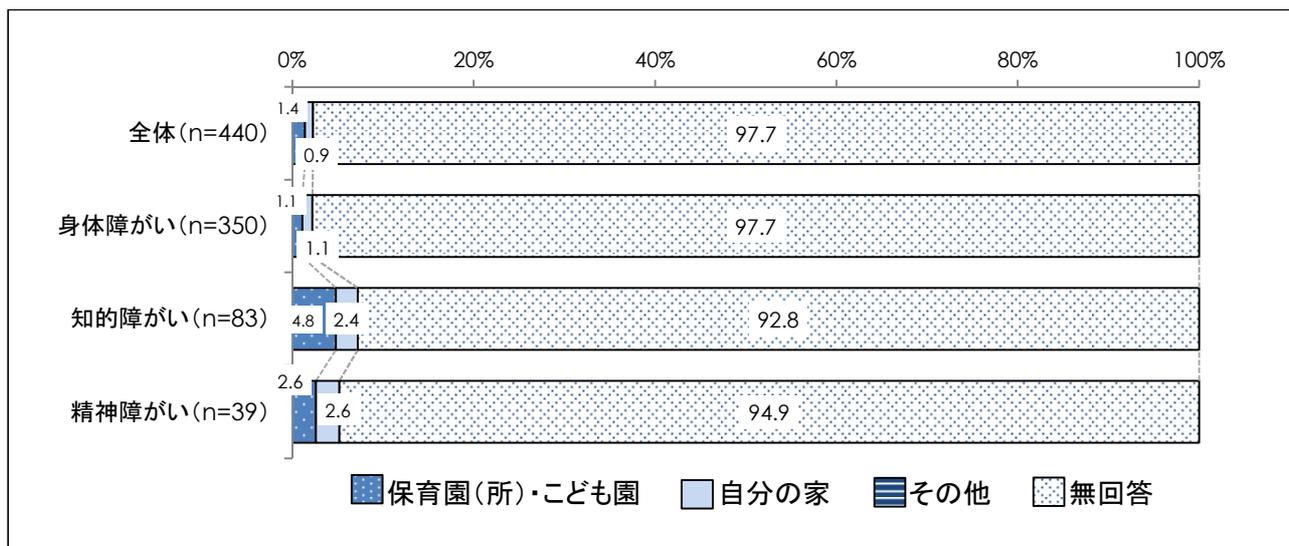
【全体の傾向】

お子さんの日中の主な過ごし方についてたずねたところ、「保育園（所）・こども園」は1.4%となっており、「自分の家」が0.9%となっています。

【属性別の傾向】

障がい別にみると、身体障がい、精神障がいでは「保育園（所）・こども園」と「自分の家」が同率、知的障がいでは「保育園（所）・こども園」が4.8%、「自分の家」が2.4%となっています。

図表 46 お子さんの日中の主な過ごし方（全体、障がい別）



問 27 未就学児（小学校に入学する前の方）の保護者の方におうかがいします。
 今後、小学校についてはどのように考えていますか。（〇は1つ）

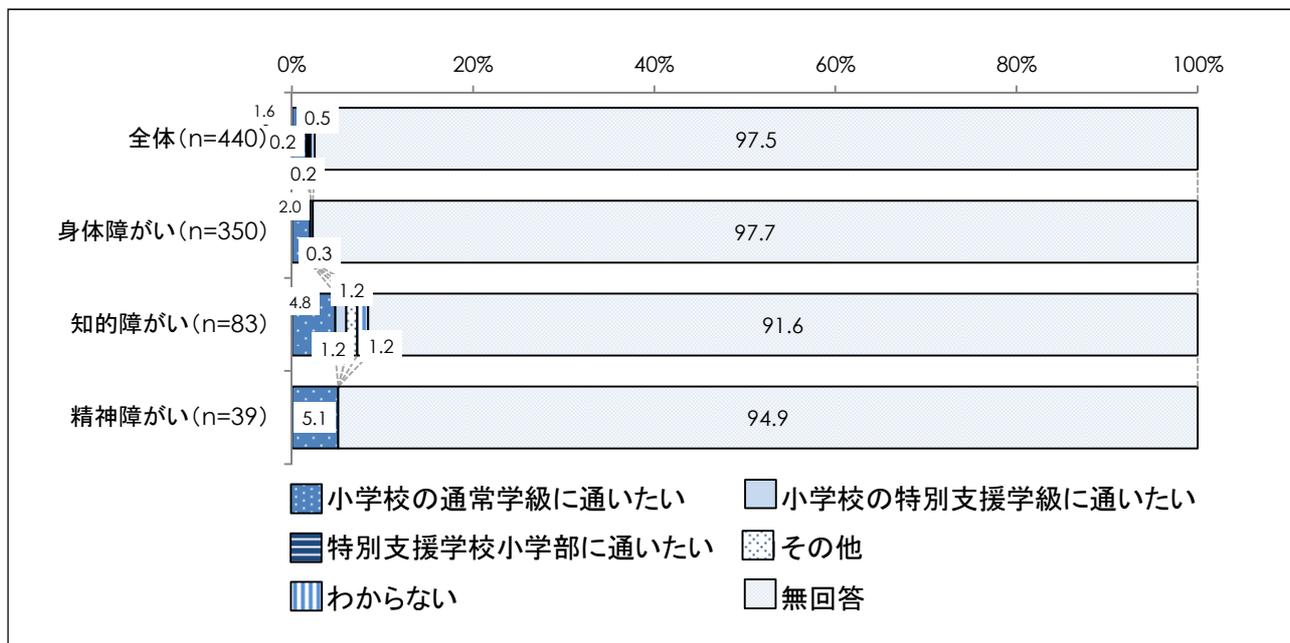
【全体の傾向】

小学校の進路希望についてたずねたところ、「小学校の通常学級に通いたい」は 1.6%となっており、「小学校の特別学級に通いたい」、「その他」（同率で 0.2%）となっています。

【属性別の傾向】

障がい別にみると、どの障がいにおいても「小学校の通常学級に通いたい」が最も高くなっています。

図表 47 小学校の進路希望（全体、障がい別）



(2) 通学状況

問 28 あなたは現在、学校に通っていますか。(〇は1つ)

【全体の傾向】

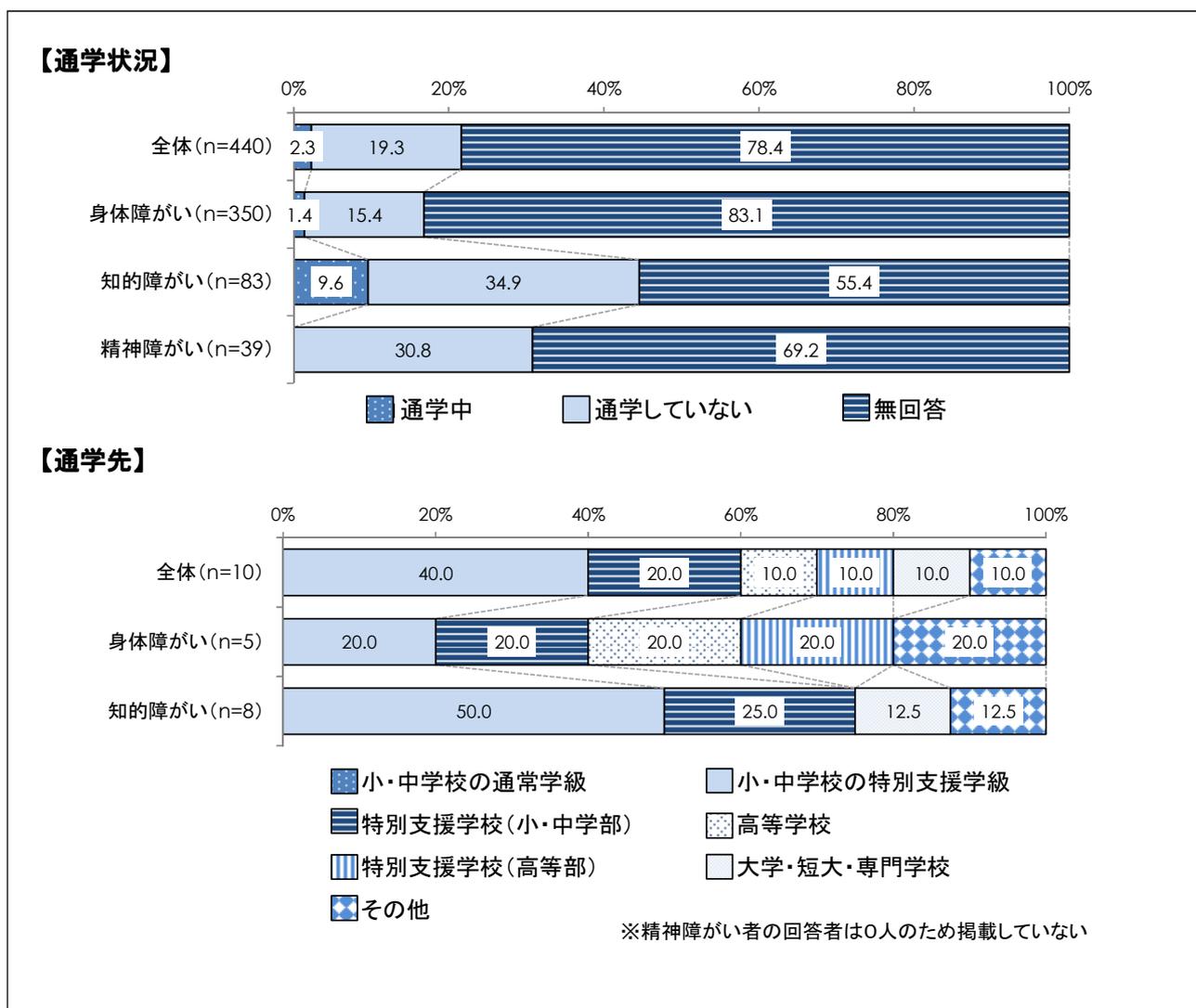
通学状況についてたずねたところ、「通学中」が2.3%、「通学していない」が19.3%となっており、「通学中」と回答した方に通学先をたずねたところ、「小・中学校の通常学級」(40.0%)、「特別支援学校(小・中学部)」(20.0%)などとなっています。

【属性別の傾向】

障がい別にみると、身体障がいでは「通学中」が1.4%、「通学していない」が15.4%となっています。

知的障がいでは「通学中」が9.6%、「通学していない」が30.8%となっています。

図表 48 通学状況と通学先 (全体、障がい別)



(3) 学校卒業後の進路

問 28-1 問 28 で「1. 通学中」とお答えした方におうかがいします。
現在の学校を卒業した後の進路をどのように考えていますか。(〇は1つ)

【全体の傾向】

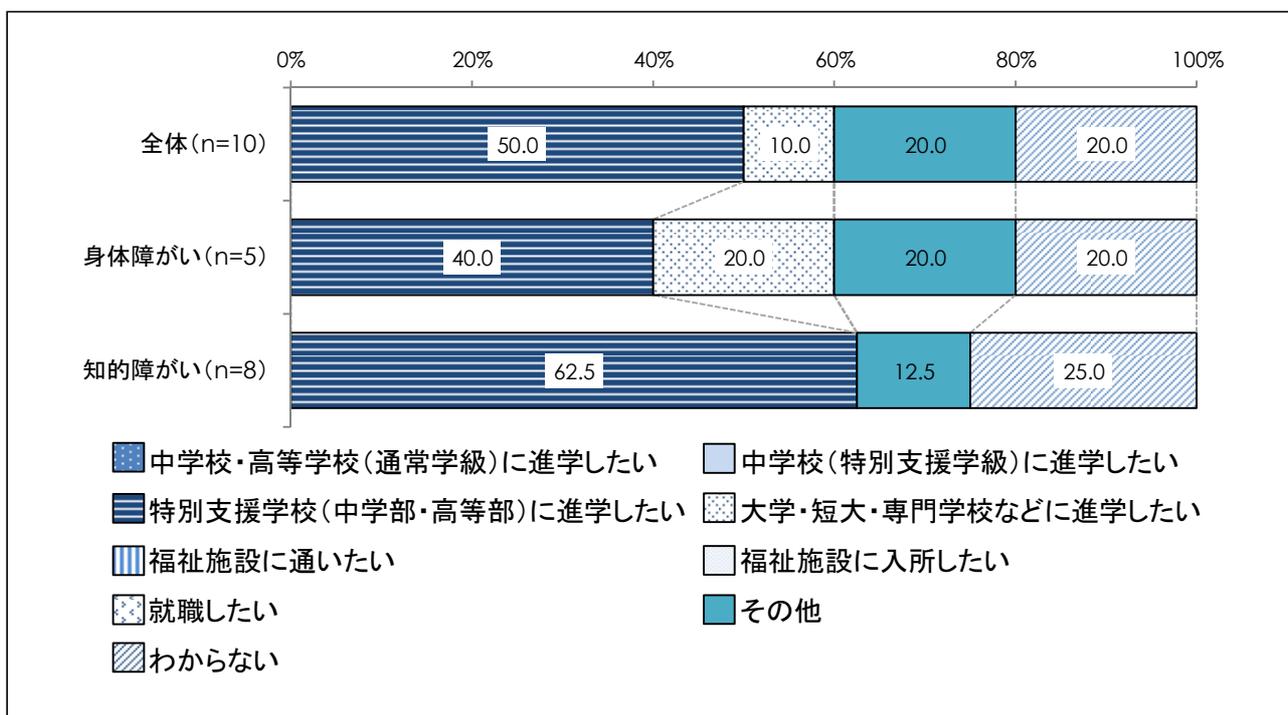
現在の学校を卒業した後の進路についてたずねたところ、「特別支援学校（中学部・高等部）に進学したい」（50.0%）が最も高く、次いで「その他」、「わからない」（同率で 20.0%）などとなっています。

【属性別の傾向】

障がい別にみると、身体障がいでは「特別支援学校（中学部・高等部）に進学したい」（40.0%）が最も高くなっています。

知的障がいでは「特別支援学校（中学部・高等部）に進学したい」（62.5%）が最も高くなっています。

図表 49 学校卒業後の進路（全体、障がい別）



(4) 通園・通学で困っていること

問 29 通園・通学中の方におうかがいします。

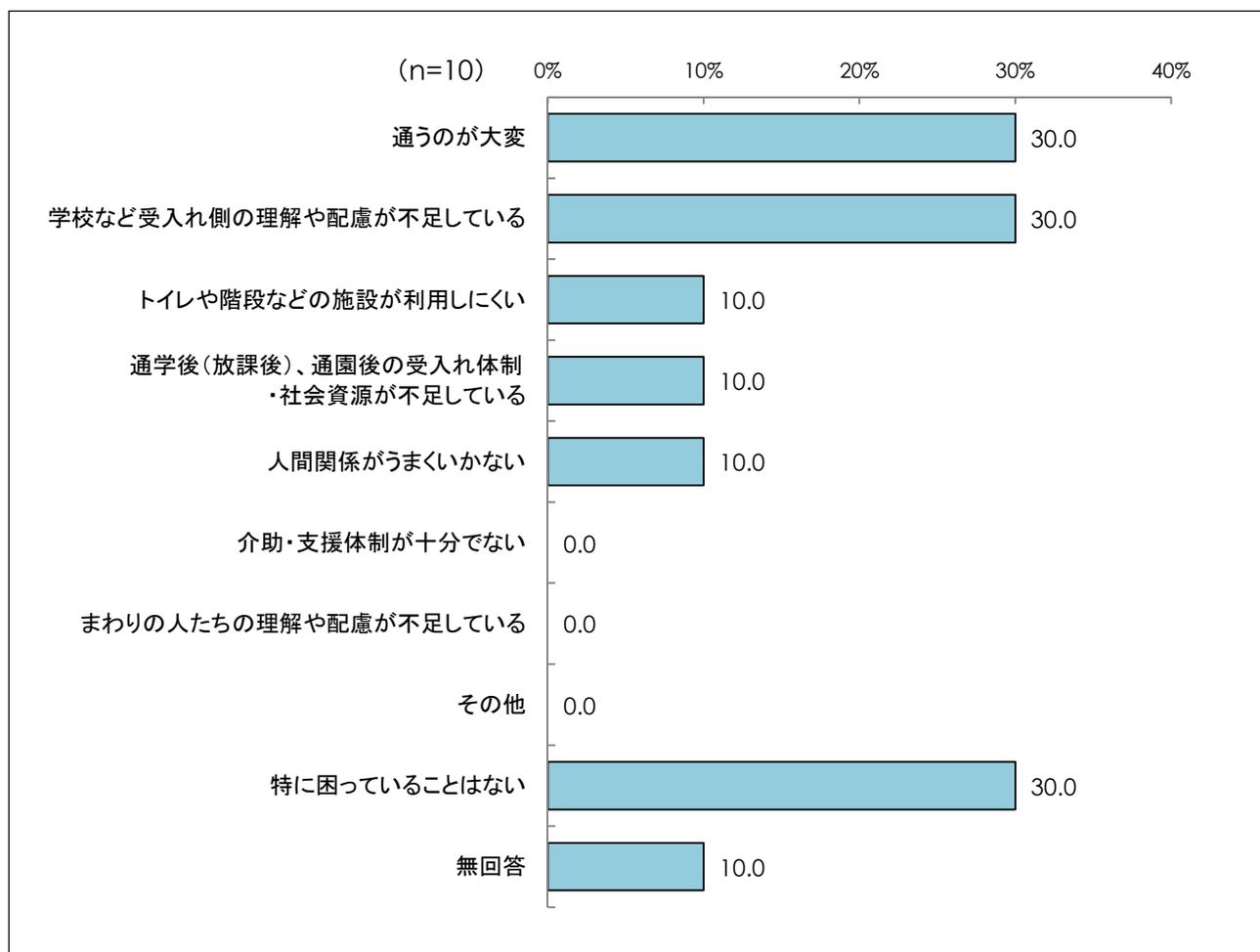
通園・通学で困っていることはありますか。(〇はあてはまるものすべて)

【全体の傾向】

通園・通学で困っていることについてたずねたところ、「通うのが大変」、「学校など受入れ側の理解や配慮が不足している」(同率で 30.0%) が最も高く、次いで「トイレや階段などの施設が利用しにくい」、「通学後(放課後)、通園後の受入れ体制・社会資源が不足している」、「人間関係がうまくいかない」(同率で 10.0%) などとなっています。

一方、「特に困っていることはない」は 30.0% となっており、全体では第 1 位の割合となっています。

図表 50 通園・通学で困っていること (全体/複数回答)



【属性別の傾向】

障がい別にみると、身体障がいでは「通うのが大変」、「特に困っていることはない」(同率で 40.0%) が最も高く、次いで「トイレや階段などの施設が利用しにくい」、「人間関係がうまくいかない」(同率で 20.0%) などとなっています。

知的障がいでは「通うのが大変」、「学校など受入れ側の理解や配慮が不足している」(同率で 37.5%) が最も高く、次いで「トイレや階段などの施設が利用しにくい」、「通学後（放課後）、通園後の受入れ体制・社会資源が不足している」、「人間関係がうまくいかない」、「特に困っていることはない」(同率で 12.5%) などとなっています。

図表 51 通園・通学で困っていること（全体、障がい別／複数回答）

		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)		
		全体 (人)	通うのが 大変	学校など 受入れ側 の理解や 配慮が 不足して いる	トイレや 階段など の施設が 利用し にくい	通学後 (放課後) ・社会資 源が不足 している	人間関係 がうまく いかない	介助・支 援体制が 十分でない	まわりの 人たちの 理解や配 慮が不足 している	その他	特に困っ ているこ とはない	無回 答
【表の見方】 単位=比率(%)												
全体		10	30.0	30.0	10.0	10.0	10.0	-	-	-	30.0	10.0
障がい 別	身体障がい	5	40.0	-	20.0	-	20.0	-	-	-	40.0	-
	知的障がい	8	37.5	37.5	12.5	12.5	12.5	-	-	-	12.5	12.5
	精神障がい	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

8 雇用・就労について

(1) 現在の就労状況

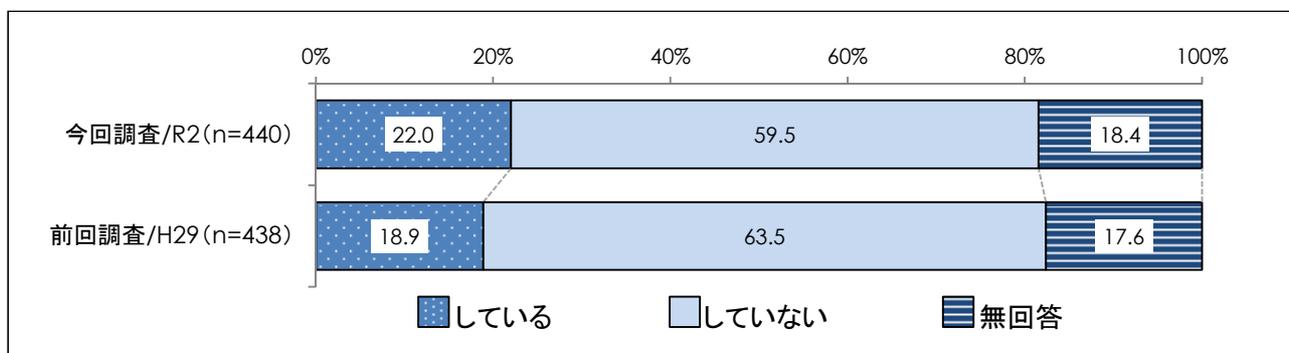
問 30 あなたは、現在仕事をしていますか。(〇は1つ)

【全体の傾向】

現在の就労状況についてたずねたところ、「している」が22.0%、「していない」が59.5%となっています。

前回調査と比較すると、前回同様の結果となっており、割合に大差はみられません。

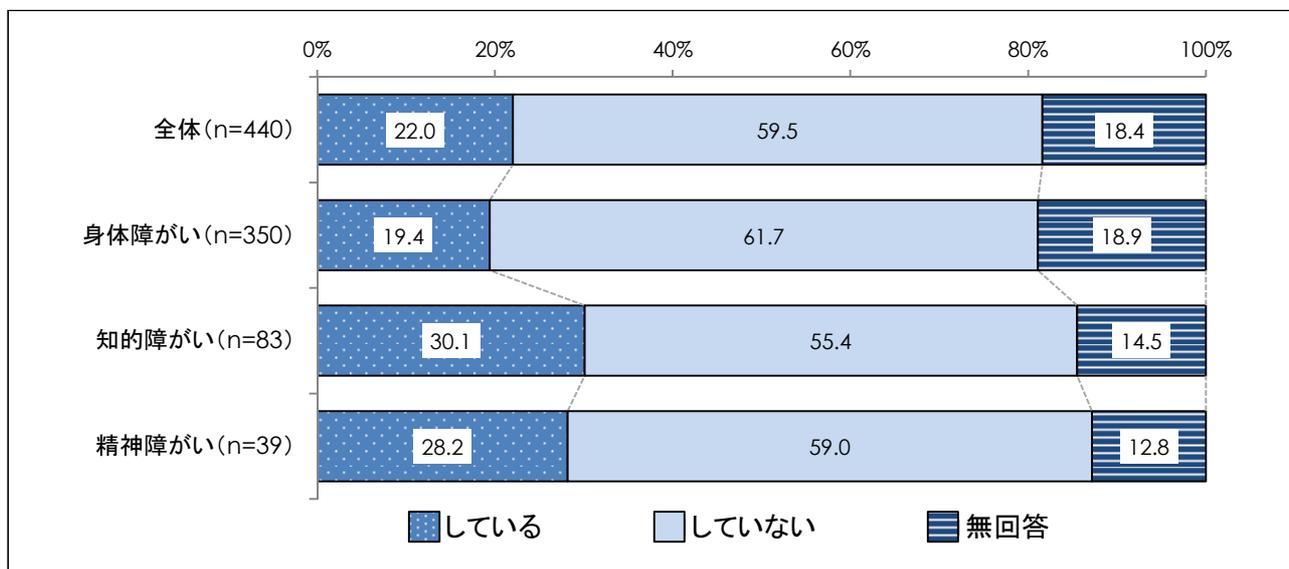
図表 52 現在の就労状況（全体、前回との比較）



【属性別の傾向】

障がい別にみると、「している」の割合は、知的障がい(30.1%)が最も高く、精神障がい(28.2%)、身体障がい(19.4%)となっています。

図表 53 現在の就労状況（全体、障がい別）



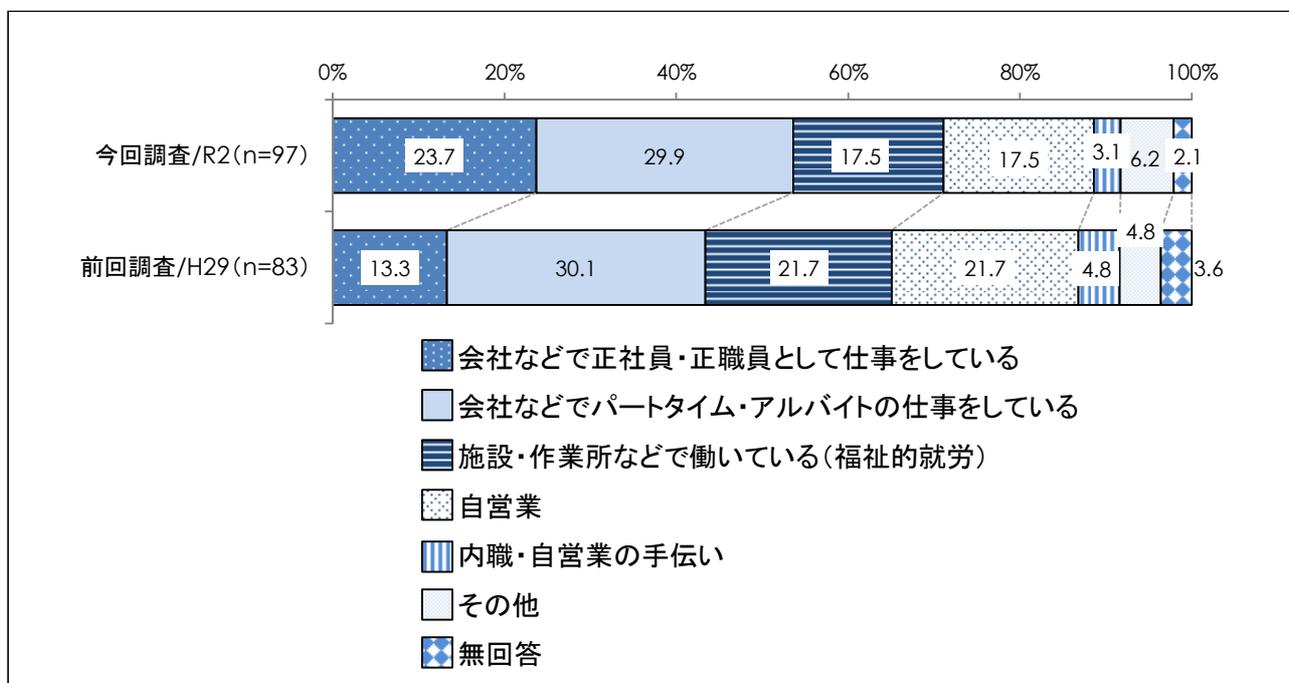
問 30-1 問 30 で「1 している」と答えた方におうかがいします。
就労の状況や形態は次のどれですか。(〇は1つ)

【全体の傾向】

現在の就労形態についてたずねたところ、「会社などでパートタイム・アルバイトの仕事をしている」(29.9%) が最も高く、次いで「会社などで正社員・正職員として仕事をしている」(23.7%)、「施設・作業所などで働いている(福祉的就労)」(17.5%)、「自営業」(同率で 17.5%) などとなっています。

前回調査と比較すると、「会社などで正社員・正職員として仕事をしている」は 10.4 ポイント増加し、一方、「施設・作業所などで働いている(福祉的就労)」と「自営業」はいずれも 4.2 ポイント減少しています。

図表 54 現在の就労形態(全体、前回との比較)



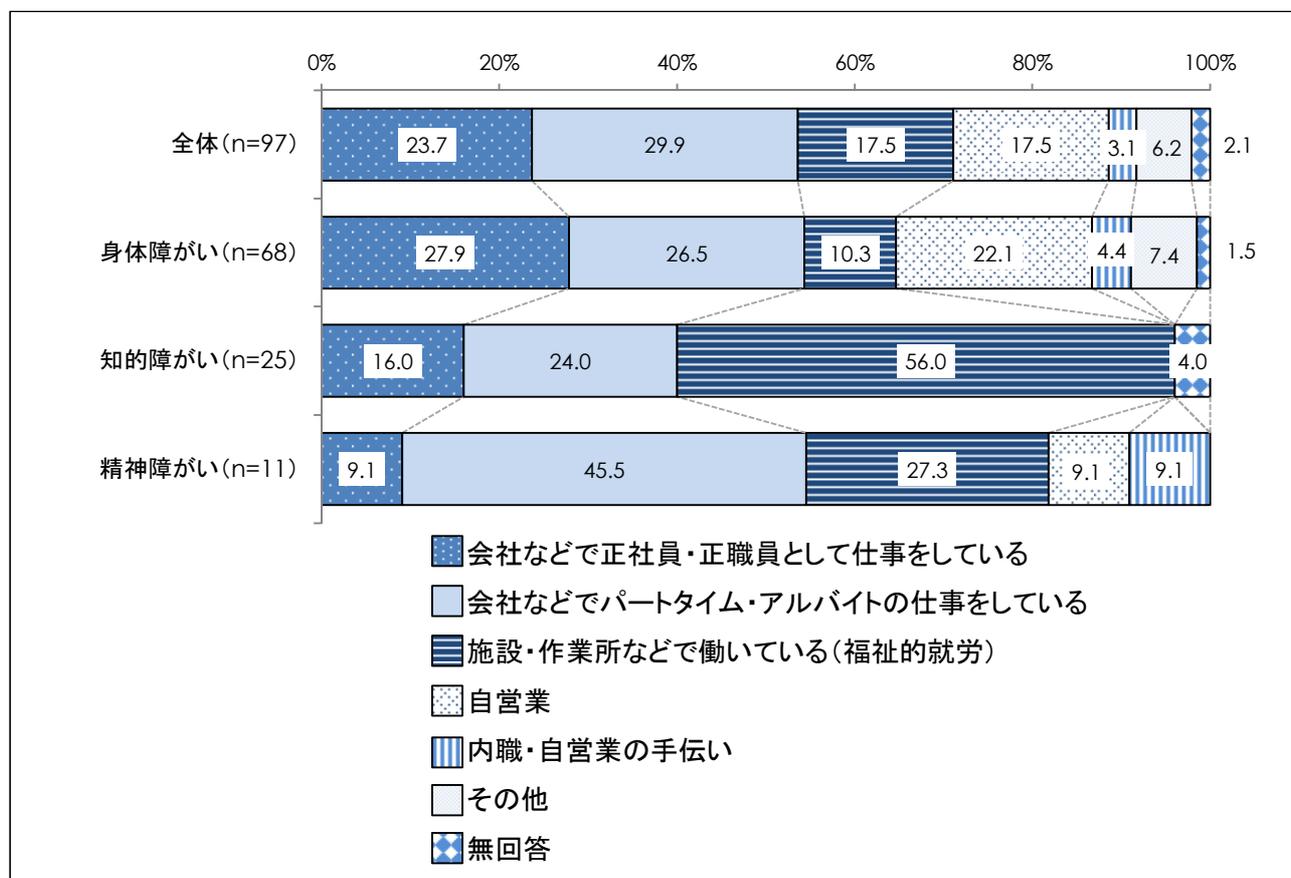
【属性別の傾向】

障がい別にみると、身体障がいでは「会社などで正社員・正職員として仕事をしている」(27.9%)が最も高く、次いで「会社などでパートタイム・アルバイトの仕事をしている」(26.5%)、「自営業」(22.1%) などとなっています。

知的障がいでは「施設・作業所などで働いている(福祉的就労)」(56.0%)が最も高く、次いで「会社などでパートタイム・アルバイトの仕事をしている」(24.0%) などとなっています。

精神障がいでは「会社などでパートタイム・アルバイトの仕事をしている」(45.5%)が最も高く、次いで「施設・作業所などで働いている(福祉的就労)」(27.3%) などとなっています。

図表 55 現在の就労形態 (全体、障がい別)



(2) 就労していない理由

問 30-2 問 30 で「2 していない」と答えた方にお聞きします。

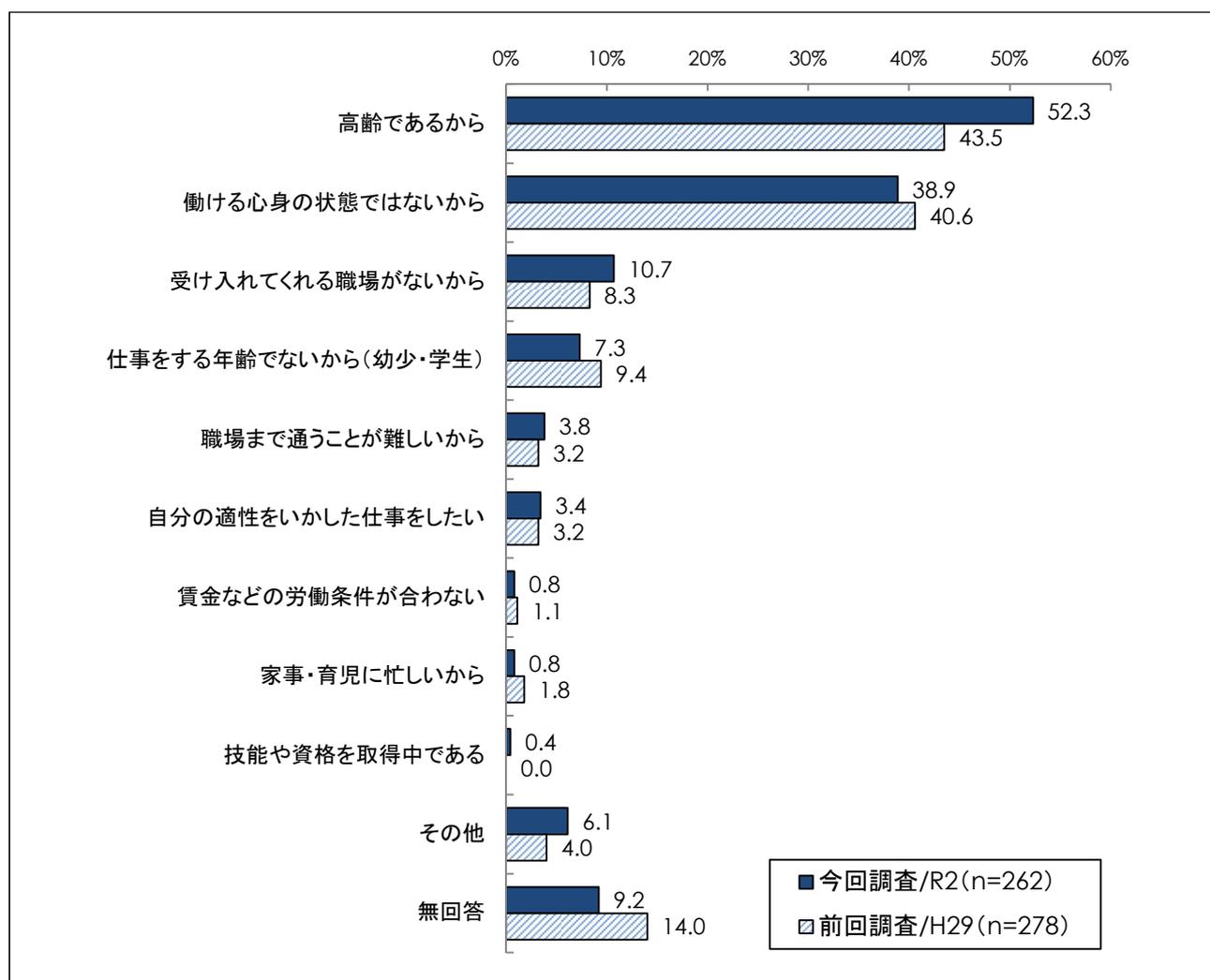
現在仕事をしていない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

【全体の傾向】

現在就労していない理由についてたずねたところ、「高齢であるから」(52.3%)が最も高く、次いで「働ける心身の状態ではないから」(38.9%)となっており、この2項目が現在就労していない理由となっており、その割合が突出しています。次いで「受け入れてくれる職場がないから」(10.7%)、「仕事をする年齢でないから(幼少・学生)」(7.3%)などとなっています。

前回調査と比較すると、「高齢であるから」が8.8ポイント増加しています。

図表 56 就労していない理由(全体、前回との比較/複数回答)



【属性別の傾向】

障がい別にみると、身体障がいでは「高齢であるから」(57.4%)が最も高く、次いで「働ける心身の状態ではないから」(37.5%)、「受け入れてくれる職場がないから」(8.8%)などとなっています。

知的障がいでは「働ける心身の状態ではないから」(37.0%)が最も高く、次いで「受け入れてくれる職場がないから」(21.7%)、「高齢であるから」(19.6%)などとなっています。

精神障がいでは「働ける心身の状態ではないから」(60.9%)が最も高く、次いで「高齢であるから」(30.4%)、「その他」(17.4%)などとなっています。

図表 57 就労していない理由（全体、障がい別／複数回答）

		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)		
		高齢であるから	働ける心身の状態ではないから	受け入れてくれる職場がないから	少・仕事を する年齢 でないから (幼・学生)	職場まで 通うことが 難しいから	自分の適性 をいかした 仕事をした い	賃金などの 労働条件が 合わない	家事・育児 に忙しいから	技能や資格 を取得中である	その他	無回答	
【表の見方】 単位＝比率(%)													
全体		262	52.3	38.9	10.7	7.3	3.8	3.4	0.8	0.8	0.4	6.1	9.2
障がい別	身体障がい	216	57.4	37.5	8.8	6.5	3.2	3.2	0.9	0.9	-	5.1	9.3
	知的障がい	46	19.6	37.0	21.7	17.4	4.3	-	-	-	2.2	6.5	13.0
	精神障がい	23	30.4	60.9	13.0	4.3	4.3	4.3	-	4.3	-	17.4	-

(3) 今後の就労意向

問 30-3 問 30 で「2 していない」と答えた方にお聞きします。
 就労する場合、どのような仕事につきたいですか。(〇は1つ)

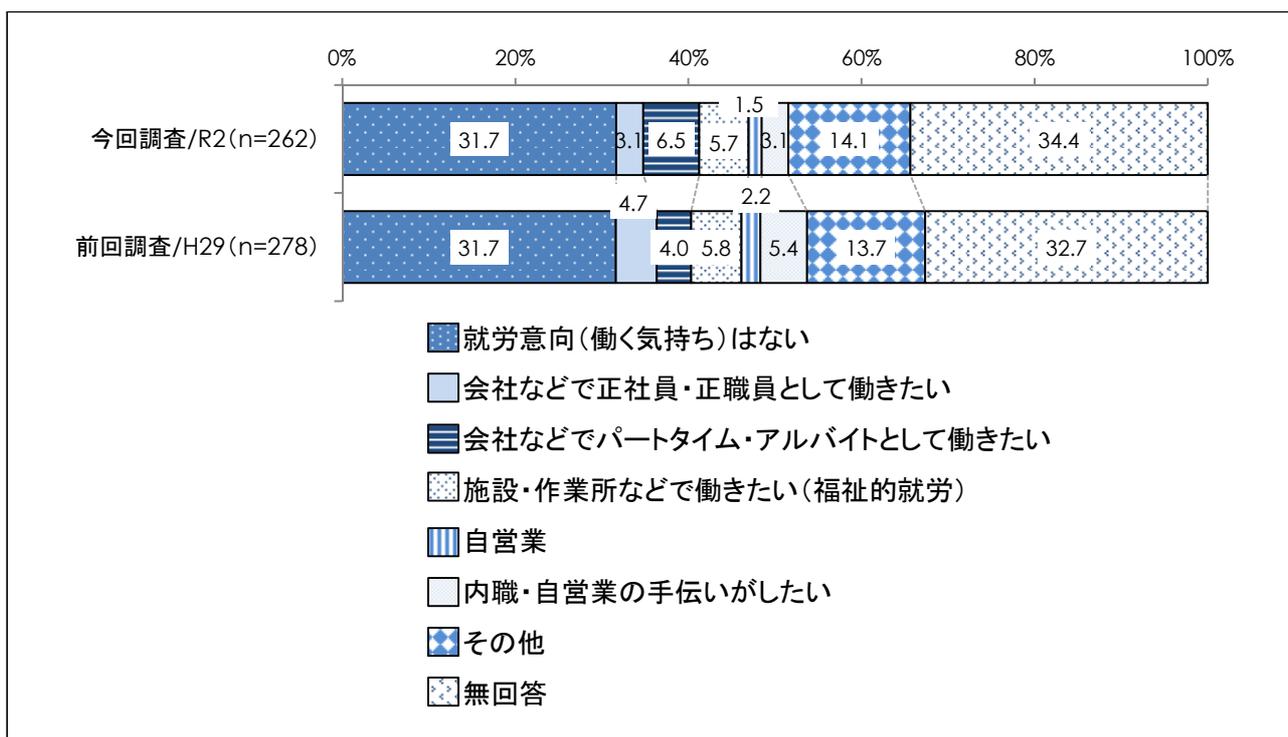
【全体の傾向】

現在就労していないと回答した方に、どのような仕事につきたいかについてたずねたところ、「就労意向(働く気持ち)はない」(31.7%)が最も高く、次いで「その他」(14.1%)、「会社などでパートタイム・アルバイトとして働きたい」(6.5%)、「施設・作業所などで働きたい(福祉的就労)」(5.7%)などとなっています。

仕事をしていない主な理由として、「高齢であるから」や「働ける心身の状態ではないから」があげられていたため、今後の就労意向がない人が3割を占めており、会社などで働きたい人の割合は低くなっています。

前回調査と比較すると、前回同様の結果となっており、割合に大差はみられません。

図表 58 今後の就労意向(全体、前回との比較)

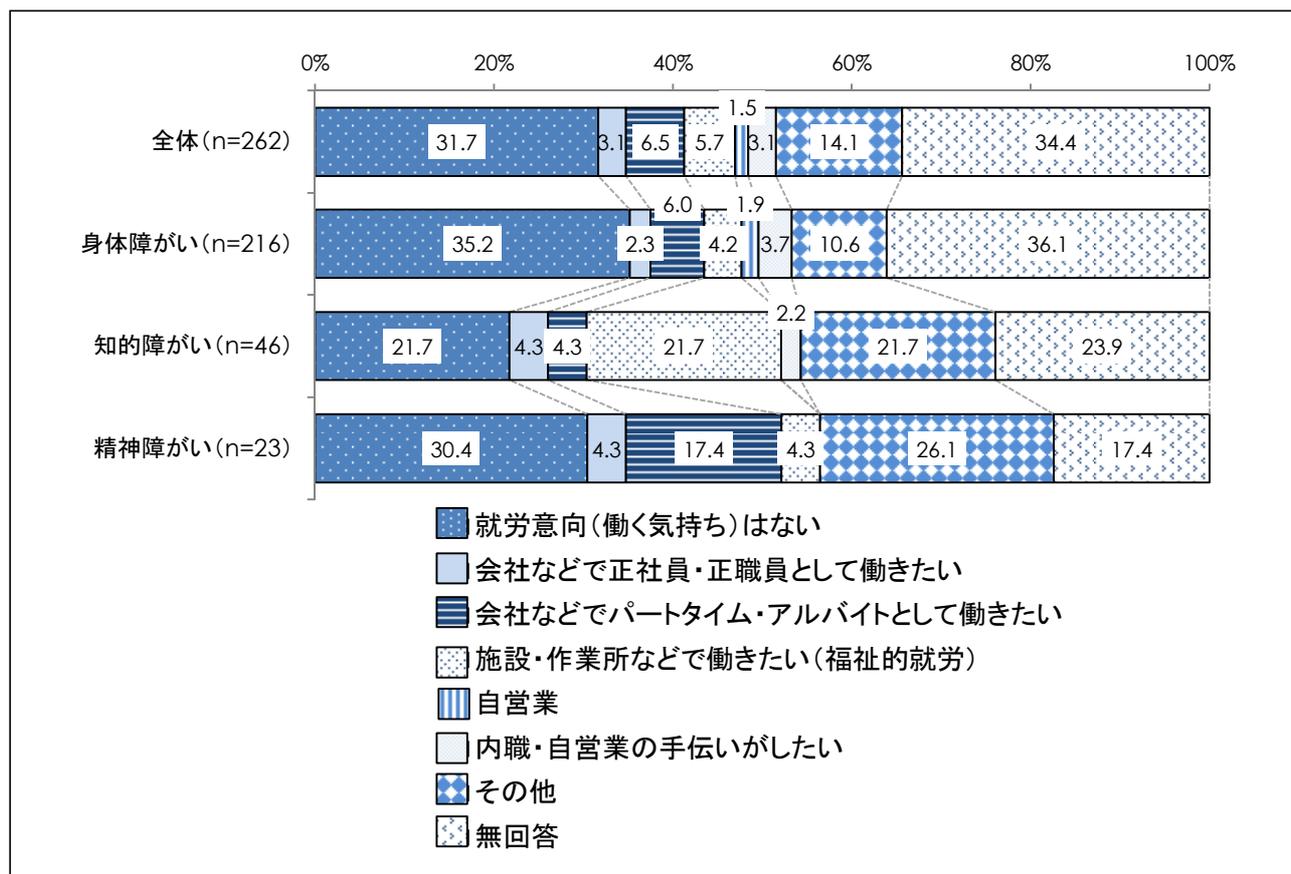


【属性別の傾向】

障がい別にみると、身体障がい、精神障がいでは「就労意向（働く気持ち）はない」が最も高く、3割を超えています。

一方、知的障がいでは「就労意向（働く気持ち）はない」、「施設・作業所などで働きたい（福祉的就労）」、「その他」（同率で21.7%）が最も高くなっています。

図表 59 今後の就労意向（全体、障がい別）



(4) 就労のために必要な支援

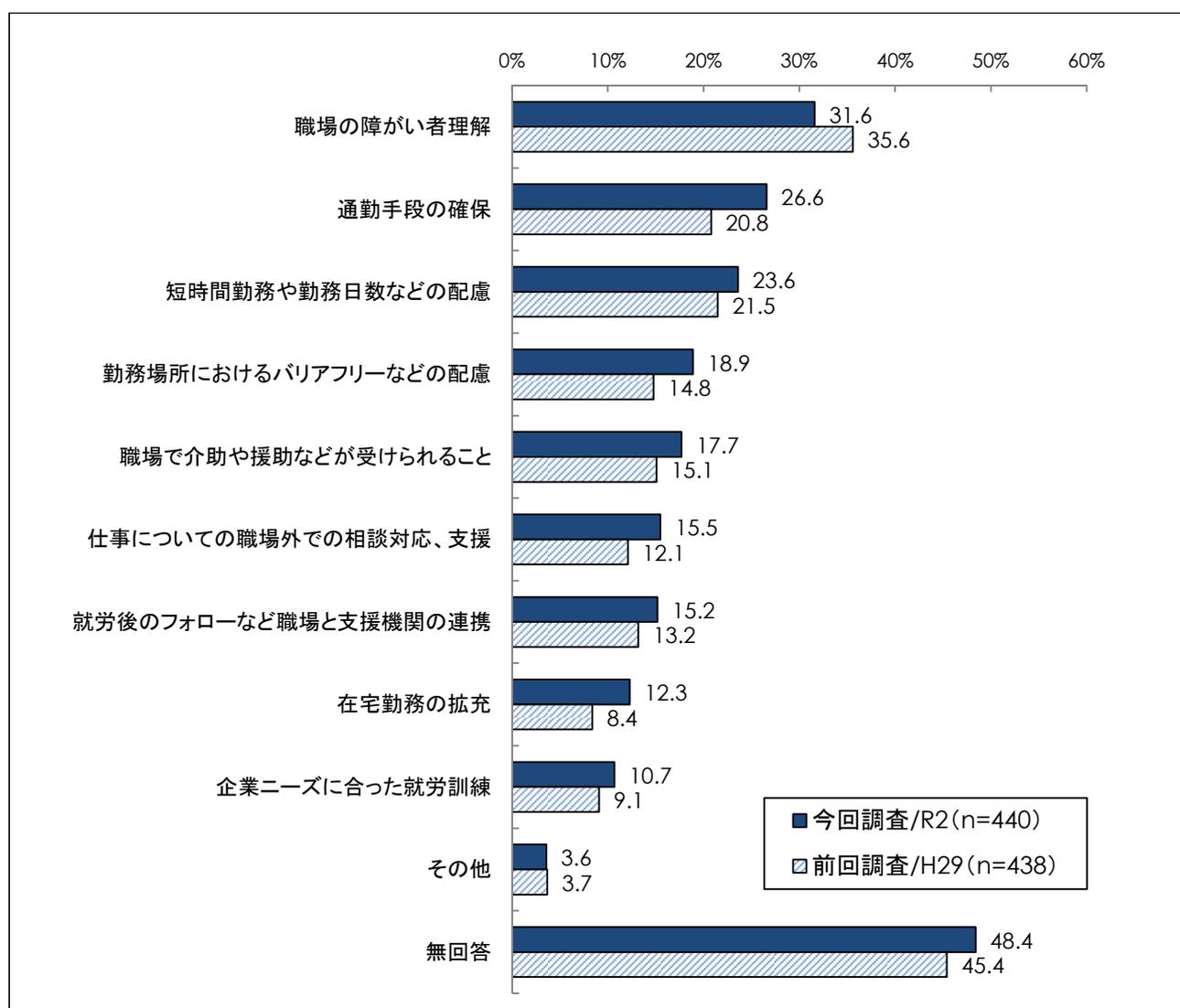
問31 あなたは、障がい者の就労支援として、どのようなことが必要だと思いますか。
(あてはまるものすべてに○)

【全体の傾向】

就労のために必要な支援についてたずねたところ、「職場の障がい者理解」(31.6%)が最も高く、次いで「通勤手段の確保」(26.6%)、「短時間勤務や勤務日数等の配慮」(23.6%)、「勤務場所におけるバリアフリー等の配慮」(18.9%)などとなっています。

前回調査と比較すると、「通勤手段の確保」は5.8ポイント増加し、一方、「職場の障がい者理解」は4.0ポイント減少しています。

図表 60 就労のために必要な支援（全体、前回との比較／複数回答）



【属性別の傾向】

障がい別にみると、身体障がいでは「職場の障がい者理解」(29.1%)が最も高く、次いで「通勤手段の確保」(24.9%)、「短時間勤務や勤務日数などの配慮」(22.6%)などとなっています。

知的障がいでは「職場の障がい者理解」(42.2%)が最も高く、次いで「通勤手段の確保」(34.9%)、「職場で介助や援助などが受けられること」(30.1%)などとなっています。

精神障がいでは「職場の障がい者理解」(35.9%)が最も高く、次いで「短時間勤務や勤務日数などの配慮」、「仕事についての職場外での相談対応、支援」(同率で28.2%)、「通勤手段の確保」(23.1%)などとなっています。

図表 61 就労のために必要な支援（全体、障がい別／複数回答）

		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)		
	全体（人）	職場の障がい者理解	通勤手段の確保	短時間勤務や勤務日数などの配慮	勤務場所におけるバリアフリーな配慮	職場で介助や援助などが受けられること	仕事についての職場外での相談対応、支援	就業後のフォローなど職場と支援機関の連携	在宅勤務の拡充	企業ニーズに合った就労訓練	その他	無回答	
【表の見方】 単位＝比率(%)													
全体	440	31.6	26.6	23.6	18.9	17.7	15.5	15.2	12.3	10.7	3.6	48.4	
障がい別	身体障がい	350	29.1	24.9	22.6	20.3	16.0	12.3	14.0	10.6	8.9	2.6	52.9
	知的障がい	83	42.2	34.9	24.1	16.9	30.1	22.9	22.9	15.7	16.9	2.4	34.9
	精神障がい	39	35.9	23.1	28.2	12.8	15.4	28.2	17.9	10.3	12.8	15.4	30.8

9 外出・移動支援について

(1) 外出の頻度

問 32 ふだん、あなたはどのくらい外出をしますか。(〇は1つ)

【全体の傾向】

外出の頻度についてたずねたところ、「ほぼ毎日」(33.6%)が最も高く、次いで「週に3~5回」(18.4%)、「週に1~2回」(13.6%)などとなっています。

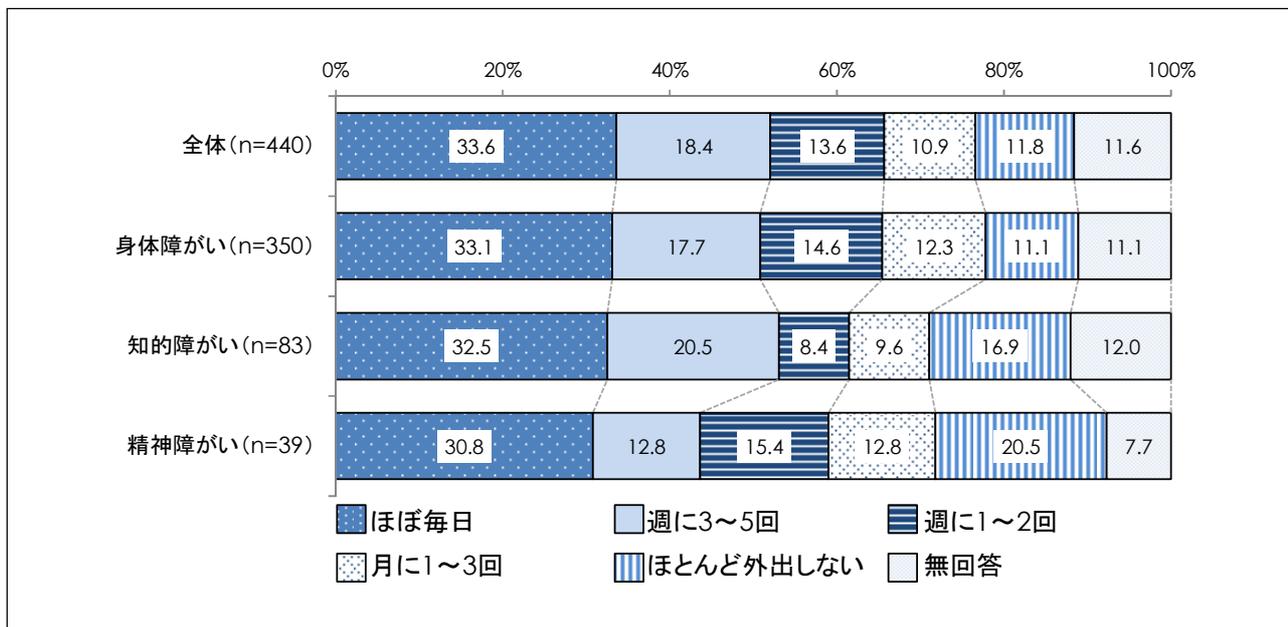
【属性別の傾向】

障がい別にみると、身体障がいでは「ほぼ毎日」(33.1%)が最も高く、次いで「週に3~5回」(17.7%)、「週に1~2回」(14.6%)などとなっています。

知的障がいでは「ほぼ毎日」(32.5%)が最も高く、次いで「週に3~5回」(20.5%)、「ほとんど外出しない」(16.9%)などとなっています。

精神障がいでは「ほぼ毎日」(30.8%)が最も高く、次いで「ほとんど外出しない」(20.5%)、「週に1~2回」(15.4%)などとなっています。

図表 62 外出の頻度 (全体、障がい別)



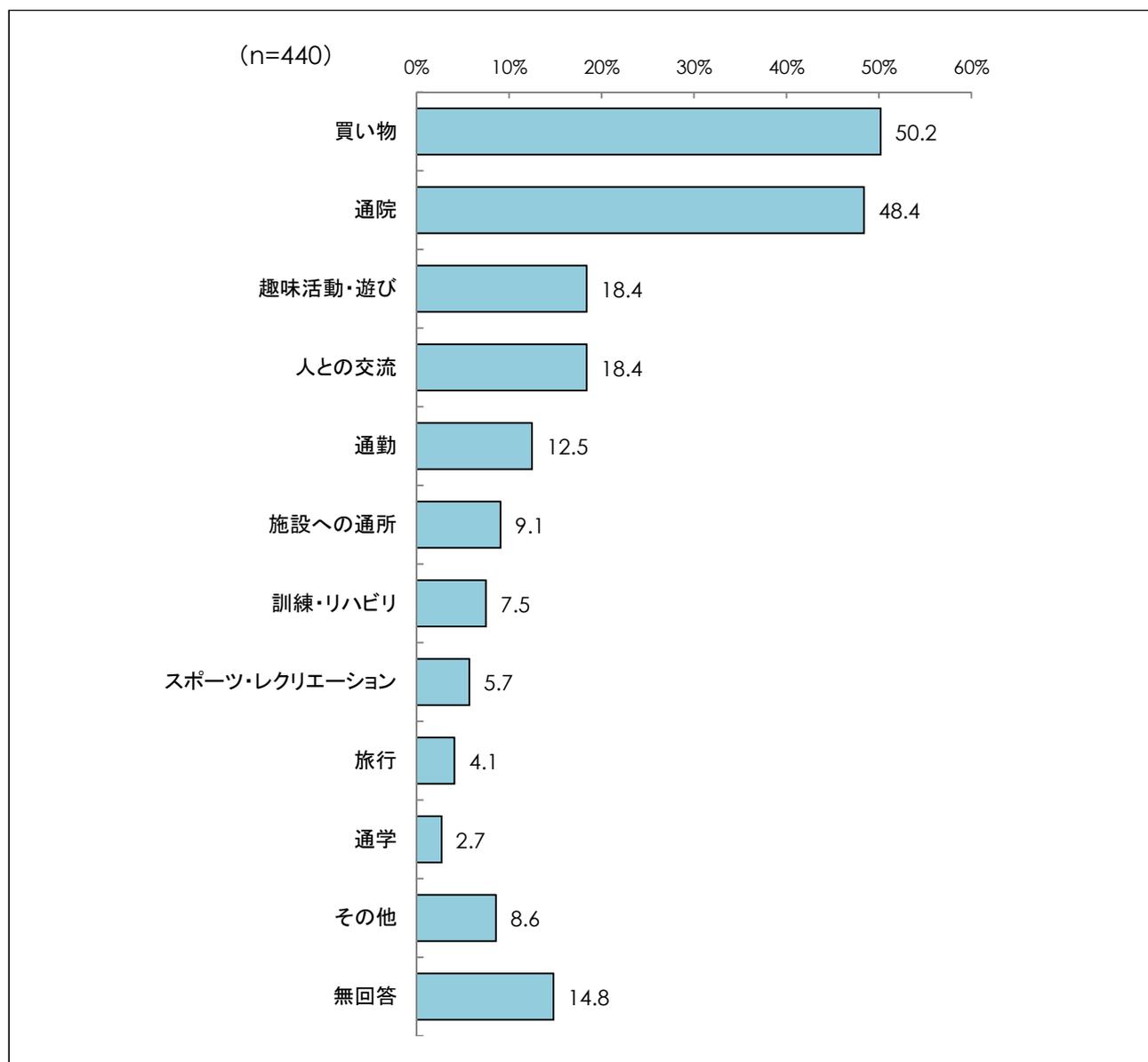
(2) 外出の目的

問 33 あなたはどのような目的で外出することが多いですか。(あてはまるものすべてに○)

【全体の傾向】

外出の目的についてたずねたところ、「買い物」(50.2%)が最も高く、次いで「通院」(48.4%)となっており、この2項目が主な外出の目的となっており、その割合は突出しています。次いで「趣味活動・遊び」、「人との交流」(同率で18.4%)、「通勤」(12.5%)などとなっています。

図表 63 外出の目的 (全体/複数回答)



【属性別の傾向】

障がい別にみると、身体障がいでは「通院」(51.4%)が最も高く、次いで「買い物」(50.6%)、「人との交流」(20.3%)などとなっています。

知的障がいでは「買い物」(55.4%)が最も高く、次いで「通院」(36.1%)、「趣味活動・遊び」(25.3%)などとなっています。

精神障がいでは「買い物」(56.4%)が最も高く、次いで「通院」(48.7%)、「趣味活動・遊び」(17.9%)などとなっています。

図表 64 外出の目的（全体、障がい別／複数回答）

		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)		
		買い物	通院	趣味活動・遊び	人との交流	通勤	施設への通所	訓練・リハビリ	スポーツ・レクリエーション	旅行	通学	その他	無回答	
【表の見方】 単位＝比率(%)														
全体		440	50.2	48.4	18.4	18.4	12.5	9.1	7.5	5.7	4.1	2.7	8.6	14.8
障がい別	身体障がい	350	50.6	51.4	17.1	20.3	11.4	6.6	6.6	4.9	4.3	1.7	8.3	14.9
	知的障がい	83	55.4	36.1	25.3	10.8	9.6	21.7	10.8	9.6	6.0	12.0	8.4	13.3
	精神障がい	39	56.4	48.7	17.9	12.8	12.8	10.3	7.7	5.1	2.6	-	5.1	15.4

(3) 外出時の同伴者

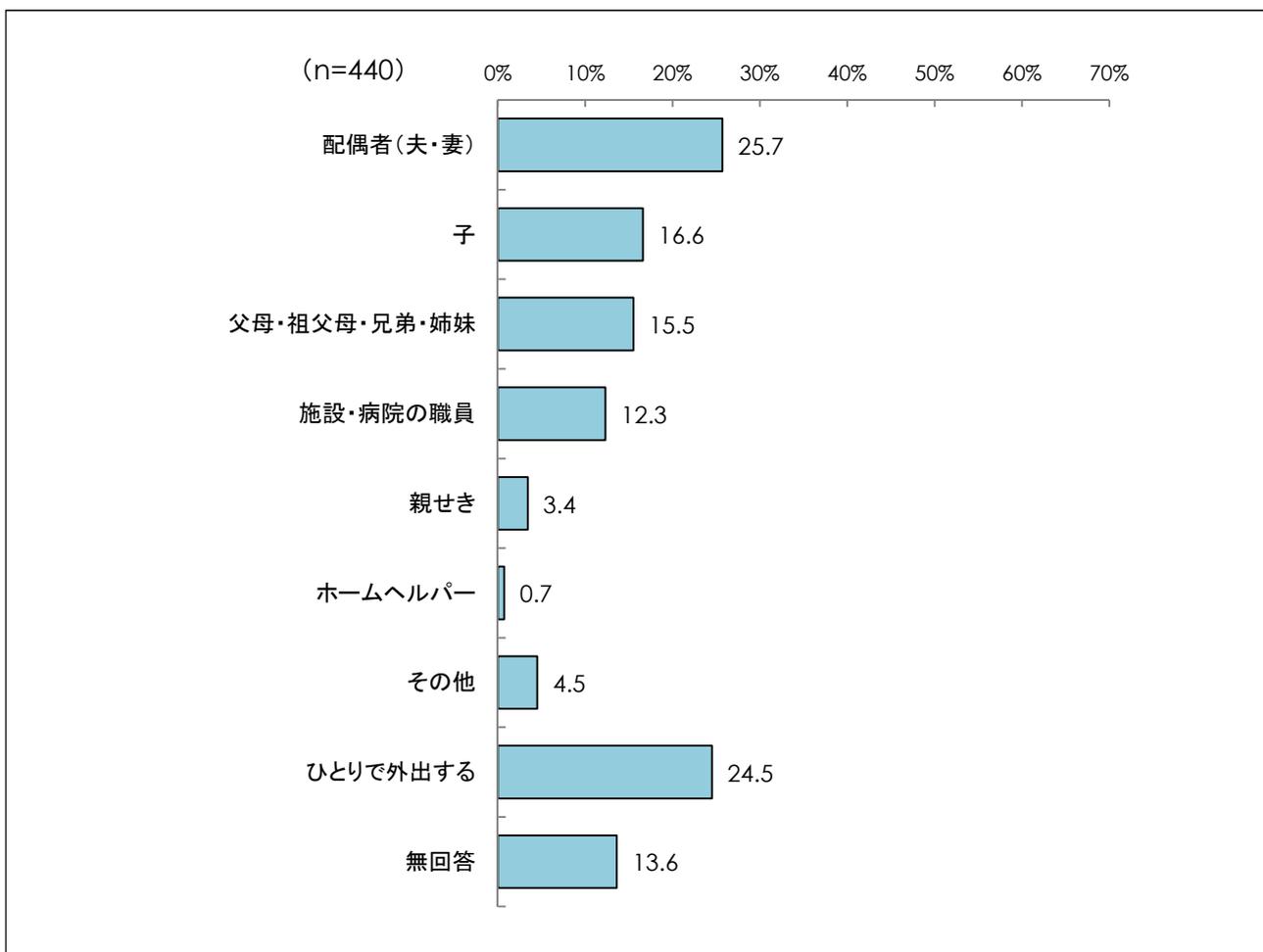
問 34 外出する際の同伴者はどなたですか。(あてはまるものすべてに○)

【全体の傾向】

外出時の同伴者についてたずねたところ、「配偶者(夫・妻)」(25.7%)が最も高く、次いで「子」(16.6%)、「父母・祖父母・兄弟・姉妹」(15.5%)などとなっています。

一方、「ひとりで外出する」は24.5%となっています。

図表 65 外出時の同伴者(全体/複数回答)



【属性別の傾向】

障がい別にみると、身体障がいでは「配偶者（夫・妻）」（30.0％）が最も高く、次いで「ひとりで外出する」（24.6％）、「子」（20.3％）などとなっています。

知的障がいでは「父母・祖父母・兄弟・姉妹」（41.0％）が最も高く、次いで「施設・病院の職員」（39.8％）、「ひとりで外出する」（18.1％）などとなっています。

精神障がいでは「ひとりで外出する」（28.2％）が最も高く、次いで「父母・祖父母・兄弟・姉妹」（20.5％）、「配偶者（夫・妻）」（15.4％）などとなっています。

図表 66 外出時の同伴者（全体、障がい別／複数回答）

		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)		
		配偶者 （夫・妻）	子	父母・ 祖父母・ 兄弟・ 姉妹	施設・ 病院の 職員	親 せき	ホ ー ム ヘル パー	そ の 他	ひ と り で 外 出 す る	無 回 答	
【表の見方】 単位＝比率(%)											
全体		440	25.7	16.6	15.5	12.3	3.4	0.7	4.5	24.5	13.6
障 が い 別	身体障がい	350	30.0	20.3	11.4	7.7	3.1	0.9	4.9	24.6	14.3
	知的障がい	83	1.2	2.4	41.0	39.8	3.6	1.2	4.8	18.1	7.2
	精神障がい	39	15.4	7.7	20.5	10.3	5.1	-	7.7	28.2	15.4

(4) 外出時の交通手段

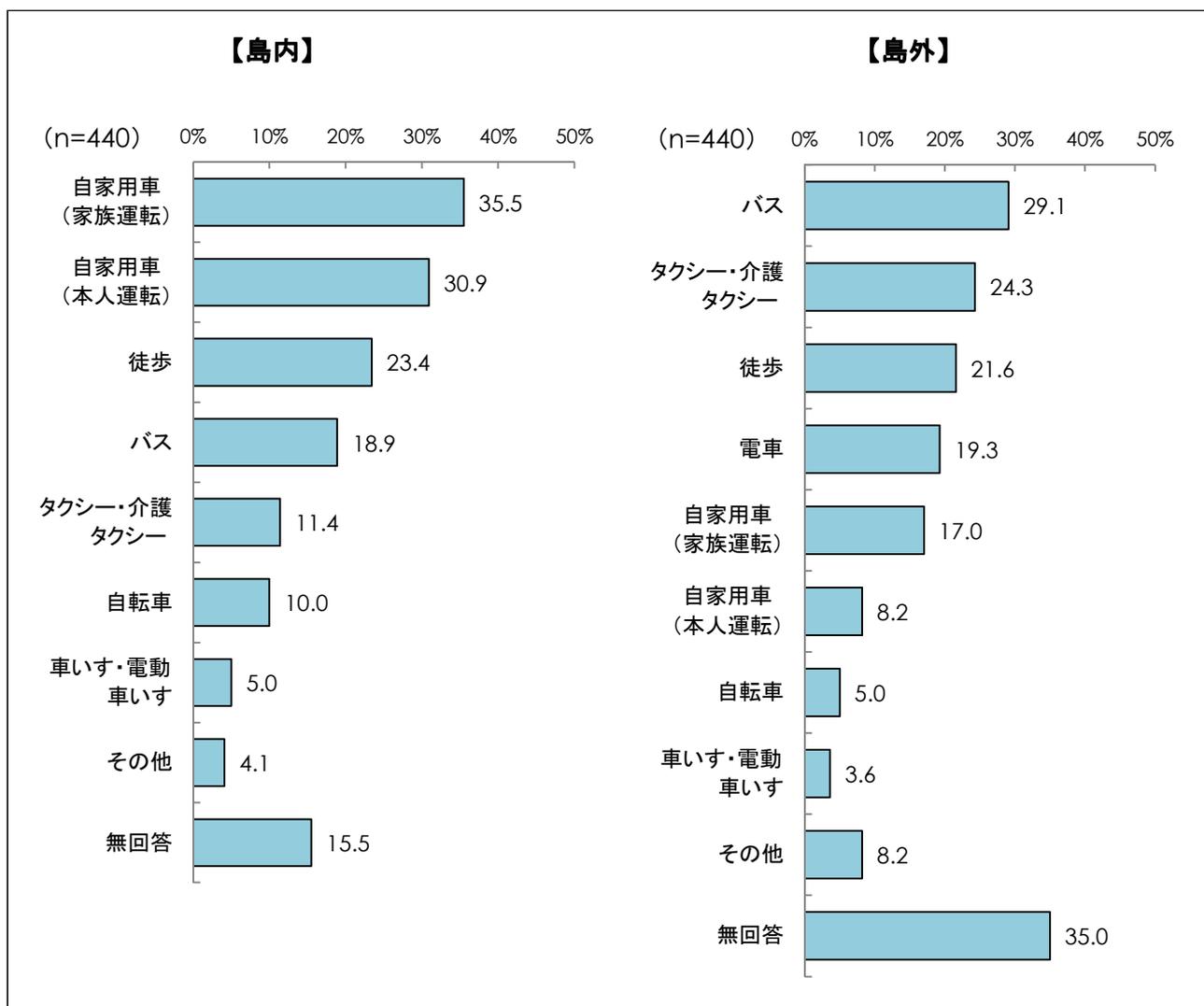
問 35 外出する際の交通手段は何ですか。(それぞれのあてはまるものすべてに○)

【全体の傾向】

外出時の交通手段についてたずねたところ、【島内】では「自家用車（家族運転）」（35.5%）が最も高く、次いで「自家用車（本人運転）」（30.9%）となっており、この2項目が外出時の主要な交通手段となっており、その割合は突出しています。次いで「徒歩」（23.4%）、「バス」（18.9%）などとなっています。

一方、【島外】では「バス」（29.1%）が最も高く、次いで「タクシー・介護タクシー」（24.3%）、「徒歩」（21.6%）、「電車」（19.3%）などとなっています。

図表 67 外出時の交通手段（全体／複数回答）



【属性別の傾向】

障がい別にみると、【島内】では、身体障がいでは「自家用車（家族運転）」（36.6%）が最も高く、次いで「自家用車（本人運転）」（34.6%）、「徒歩」（21.4%）などとなっています。

知的障がいでは「自家用車（家族運転）」（36.1%）が最も高く、次いで「徒歩」（31.3%）、「バス」（26.5%）などとなっています。

精神障がいでは「自家用車（本人運転）」、「バス」が同率で30.8%と最も高く、次いで「徒歩」（25.6%）、「自家用車（家族運転）」（20.5%）などとなっています。

一方、【島外】ではどの障がいにおいても「バス」が最も高く、次いで「タクシー・介護タクシー」、「徒歩」などとなっており、自家用車を使用する割合が低くなっています。

図表 68 外出時の交通手段（全体、障がい別／複数回答）

【島内】

		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)		
		自家用車 （家族運転）	自家用車 （本人運転）	徒歩	バス	タクシー・ 介護タクシー	自 転 車	車 い す ・ 電 動 車 い す	そ の 他	無 回 答	
【表の見方】 単位＝比率(%)											
全体		440	35.5	30.9	23.4	18.9	11.4	10.0	5.0	4.1	15.5
障 が い 別	身体障がい	350	36.6	34.6	21.4	16.9	12.3	8.6	5.1	4.6	14.9
	知的障がい	83	36.1	6.0	31.3	26.5	7.2	18.1	4.8	1.2	21.7
	精神障がい	39	20.5	30.8	25.6	30.8	17.9	10.3	-	5.1	10.3

【島外】

		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)		
		バス	タク シー ・ 介 護 タク シー	徒 歩	電 車	自 家 用 車 （ 家 族 運 転 ）	自 家 用 車 （ 本 人 運 転 ）	自 転 車	車 い す ・ 電 動 車 い す	そ の 他	無 回 答	
【表の見方】 単位＝比率(%)												
全体		440	29.1	24.3	21.6	19.3	17.0	8.2	5.0	3.6	8.2	35.0
障 が い 別	身体障がい	350	28.0	23.1	21.1	18.3	17.4	8.9	3.7	4.3	8.3	35.1
	知的障がい	83	34.9	25.3	25.3	22.9	19.3	2.4	10.8	6.0	13.3	28.9
	精神障がい	39	25.6	20.5	17.9	12.8	12.8	2.6	2.6	-	10.3	35.9

(5) 外出時に困ること

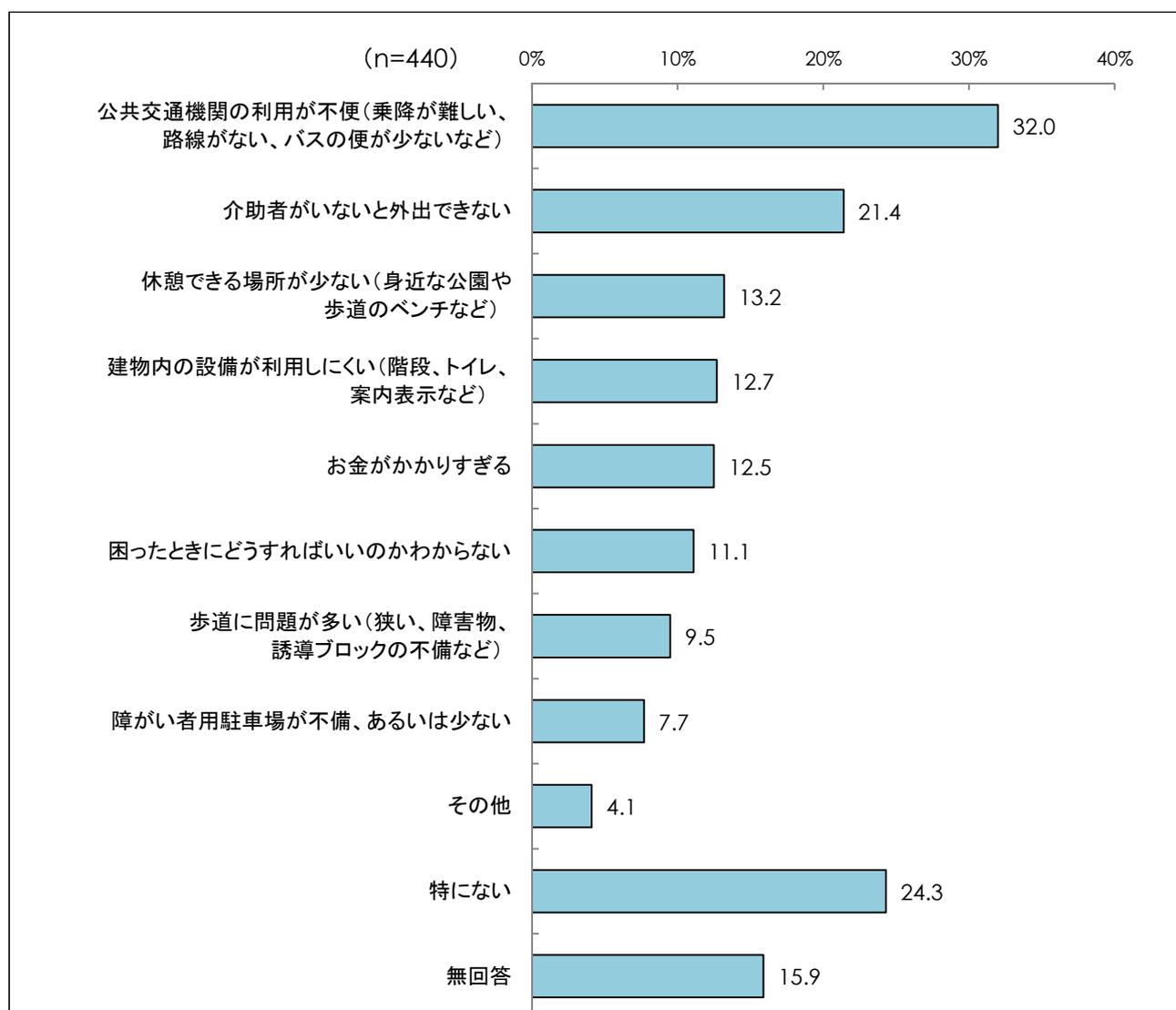
問 36 外出する際に困ることは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

【全体の傾向】

外出時に困ることについてたずねたところ、「公共交通機関の利用が不便（路線がない、バスの便が少ない、乗り降りが難しいなど）」（32.0%）が最も高く、次いで「介助者がいないと外出できない」（21.4%）、「休憩できる場所が少ない（身近な公園や歩道のベンチなど）」（13.2%）、「建物内の設備が利用しにくい（階段、トイレ、案内表示など）」（12.7%）などとなっています。

一方、「特にない」は24.3%となっており、全体で第2位の割合となっています。

図表 69 外出時に困ること（全体／複数回答）



【属性別の傾向】

障がい別にみると、身体障がいでは「公共交通機関の利用が不便（乗降が難しい、路線がない、バスの便が少ないなど）」（34.6%）が最も高く、次いで「介助者がいないと外出できない」（20.9%）、「建物内の設備が利用しにくい（階段、トイレ、案内表示など）」、「休憩できる場所が少ない（身近な公園や歩道のベンチなど）」（同率で 14.3%）などとなっています。

知的障がいでは「介助者がいないと外出できない」（36.1%）が最も高く、次いで「公共交通機関の利用が不便（乗降が難しい、路線がない、バスの便が少ないなど）」（30.1%）、「困ったときにどうすればいいかわからない」（21.7%）などとなっています。

精神障がいでは「公共交通機関の利用が不便（乗降が難しい、路線がない、バスの便が少ないなど）」（41.0%）が最も高く、次いで「介助者がいないと外出できない」、「お金がかかりすぎる」（同率で 20.5%）などとなっています。

図表 70 外出時に困ること（全体、障がい別／複数回答）

		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)		
		が少 ない など	が難 しい 、機 関の 利用 が不 便 （乗 降	介 助 者 が い な い と 外 出 で き な い	公 園 や 歩 道 の 場 所 が 少 な い （ 身 近 な	段 建 、 物 内 の 設 備 が 利 用 し に く い （ 階	お 金 が か か り す ぎ る	わ か ら な い と き に ど う す れ ば い い の か	物 、 歩 道 に 問 題 が 多 い の （ 狭 い 、 障 害	は 少 な い 者 用 駐 車 場 が 不 備 、 あ る い	そ の 他	特 に な い	無 回 答
【表の見方】 単位＝比率(%)	全体（人）												
	全体	440	32.0	21.4	13.2	12.7	12.5	11.1	9.5	7.7	4.1	24.3	15.9
障 が い 別	身体障がい	350	34.6	20.9	14.3	14.3	12.6	8.9	9.7	8.9	4.6	23.1	16.3
	知的障がい	83	30.1	36.1	9.6	12.0	18.1	21.7	14.5	4.8	2.4	19.3	13.3
	精神障がい	39	41.0	20.5	17.9	7.7	20.5	17.9	5.1	5.1	-	25.6	7.7

10 地域防災について

(1) 災害時の避難について

問37 あなたは災害時にひとりで避難できますか。(〇は1つ)

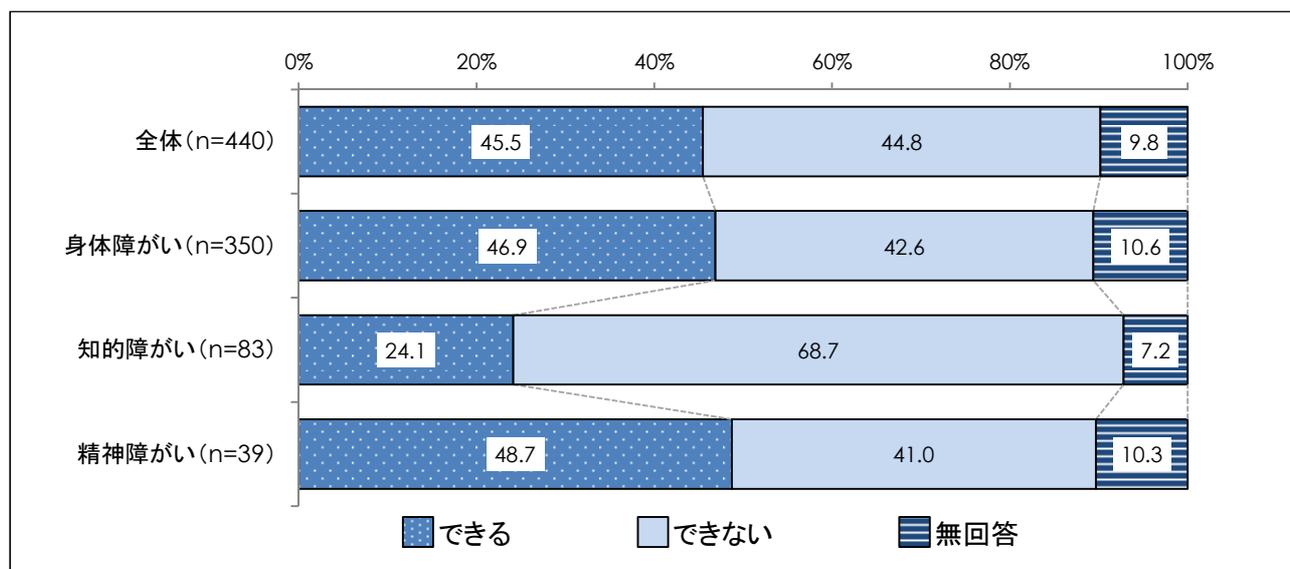
【全体の傾向】

災害時にひとりで避難ができるかどうかについてたずねたところ、「できる」が45.5%、「できない」は44.8%となっています。

【属性別の傾向】

障がい別にみると、身体障がい、精神障がいでは「できる」が4割を超えています。知的障がいでは24.1%となっており、他の障がいに比べて知的障がいではひとりで避難できない割合が高くなっています。

図表 71 災害時の避難について（全体、障がい別）



(2) 近隣援助者の有無

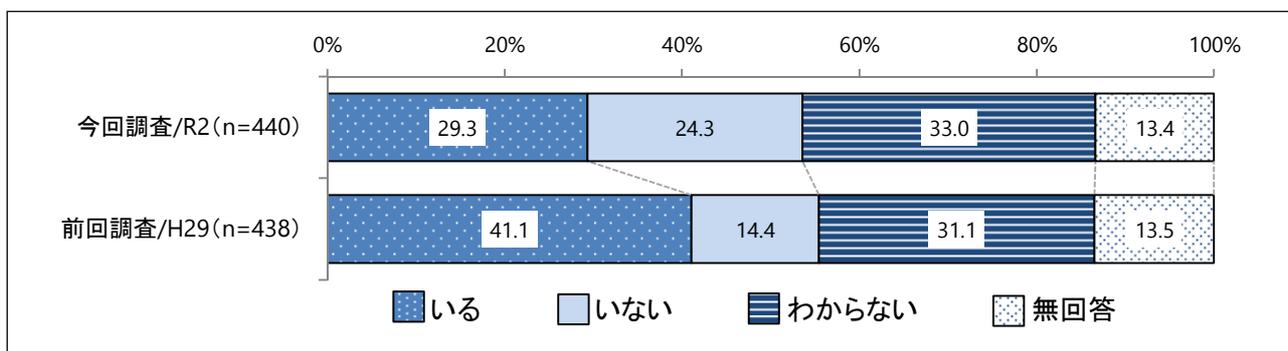
問 38 家族が不在の場合やひとり暮らしの場合、近所にあなたを助けてくれる人はいますか。
(○は1つ)

【全体の傾向】

近隣援助者の有無についてたずねたところ、「いる」は29.3%、「いない」は24.3%、「わからない」は33.0%、「わからない」は33.0%となっています。

前回調査と比較すると、「いる」が11.8ポイント減少し、「いない」が9.9ポイント増加しています。

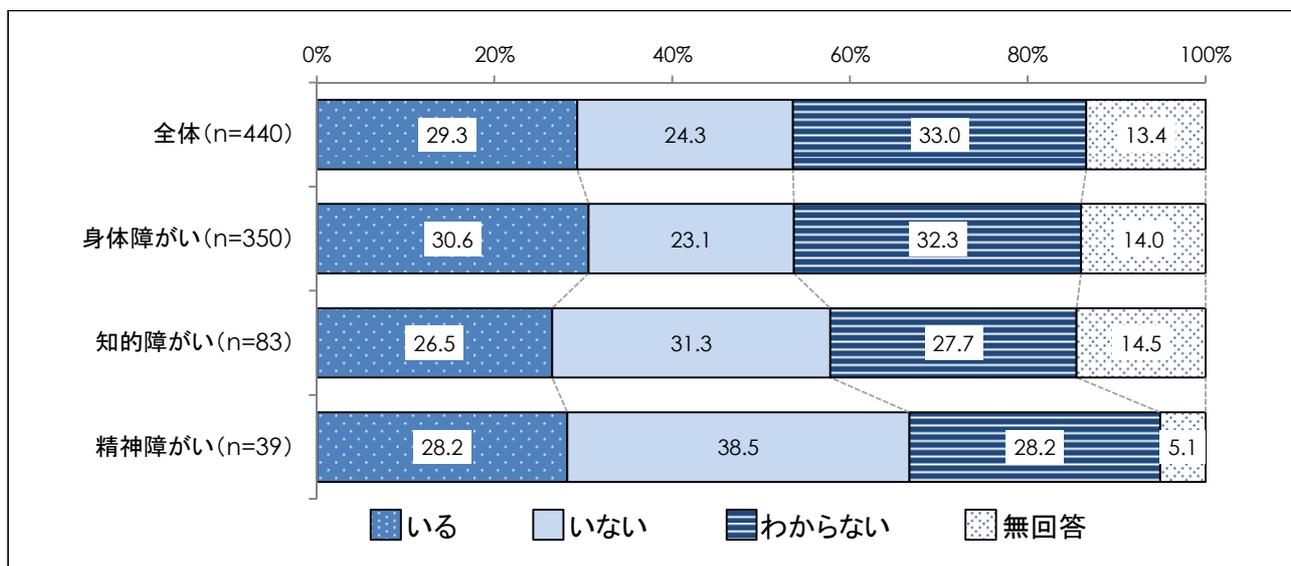
図表 72 近隣援助者の有無（全体、前回との比較）



【属性別の傾向】

障がい別にみると、身体障がいでは「いる」の30.6%に対し、「いない」は23.1%と低くなっています。一方、知的障がい、精神障がいでは「いない」が3割以上となっており、身体障がいに比べて近隣援助者がいない割合が高くなっています。

図表 73 近隣援助者の有無（全体、障がい別）



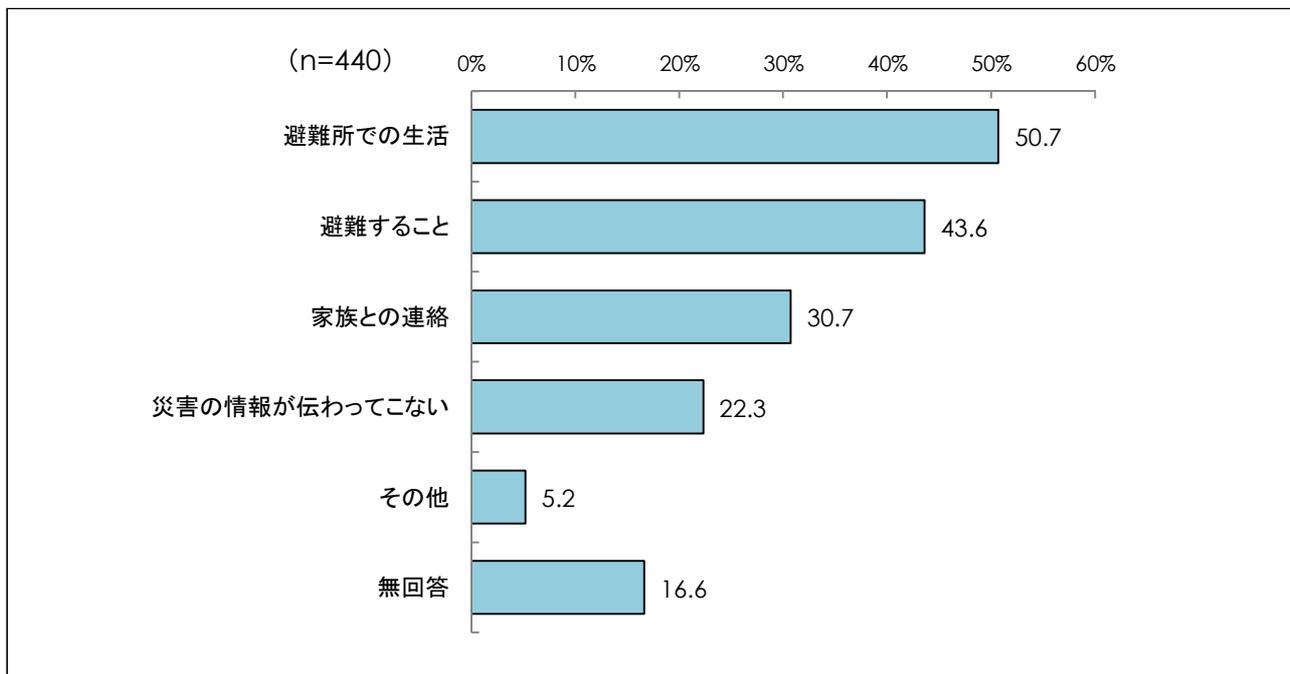
(3) 災害時に不安に思うこと

問 39 災害時に不安に思うことは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

【全体の傾向】

災害時に不安に思うことについてたずねたところ、「避難所での生活」(50.7%)が最も高く、次いで「避難すること」(43.6%)、「家族との連絡」(30.7%)、「災害の情報が伝わってこない」(22.3%)などとなっています。

図表 74 災害時に不安に思うこと (全体/複数回答)



【属性別の傾向】

障がい別にみると、身体障がいでは「避難所での生活」(52.0%)が最も高く、次いで「避難すること」(42.6%)、「家族との連絡」(29.1%)などとなっています。

知的障がいでは「避難すること」(51.8%)が最も高く、次いで「避難所での生活」(48.2%)、「家族との連絡」、「災害の情報が伝わってこない」(同率で32.5%)などとなっています。

精神障がいでは「避難すること」(53.8%)が最も高く、次いで「避難所での生活」(48.7%)、「家族との連絡」(35.9%)などとなっています。

図表 75 災害時に不安に思うこと（全体、障がい別／複数回答）

		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)		
		全体 (人)	避難 所での 生活	避難 する こと	家 族と の 連 絡	災 害 の 情 報 が 伝 わ っ て こ な い	そ の 他	無 回 答
【表の見方】 単位＝比率(%)								
全体		440	50.7	43.6	30.7	22.3	5.2	16.6
障 が い 別	身体障がい	350	52.0	42.6	29.1	20.3	5.1	16.9
	知的障がい	83	48.2	51.8	32.5	32.5	1.2	18.1
	精神障がい	39	48.7	53.8	35.9	33.3	7.7	15.4

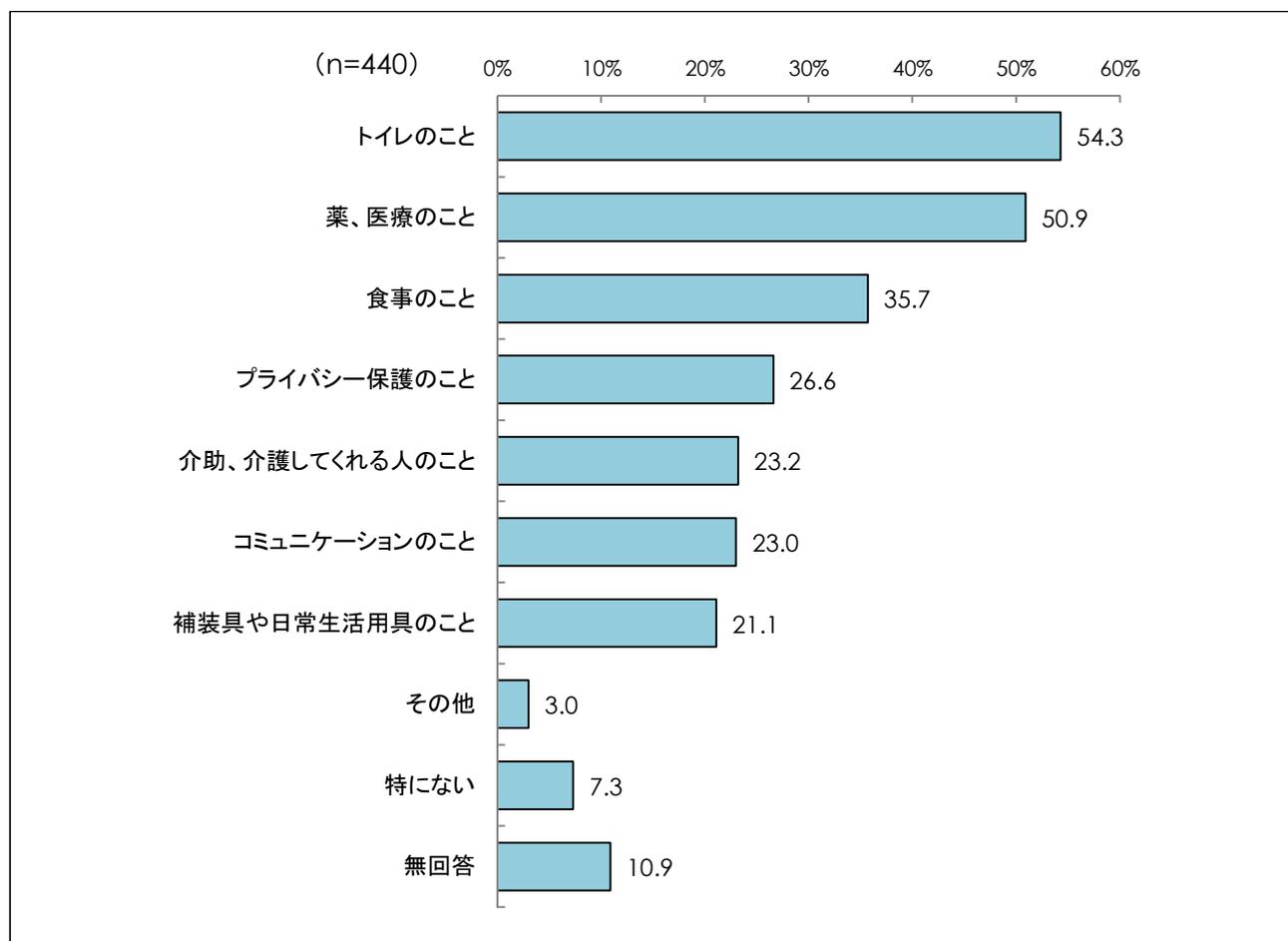
(4) 避難所に行った場合に困ること

問 40 あなたがもし避難所に行った場合、困ると思われることは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

【全体の傾向】

避難所に行った場合に困ることについてたずねたところ、「トイレのこと」(54.3%)が最も高く、次いで「薬、医療のこと」(50.9%)、「食事のこと」(35.7%)、「プライバシー保護のこと」(26.6%)、「介助、介護してくれる人のこと」(23.2%)などとなっています。

図表 76 避難所に行った場合に困ること (全体/複数回答)



【属性別の傾向】

障がい別にみると、身体障がいでは「トイレのこと」(57.7%)が最も高く、次いで「薬、医療のこと」(52.3%)、「食事のこと」(32.9%)などとなっています。

知的障がいでは「食事のこと」(56.6%)が最も高く、次いで「コミュニケーションのこと」(48.2%)「トイレのこと」(48.2%)などとなっています。

精神障がいでは「薬、医療のこと」(53.8%)が最も高く、次いで「トイレのこと」(38.5%)、「コミュニケーションのこと」(33.3%)などとなっています。

図表 77 避難所に行った場合に困ること（全体、障がい別／複数回答）

		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)		
		全体 (人)	トイレ のこと	薬、 医療 のこと	食 事 の こ と	プ ラ イ バ シ ー 保 護 の こ と	介 助 、 介 護 し て く れ る 人 の こ と	コ ミ ュ ニ ケ ー シ ヨ ン の こ と	補 装 具 や 日 常 生 活 用 具 の こ と	そ の 他	特 に な い	無 回 答
【表の見方】 単位=比率(%)												
全体		440	54.3	50.9	35.7	26.6	23.2	23.0	21.1	3.0	7.3	10.9
障 が い 別	身体障がい	350	57.7	52.3	32.9	26.0	22.0	18.3	22.9	2.6	6.6	12.3
	知的障がい	83	45.8	42.2	56.6	34.9	37.3	48.2	19.3	2.4	8.4	7.2
	精神障がい	39	38.5	48.7	28.2	25.6	23.1	33.3	12.8	2.6	12.8	2.6

Ⅱ あなたの権利について

(1) 障がい者差別について

問 41 あなたは、障がいがあることで差別や嫌な思いをする(した)ことがありますか。(〇は1つ)

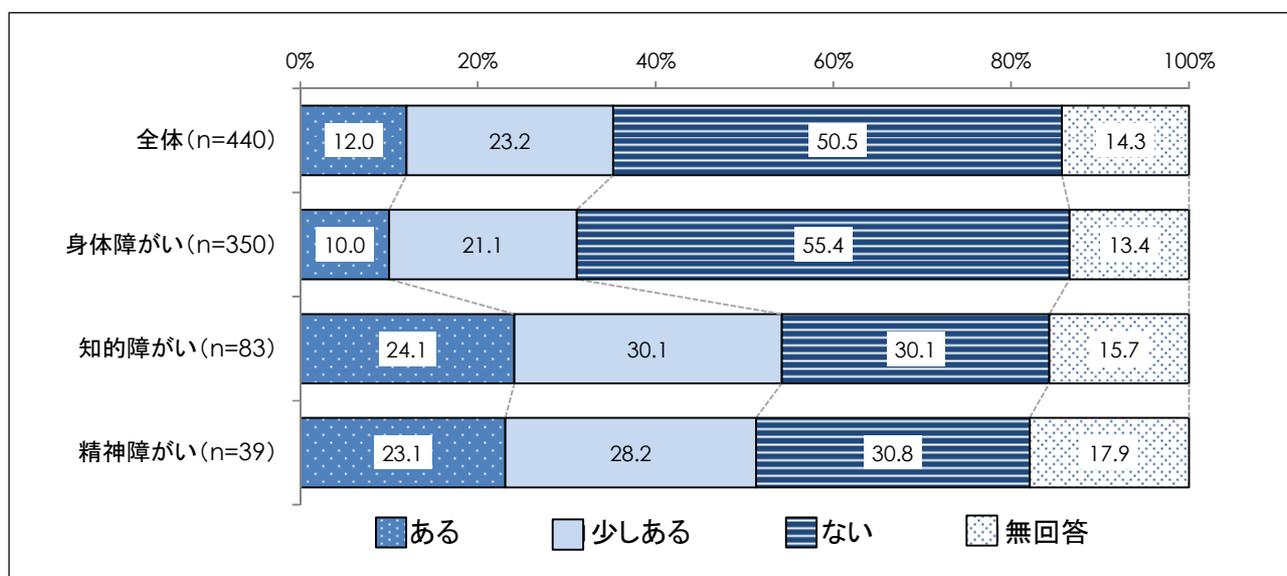
【全体の傾向】

障がい等を理由に、差別や嫌な思いをした経験の有無についてたずねたところ、「ない」が50.5%となっており、「ある」(12.0%)、「少しある」(23.2%)を合計した『ある』の割合は35.2%となり、約3割の人が差別や嫌な思いをしたことがあると回答しています。

【属性別の傾向】

障がい別にみると、『ある』の割合は、身体障がいでは31.1%、知的障がい者では54.2%、精神障がいでは51.3%となっており、知的障がい者が最も高くなっています。

図表 78 差別や嫌な思いをした経験の有無 (全体、障がい別)

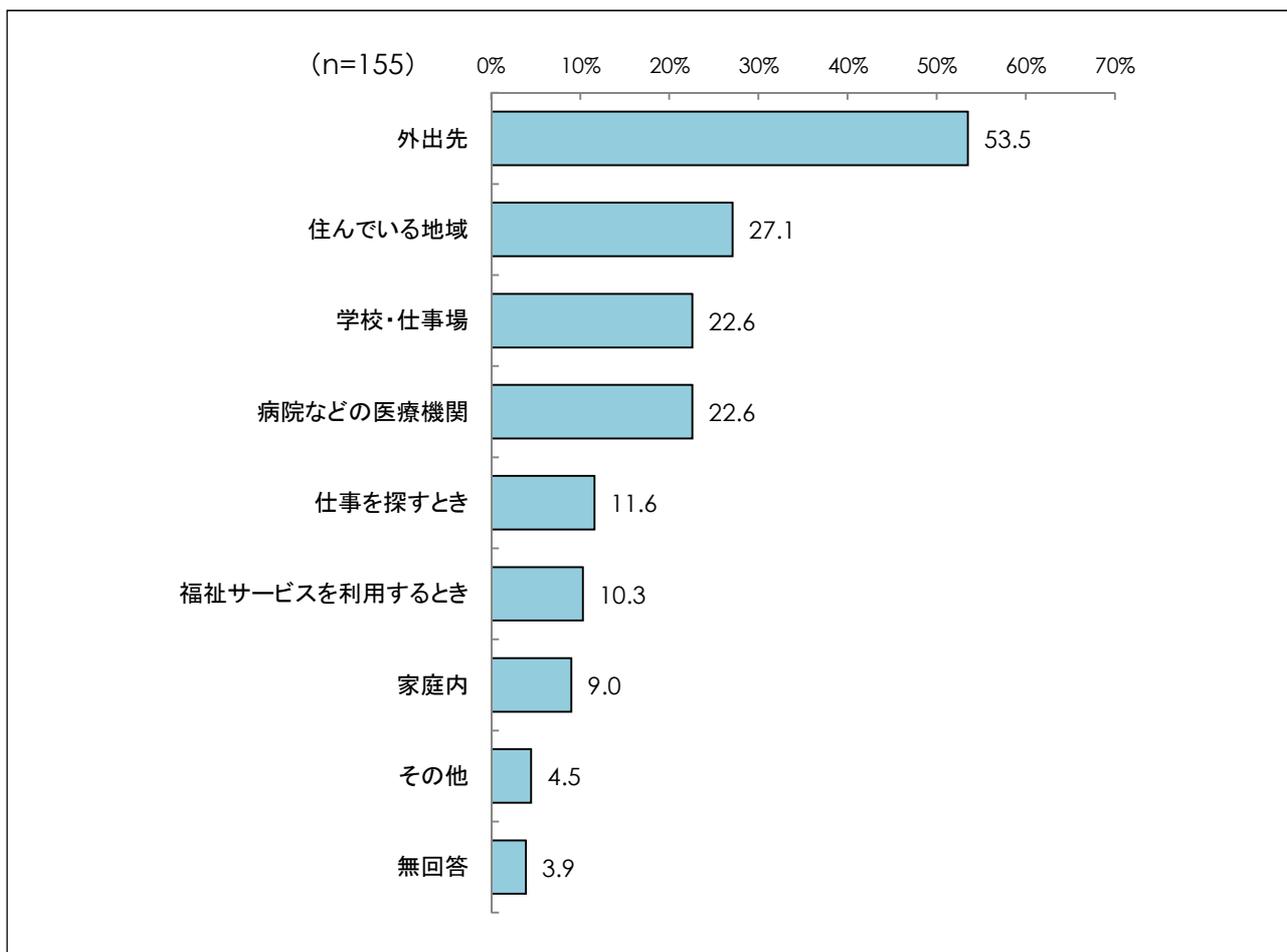


問 41-1 問 41 で「1. ある」または「2. 少しある」とお答えした方におうかがいします。
 どのような場所で差別や嫌な思いをしましたか。(あてはまるものすべてに○)

【全体の傾向】

どのような場所で差別や嫌な思いをしたかについてたずねたところ、「外出先」(53.5%) が最も高く、次いで「住んでいる地域」(27.1%)、「学校・仕事場」、「病院などの医療機関」(同率で 22.6%) などとなっています。

図表 79 差別や嫌な思いをした場所 (全体、前回との比較/複数回答)



【属性別の傾向】

障がい別にみると、身体障がいでは「外出先」(58.7%)が最も高く、次いで「住んでいる地域」(28.4%)、「病院などの医療機関」(23.9%) などとなっています。

知的障がいでは「外出先」(55.6%)が最も高く、次いで「住んでいる地域」(28.9%)、「学校・仕事場」(26.7%) などとなっています。

精神障がいでは「住んでいる地域」(35.0%)が最も高く、次いで「学校・仕事場」(30.0%)、「外出先」、「病院などの医療機関」(同率で25.0%) などとなっています。

図表 80 差別や嫌な思いをした場所（全体、障がい別／複数回答）

		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)		
		全体 (人)	外出先	住 ん で い る 地 域	学 校 ・ 仕 事 場	病 院 な ど の 医 療 機 関	仕 事 を 探 す と き	福 祉 サ ー ビ ス を 利 用 す る と き	家 庭 内	そ の 他	無 回 答
【表の見方】 単位＝比率(%)											
全体		155	53.5	27.1	22.6	22.6	11.6	10.3	9.0	4.5	3.9
障 が い 別	身体障がい	109	58.7	28.4	18.3	23.9	11.9	10.1	7.3	4.6	2.8
	知的障がい	45	55.6	28.9	26.7	17.8	6.7	15.6	6.7	6.7	2.2
	精神障がい	20	25.0	35.0	30.0	25.0	15.0	10.0	15.0	-	5.0

(2) 現在利用している事業や制度と今後利用したい事業や制度

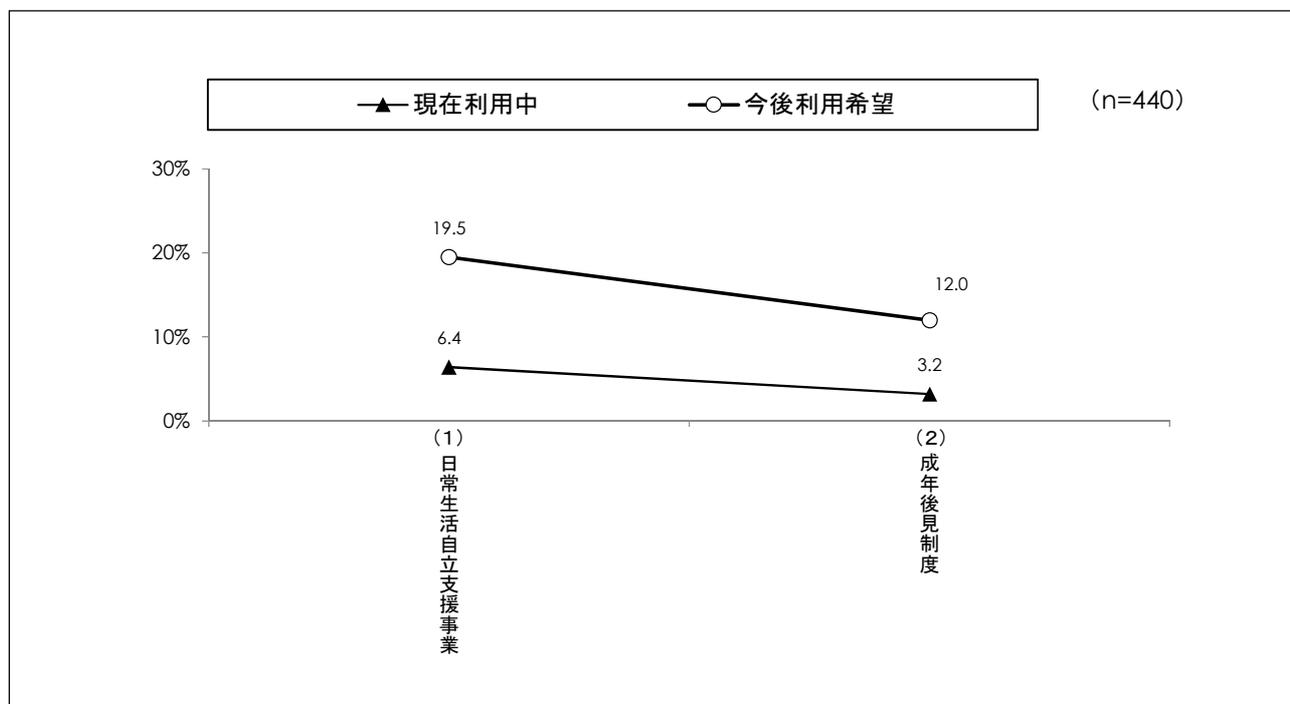
問 42 あなたは次の事業や制度を利用していますか。また今後利用したいと考えますか。
 (○はそれぞれ1つ)

【全体の傾向】

現在利用している事業や制度についてたずねたところ、「日常生活自立支援事業」が6.4%、「成年後見制度」が3.2%の利用率となっています。

今後利用したい事業や制度については、「日常生活自立支援事業」が19.5%、「成年後見制度」が12.0%の利用希望となっています。

図表 81 現在利用している事業や制度と今後利用したい事業や制度（全体）



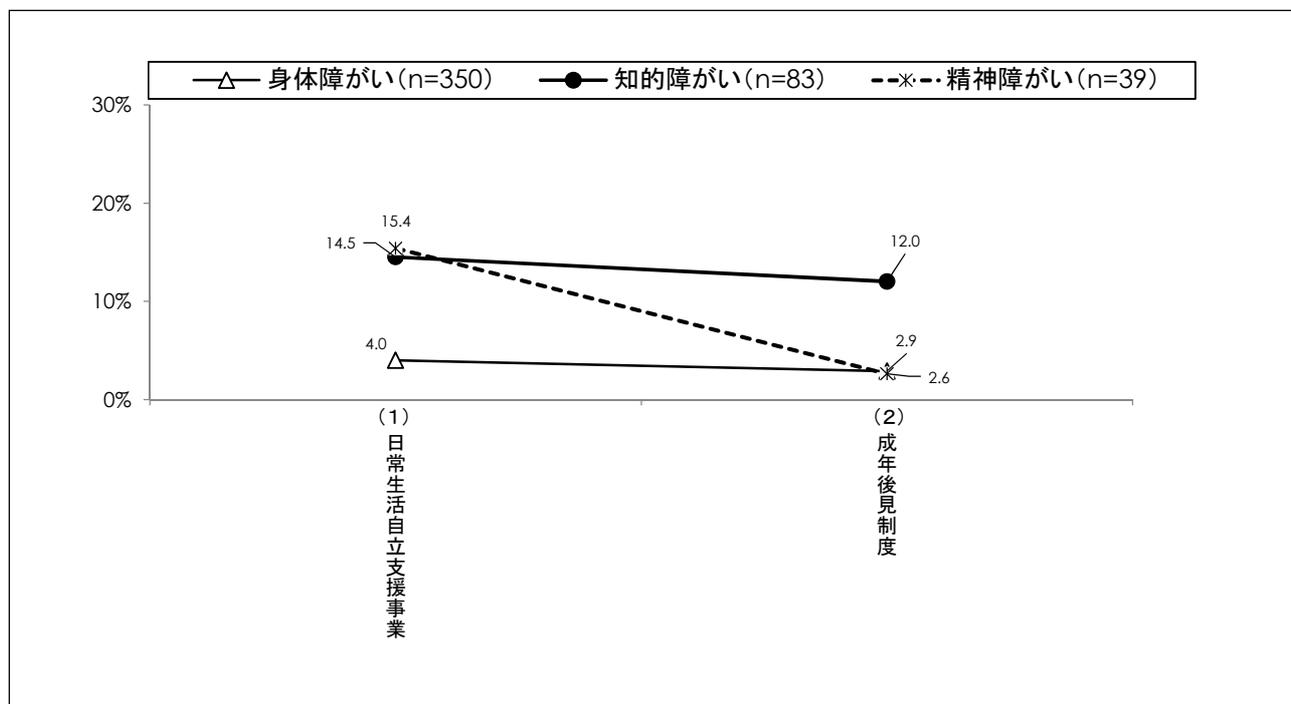
【属性別の傾向】

・現在の利用状況

障がい別にみると、「日常生活自立支援事業」では、身体障がい者が4.0%、知的障がい者が14.5%、精神障がい者が15.4%の利用率となっています。

「成年後見制度」では、身体障がい者が2.9%、知的障がい者が12.0%、精神障がい者が2.6%の利用率となっています。

図表 82 現在利用している事業や制度(障がい別)



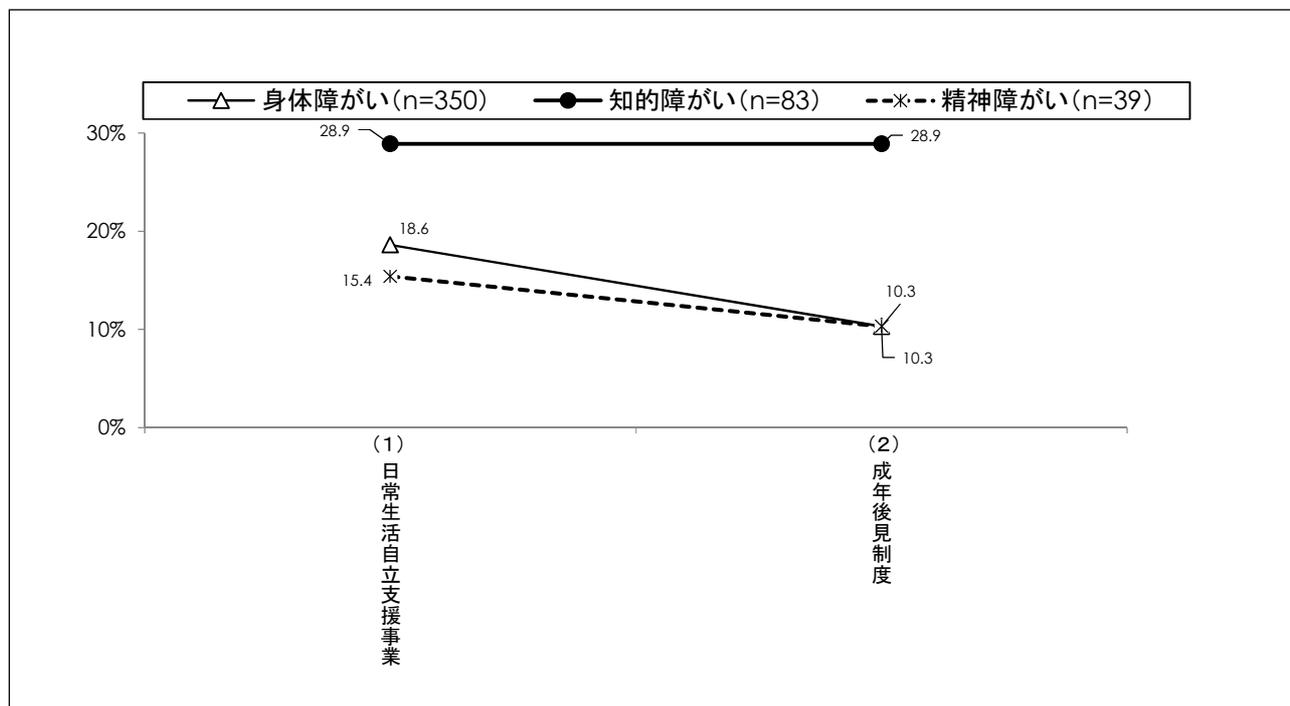
【属性別の傾向】

・今後の利用希望

障がい別にみると、「日常生活自立支援事業」では、身体障がい者が18.6%、知的障がい者が28.9%、精神障がい者が15.4%の利用希望となっています。

「成年後見制度」では、身体障がい者が10.3%、知的障がい者が28.9%、精神障がい者が10.3%の利用希望となっています。

図表 83 今後利用したい事業や制度（障がい別）



12 町への期待について

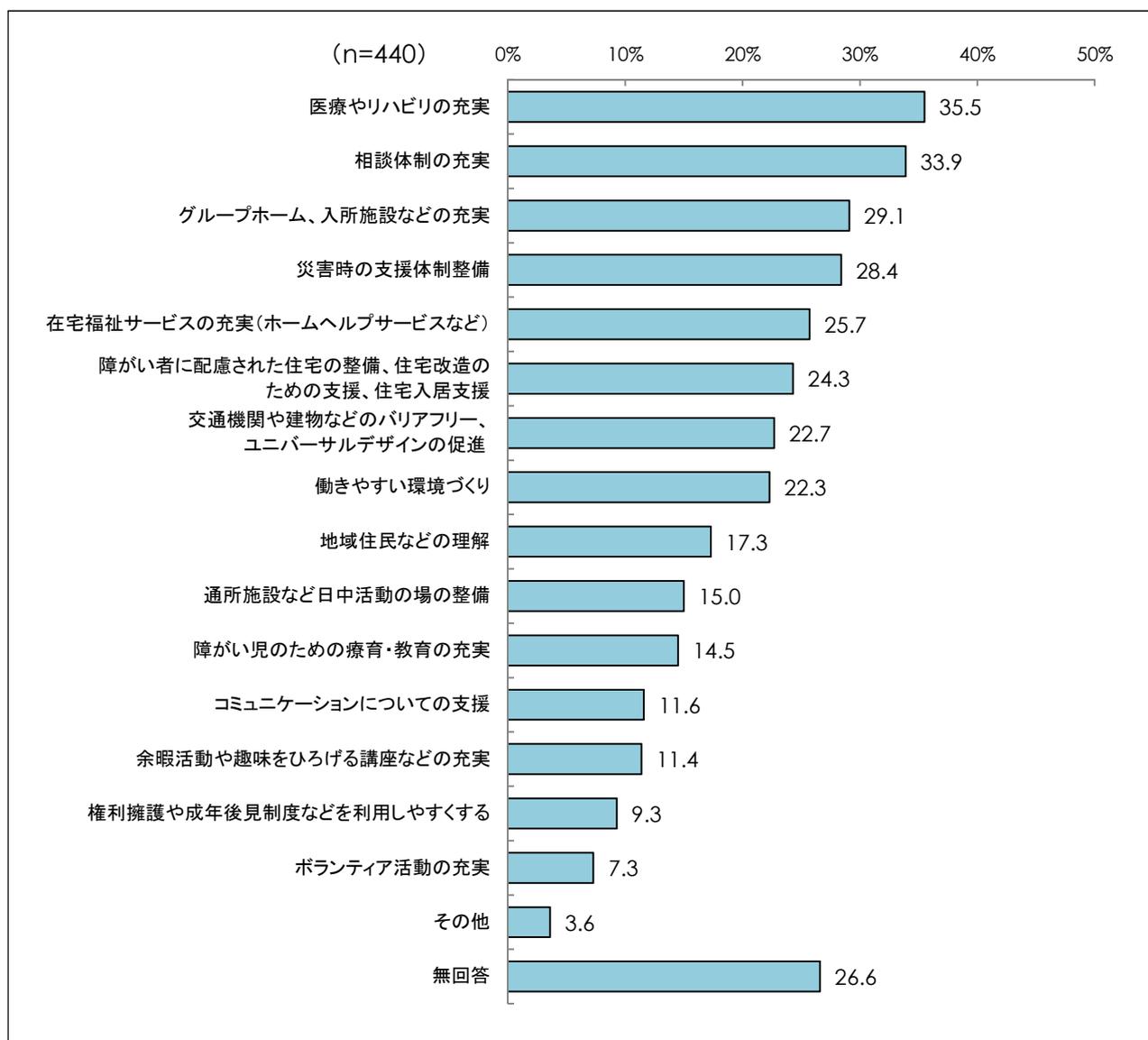
(1) 今後、町が力をいれるべき障がい者福祉の取組み

問 43 今後町が障がい者福祉の取組みを進めていくにあたって、力をいれるべきだと思う取組みはどのようなことですか。(あてはまるものすべてに○)

【全体の傾向】

今後、町が力をいれるべき障がい者福祉の取組みについてたずねたところ、「医療やりハビリの充実」(35.5%)が最も高く、次いで「相談体制の充実」(33.9%)、「グループホーム、入所施設などの充実」(29.1%)、「災害時の支援体制整備」(28.4%)、「在宅福祉サービスの充実(ホームヘルプサービスなど)」(25.7%)などとなっています。

図表 84 今後、町が力をいれるべき障がい者福祉の取組み (全体/複数回答)



【属性別の傾向】

障がい別にみると、身体障がいでは「医療やリハビリの充実」(37.7%)が最も高く、次いで「相談体制の充実」(32.9%)、「災害時の支援体制整備」(29.1%)などとなっています。

知的障がいでは「相談体制の充実」が39.8%と最も高く、次いで「グループホーム、入所施設などの充実」(38.6%)、「医療やリハビリの充実」(32.5%)などとなっています。

精神障がいでは「医療やリハビリの充実」、「働きやすい環境づくり」(同率で38.5%)と最も高く、次いで「相談体制の充実」(35.9%)、「障がい者に配慮された住宅の整備、住宅改造のための支援、住宅入居支援」(33.3%)などとなっています。

図表 85 今後、町が力をいれるべき障がい者福祉の取組み（全体、障がい別／複数回答）

		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)	(12)	(13)	(14)	(15)	(16)				
	全体 (人)	医療 やリハ ビリの 充実	相 談体 制の 充 実	グ ル ー プ ホ ー ム 、 入 所 施 設 な ど の 充 実	災 害 時 の 支 援 体 制 整 備	在 宅 福 祉 サ ー ビ ス な ど の 充 実 (ホ ー ム)	入 居 支 援 、 住 宅 改 造 の た め の 支 援 、 住 宅 の 整 備	障 が い 者 に 配 慮 さ れ た 住 宅 の 支 援 、 住 宅 の 整 備	促 進 、 ユ ニ バ ー サ ル デ ザ イ ン ※ の	交 通 機 関 や 建 物 な ど の バ リ ア ー フ の	働 き や す い 環 境 づ く り	地 域 住 民 な ど の 理 解	通 所 施 設 な ど 日 中 活 動 の 場 の 整 備	障 が い 児 の た め の 療 育 ・ 教 育 の 充 実	援 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン に つ い て の 支 援	余 暇 活 動 や 趣 味 を ひ ろ げ る 講 座 な ど の 充 実	権 利 擁 護 や 成 年 後 見 制 度 な ど を 利 用 し や す く す る	ボ ラ ン テ ィ ア 活 動 の 充 実	そ の 他	無 回 答	
【表の見方】 単位=比率(%)																					
全体	440	35.5	33.9	29.1	28.4	25.7	24.3	22.7	22.3	17.3	15.0	14.5	11.6	11.4	9.3	7.3	3.6			26.6	
障 が い 別	身体障がい	350	37.7	32.9	28.0	29.1	27.7	24.9	23.1	20.0	14.3	12.9	12.9	9.4	10.9	6.6	6.6	2.6			26.6
	知的障がい	83	32.5	39.8	38.6	31.3	20.5	21.7	19.3	28.9	27.7	24.1	25.3	18.1	10.8	20.5	4.8	6.0			18.1
	精神障がい	39	38.5	35.9	20.5	28.2	30.8	33.3	28.2	38.5	30.8	20.5	12.8	20.5	17.9	20.5	12.8	7.7			28.2

Ⅲ 自由意見

問 44 町の障がい者福祉の取組みについてご意見・ご要望をお聞かせください。

1. 福祉施設設備 22件

No.	意見	障がい別
1	交通機関をもっと増やしてほしい。あまりにも不便すぎる。	身体
2	利用しやすいグループホームの整備を一日でも早くお願いしたいと思っています。	知的
3	グループホーム、入所施設を増やしてほしい。(入所できるように)	知的
4	障がい者、男女以外で誰でも使えるトイレを作してほしいです。	不明
5	職場で一方的なパワハラでとても困っていた経験がある。中々、障がい者の言い分を聞いてくれる窓口がないのでそういう相談窓口を作してほしい。企業であろうが障がい者を支援する扱いがとてもひどい企業もある弱者がちゃんと意見も言える悪口もいる。	身体
6	障がい者の住みよい街にしてください。	身体・精神
7	町営老人ホームの悪臭(尿のにおい)どうかありませんか。どの老人ホームもいくらか独特の匂いはあるが、これほどひどい所は他にはありません。職員や町当局の感覚を疑います。	身体
8	階段バス(昭和のバス)がいまだにあるのはおかしい。おじいちゃんが乗れない現状を何度も見ている。何とかしてほしい。	身体
9	老人ホーム型の施設。	身体
10	学校を卒業したら仕事につけるのか不安。短期入所とか、グループホームなど生活介護の人でも入れる所があれば良いと思う。	身体・知的
11	グループホーム、入所施設を作してほしい。障がい者が行きやすい病院があれば良いと思う。	身体
12	買い物や病院通いに福祉バスを。到着時刻の間隔を短くするように。交通の不便さが気になります。	身体・知的
13	地域住民に障害を理解してもらう為に、町で講習など行う場を設けてほしい。	精神
14	<ul style="list-style-type: none"> ・フェリーのエレベーター設置の充実。(代船の場合は切符売り場での前告知) ・船会社へ要望・指導等・公衆トイレの設備拡充。(多目的トイレ、おむつ替え等、大人でも使用可能なベッドの設置) ・障がい者用駐車場の充実・改善。(区画が車椅子利用者が車に乗り降りしやすいように横のスペースは広くとっているけど、スロープの場合、前後のスペースが広い方がいい。以前ドラッグストアの駐車場でスロープを出して車椅子を乗降している時に他の駐車する車にスロープを踏まれた事があり事故にもつながる。障がい者用駐車スペース2台分の所へ(健常者)3台並んでい駐車しているのが多くみられ、マナー向上の広告等。) ・一生地域で生活していけるよう、教育・労働・医療等様々な障がい者でも受け入れられるよう施設の拡充。 	身体・知的

Ⅲ 自由意見

No.	意見	障がい別
15	障がい者の人がもっと働ける場所がほしいです。グループホーム、入所施設をもっと増やしてほしいです。親がいなくなったら不安に思っている方々が多いと思います。	精神
16	町民住宅を減らさないでほしい。障がい者が入りづらい。事前に数か月分の家賃を支払うのも苦しい。低所得者、障がい者には厳しいです。	精神
17	今、ひまわりの家に通所していますが、利用者の方も年々増え、部屋数も十分に取れず狭く感じます。(これからも増えることが予想されます。)グループホーム、入所施設、通所施設の充実を進めて頂けるのであれば、災害などに対し、安全性が高く、避難しやすい場所を希望します。	知的
18	障がい者の居場所を広げてほしい。	精神
19	町でも専門的な療育が受けられるようにしてほしいです。特に言葉はよくご心配される保護者の方も多いです。高松まで(5年目)通っていますが、正直、島で療育してもらえるところがほしいとずっと思っています。(以前は島でも数カ月に1回通っていましたが、先生が辞められたので。)	知的
20	港にできた”思いやり駐車場”の場所が移動してすごく使いやすくなって助かります。ありがとうございます。しかし雨の日に一般の方が止めていて屋根があるところにスロープを出せず雨に濡れることがあります。管理が難しいと思いますが、島に事業所、ショート先がないので困っています。	身体・知的
21	土庄港おもいやり駐車場が設置されて大変助かっています。ありがとうございました。	身体
22	町営住宅に住んでいる方で、車椅子が必要だが階段がある為、困っている方がいます。スロープ設置をお願いします。	知的・精神

2. 福祉サービス、施策について 8件

No.	意見	障がい別
1	手話などの支援(講座などの充実)	身体
2	障害者手帳を出すのが恥ずかしい。後ろめたい。もっと簡素化してほしい。手帳ではなくカードとか。	身体・精神
3	年金生活の為、お金のかからない方法を願いたい。	身体・知的・精神
4	昨年手術後、役所の方が訪問してくださいましたが頭から介護は駄目、あなたは支援だと言われました。家族がいるからだと言われましたが、そういう方もたくさん介護で入所しています。何故でしょうか？唯一頭が大丈夫だからそうですが、でも体中が痛みます。	身体
5	障がい者への福祉の取り組みが改良の改善されていない。10年1日の如く、前進が無い。(「…福祉便覧」を見よ)「福祉」を恵み与えてやるもの…という、次元の低い感覚、観念から脱却できていないのではないか。障がい者自身にも「お恵み」を受けている…という観念が抜けていないのだが。	身体
6	おじさんが死んで空き家になった町営住宅の一軒家に障がい者のたちばなに住んでいる親戚や内海に住んでいるいとこのおばちゃんらの家族と一緒に暮らしてもいい制度を役場の人が相談できるようにしてもらいたいです。他の人らには誰にも貸さないでほしい。	精神

Ⅲ 自由意見

No.	意見	障がい別
7	障害者手帳を持っていないので介護タクシーに乗れない事。タクシーでは家の近くに入れないこと。内科的な病気持ちでは手帳は駄目でしょうか。	不明
8	自分は生活支援センターきらの相談支援専門長の人と、2回あったのですが、自分が働ける所はないと言われてショックでした。ハローワーク(企業)へ行く気分になりません。相談する意味がありません。この先、収入がないので生活に困っています。	身体

3. 情報提供 8件

No.	意見	障がい別
1	障がい者の差別については、土庄町には条例があるので、町民にもっと理解してもらうため周知していくべきだと思う。	身体
2	2年後に池田に養護学校が出来ると聞きましたが、詳しいことが分からないので教えてもらいたいです。	知的
3	もっとわかりやすく説明。専門用語使わないで。	知的
4	福祉の情報を早く流してほしい。	身体
5	あまり解っていないので情報誌などがあると良いと思う。	身体
6	町の福祉の取組をわかりやすく伝えるように。	身体
7	プライバシーの保護。	身体
8	申請を本人(家族)がすれば利用可能な福祉ではなく医療、年金など全ての情報を町サイドから知らせてほしい。10年以上(18年)恩恵を受けられたであろう控除や医療費減免など知らなかった。	身体